

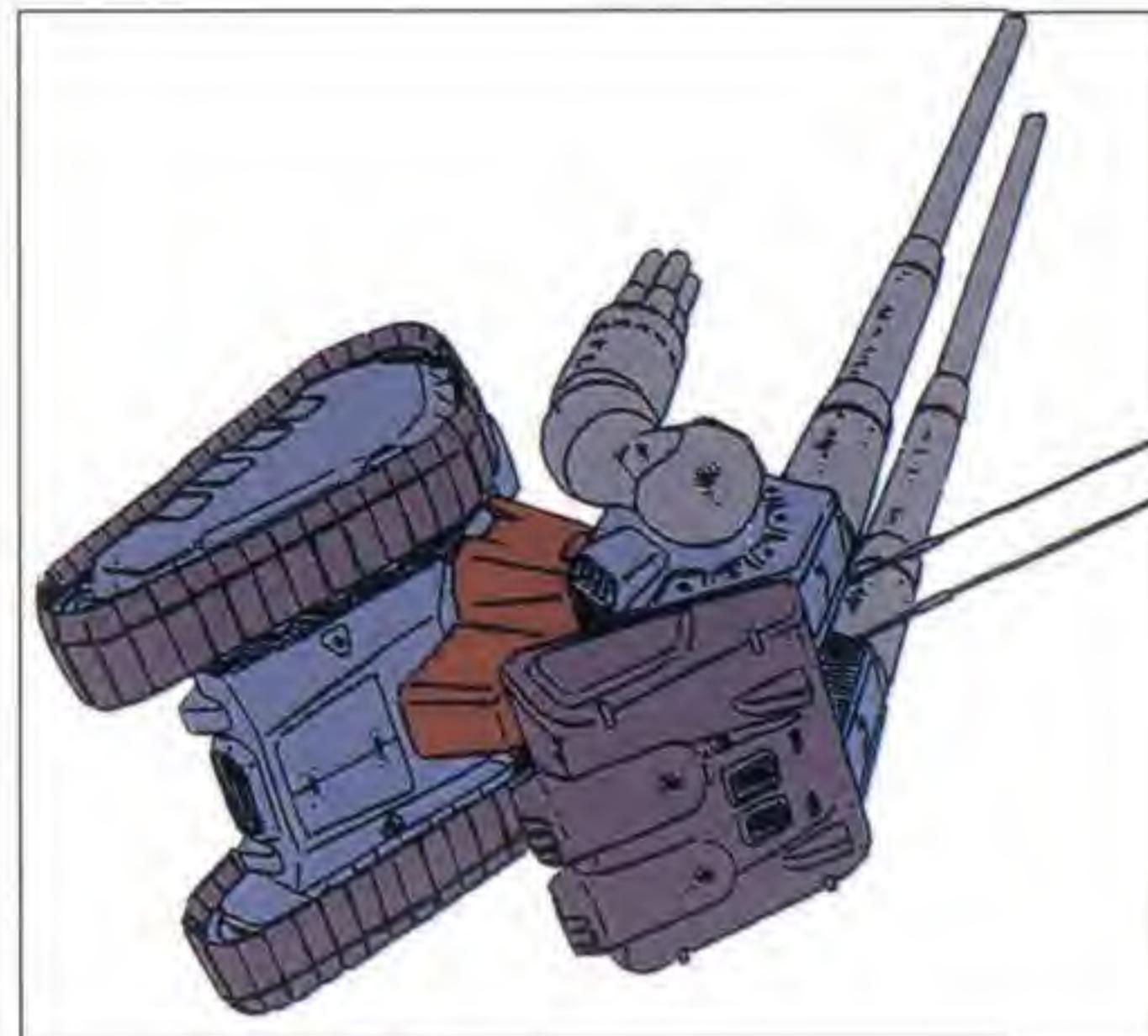
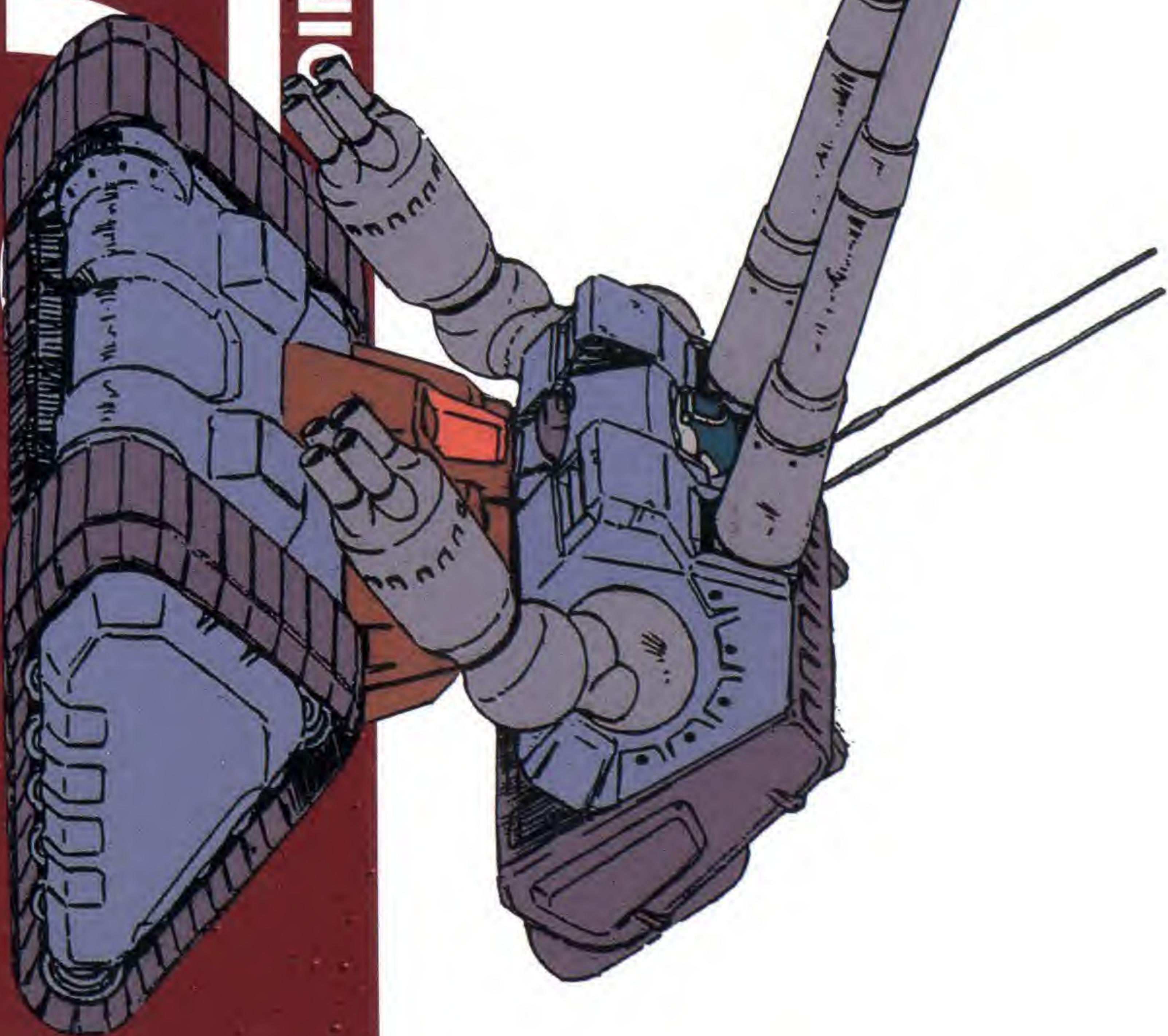
# GUNDAM MECHANICS II

## ガンダムメカニクス2

HOVER TRUCK  
MS-001 ZAKU FORCES  
MS-002 ZAKU II  
MS-003 ZAKU MARINE  
MS-004 ZAKU HIGHMO  
MS-005 ZAKU MARK  
MS-006 GOUF CANNON  
MS-007 GOUF FLIGHT TYPE  
MS-008 GOUF FLIGHT TYPE  
MS-11 ACT ZAKU  
VMS-100 ZAKU  
MS-210 GOUF  
R-00-04 GOUF VERA TETRA  
APB-001  
APB-002  
MAX-00 ALDORN  
PA-001  
SA-001 MAL-MALDO  
—  
—  
DOPP  
—  
DODAR

量産型ガンタンク

# GUNDAM MECHANIC



# RX-75

## 量産型ガンタンク

機械番号：機械番号145

製造：連邦軍

全高：機頭高：15.0 / 15.0m

本体：全重重量：56.0 / 59.0t

ジェットレーター出力：15.0kW

センサー：初期半径：6,000m

■「RX-75」により最初に開拓された  
戦闘タイプ。

機械に入手したジョン初代ビルスー  
ツ「ヤク」の所持料金情報を元に開拓  
された戦闘機をもとに、機械的に生産  
された量産機は対戦車砲などに実績  
積み入れた。歩行システムが開拓する  
前に造られた機械であるため、頭ではな  
くリヤビツによって動作する。また、マ  
ニュピラーーを使いたいため、人型戦  
闘としての性能は全く無むというが、  
戦車に近い機体となっている。

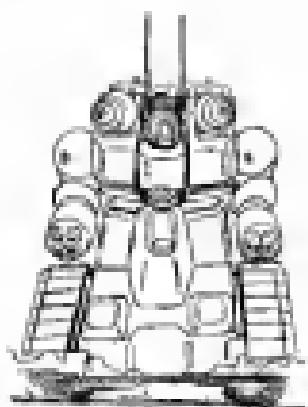
このガンタンク量産型は、ヨスのか  
かるコアプロットシステムを廃したため、  
パイロットの生存率や戦闘データ回収  
率は低いものの、上手く機能される  
ことが可能となっている。また、パックパ  
ックに搭載されると大型の自動回収装  
備システムによって、初期配給のより速  
い回収が可能となっている。

機械番号：機械番号145

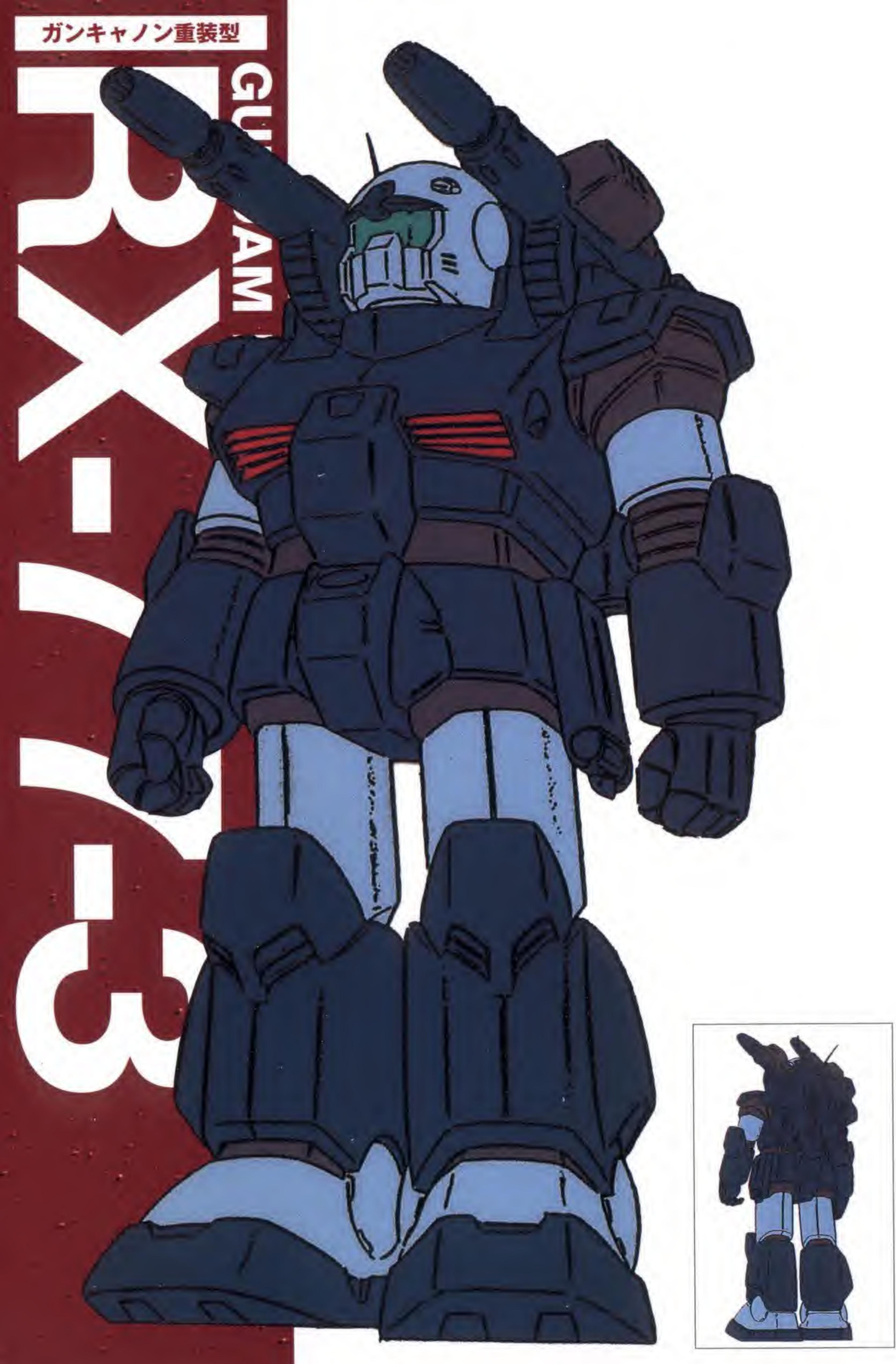
120mm戦闘用キャノン砲



主砲用ガンランチャー



ガンキャノン重装型



# RX-77-3

## ガンキャノン量産型

機械分類：戦闘機械MS

属性：連携型

全高：機械高：18.1 / 17.5m

本体・全機重量：約8.6 / 79.1t

ジェットレーダ出力：1,200kw

スラスター推進力：各2,200kg

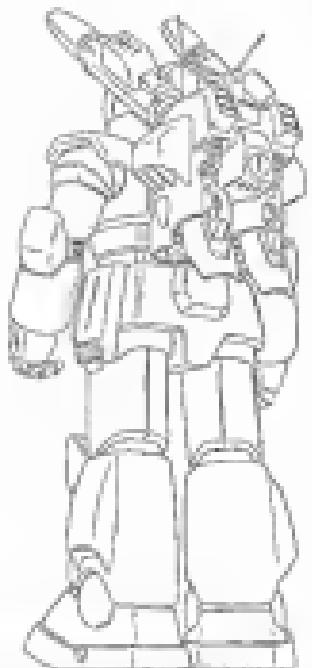
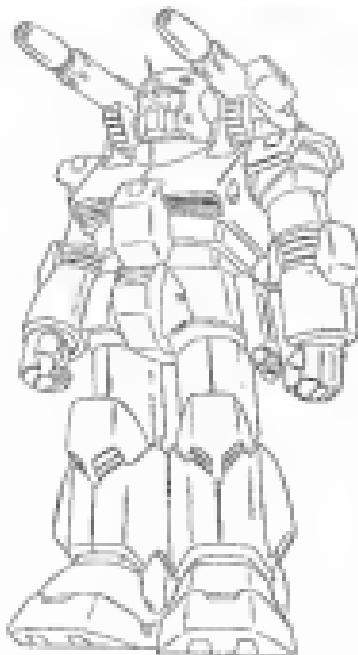
センサー初期半径：各1,000m

■ RX-77-3ガンキャノン、3機連携を実現可能を受け、その戦闘でそれを活用して機動力を高めるべく開発されたのが「RX-77-3ガンキャノン量産型」である。機体の基本構造はRX-77-3を踏襲し、主兵装を後退式のビームキャノン搭載からビームキャノンキャノンに変換している。さらに左腕部にはビームキャノン用のラップハンドルの右下に配置があるものの、右手腕部に予想された封筒型盾では強度を実現するものと判断された。

しかし、生産コストの高さと設備問題により、ジャッローで装備が空置されただとされた。一年戦争後はジャッローでテストが続いた。その結果ビームキャノンを搭載して「RX-77-3」として開発している。

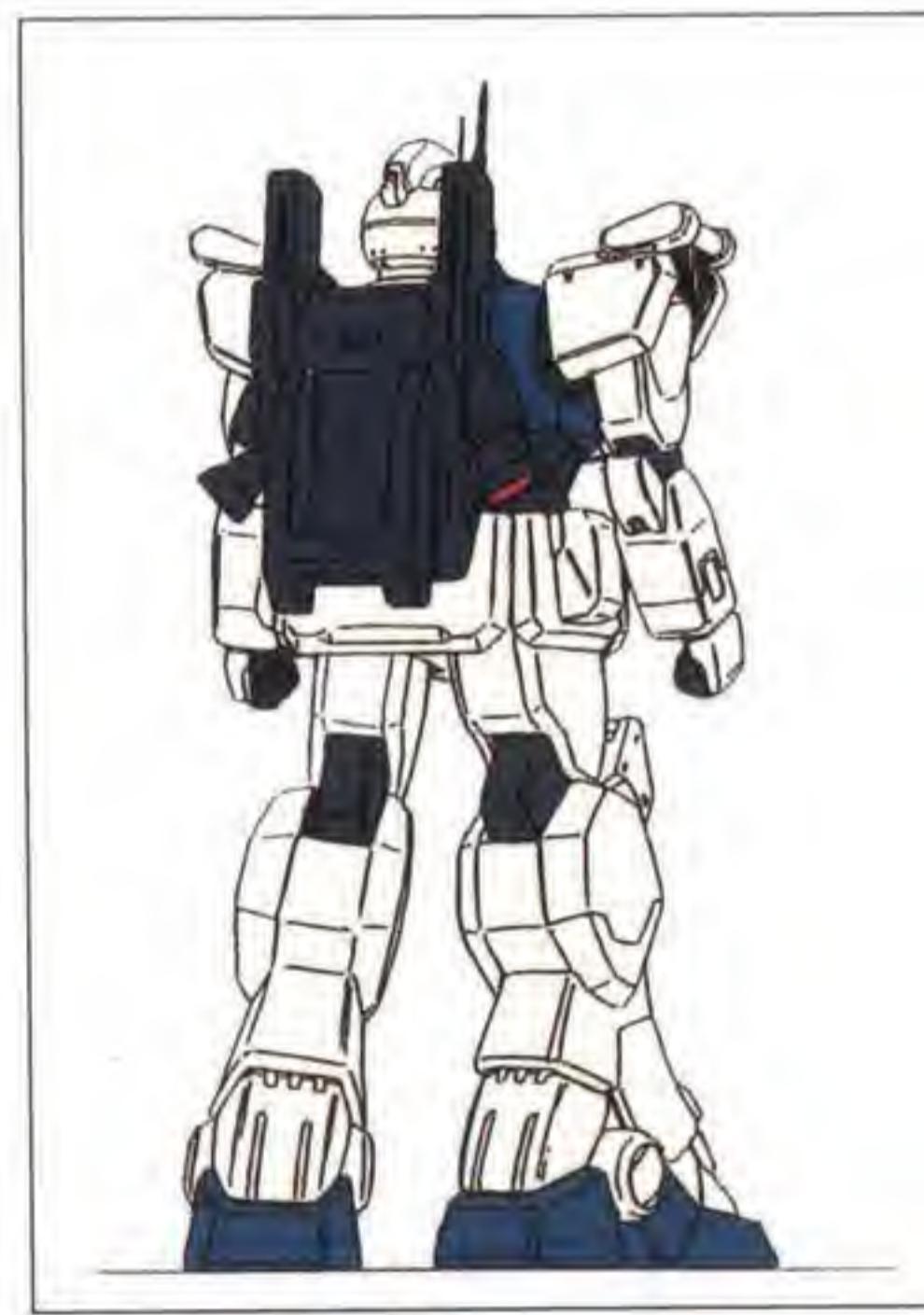
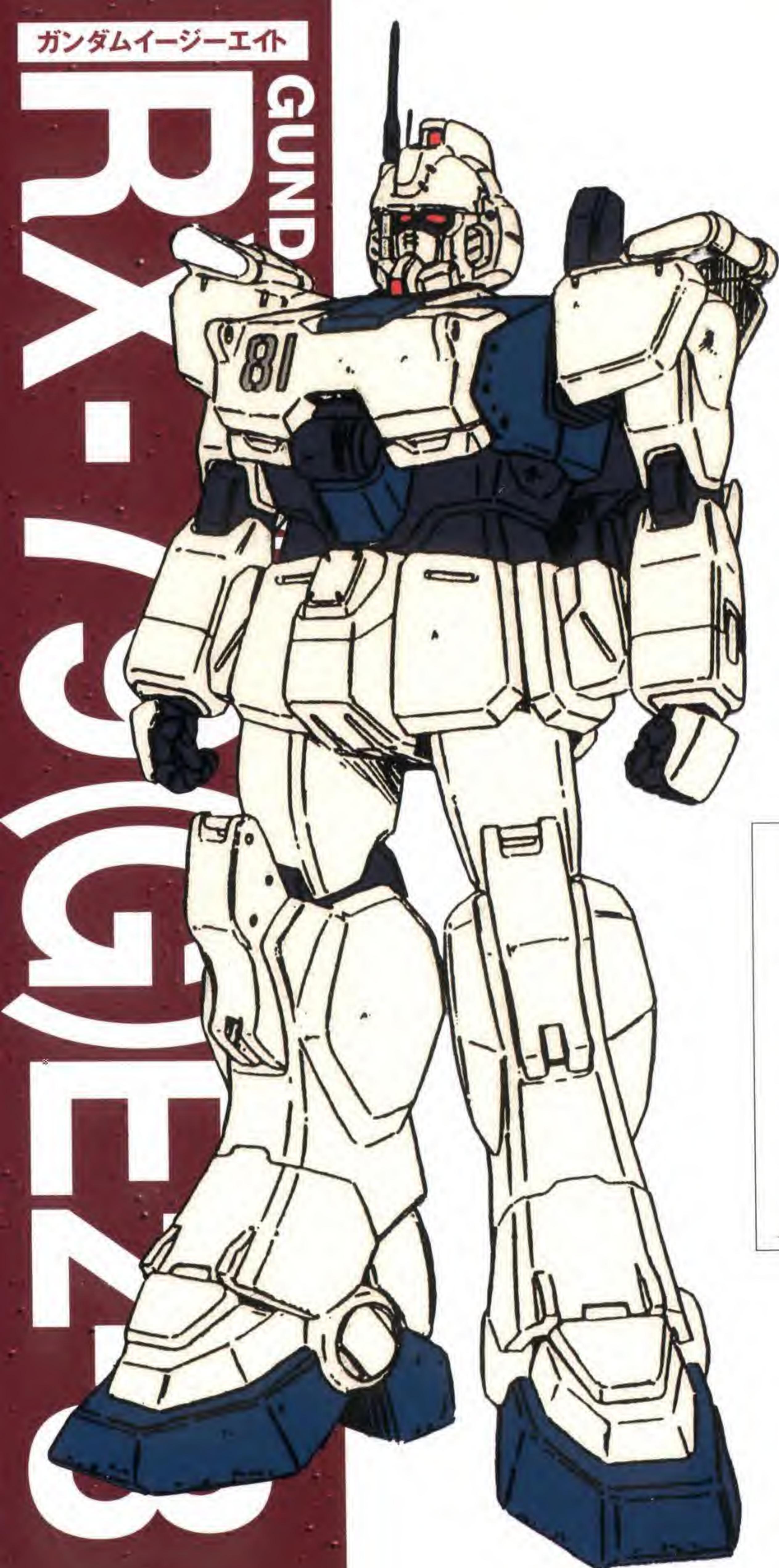
■ビームキャノン・パルスショットアモルト

■封筒盾を正 ガンダム



60mmパルス

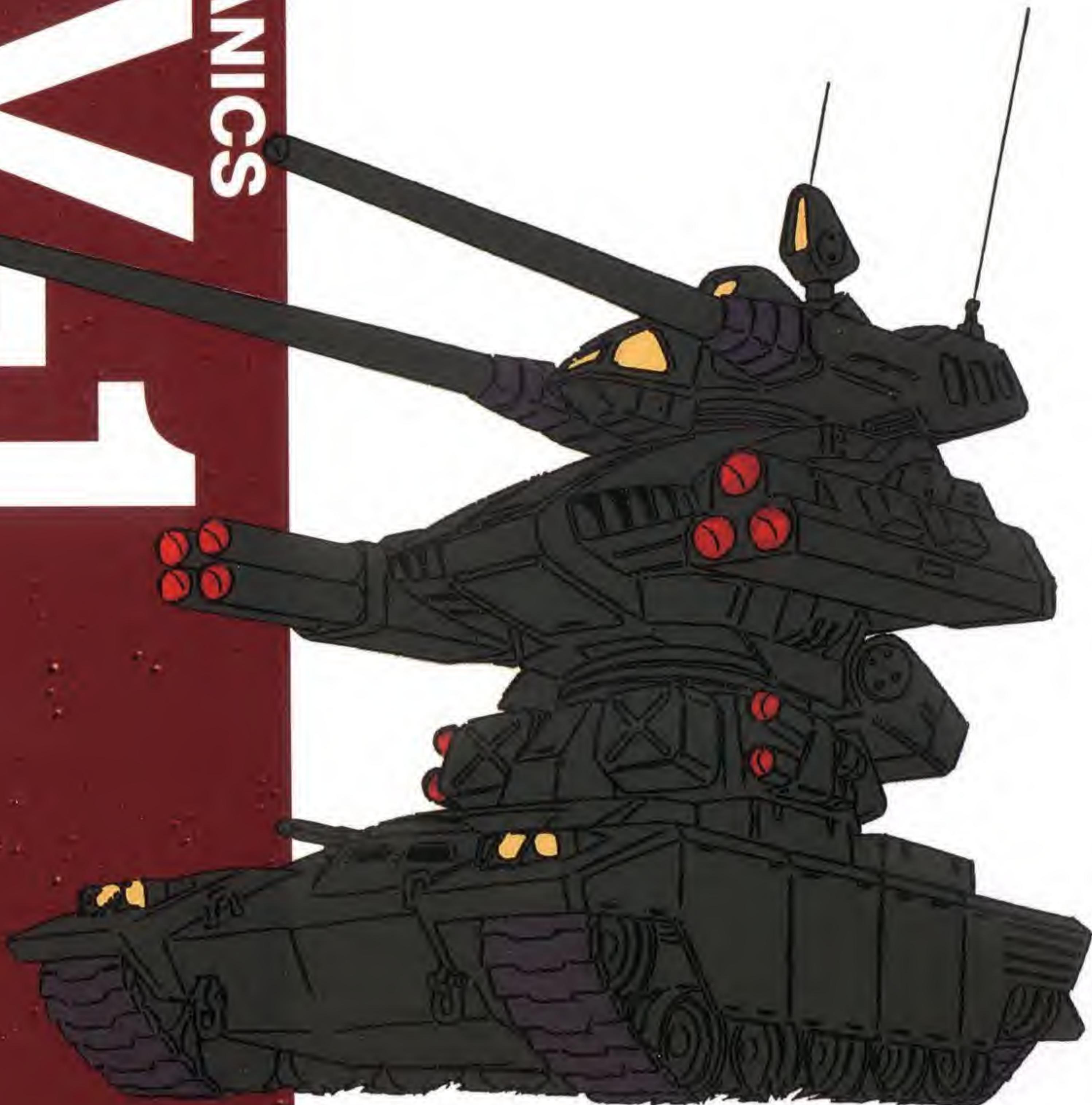
ガンダムイージーエイト





ガンタンクⅡ

# GUNDAM MECHANICS



# RMV-1 ガンタンクⅡ

機種分類：機械化歩兵用MS

製造：道洋軍

全高：機械高：16.9m / 15.2m

本体・主砲重量：約50t / 123.7t

ジェットレーベル出力：21.8kW

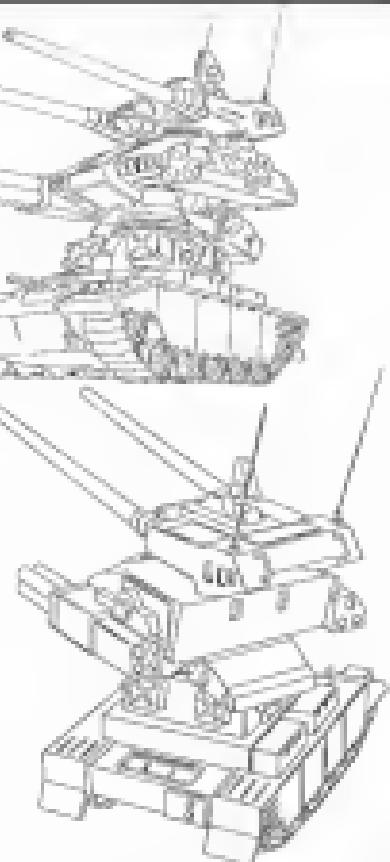
センサー・装備単価：60,000m

車いじりでの運用には問題の残る性能である「RMV-1」であったが、既にガチャタビ子であることからこの性能の高さは評価された。その性能面と道洋機械開発能力を活かし、「RMV-750ガンタンクⅡ型」が改良改修用に導入された時に對し、この「RMV-1ガンタンクⅡ」は開発費用で廃棄された。

「RMV-1」は、MSとしての機能割りなどすべて弱めとし、機械化歩兵としての機能を強化して開発されている。そのため、120mm近接戦キルバム砲M2、4連装ロケットランチャーM1、高爆破モードランチャーM1、40mm榴弾砲M1と、固定武装が多い開発され、車両として開発前と並んで2名を必要とする。

「RMV-1」は、一度機械歩兵が生産され、ジャブローをはじめとする歩兵機械に配備された。

車いじりスチーパー・ワエーカンアラモ手形  
機械歩兵士とガンダム



3連装ミサイルランチャー

120mm近接戦キルバム砲



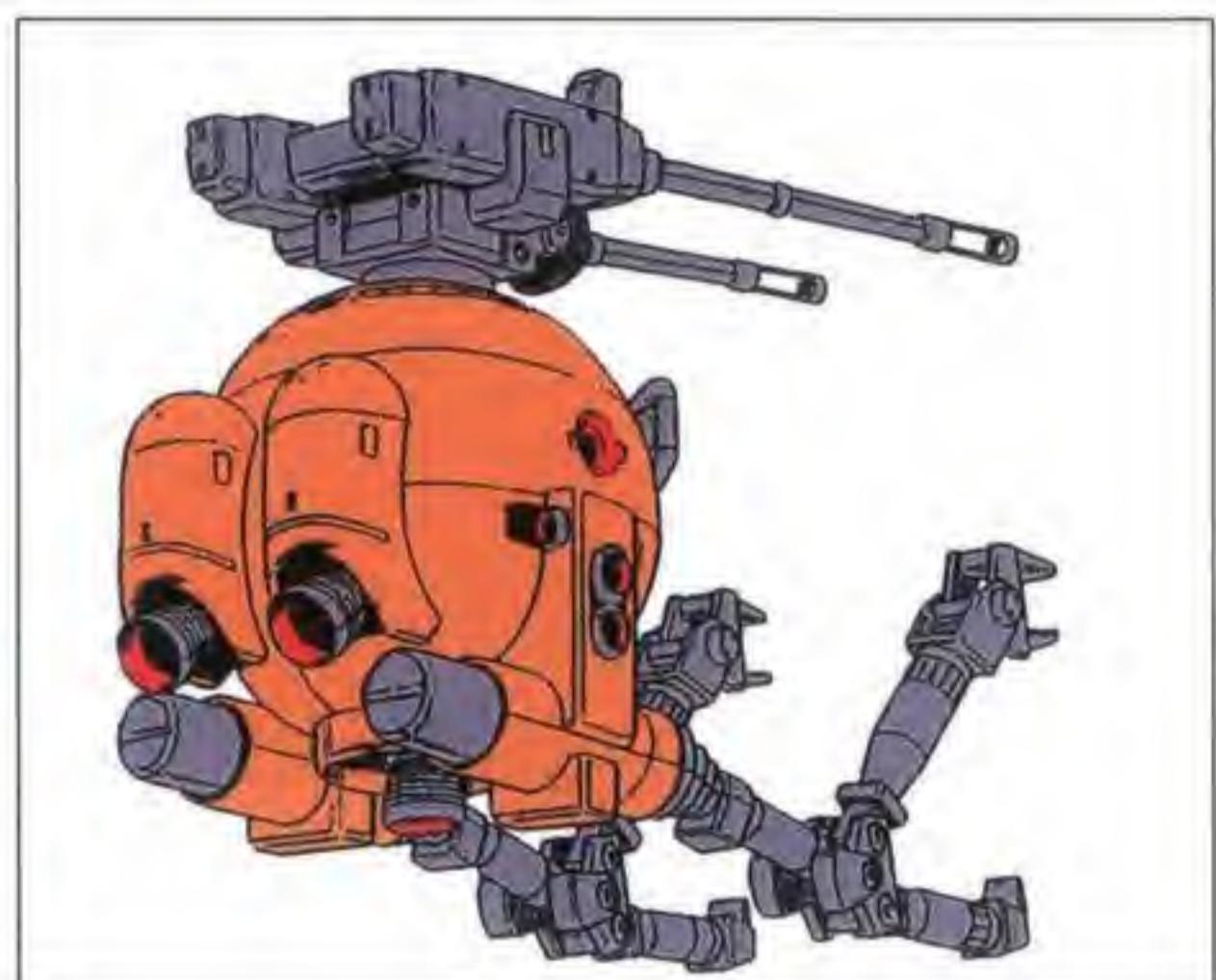
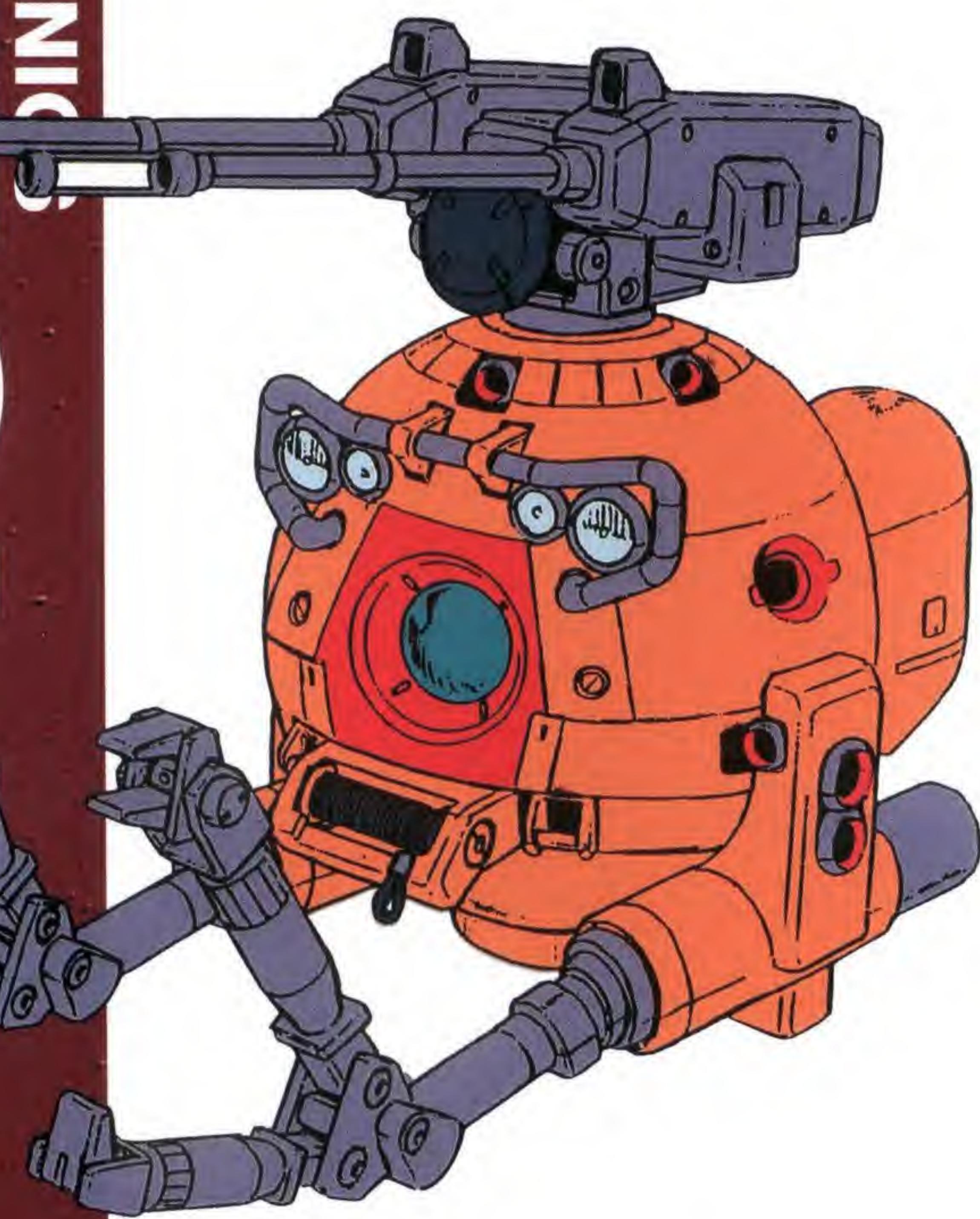
4連装ロケットランチャー



2連装  
スモーク  
ディスクチャージャー



ボール



# RB-79K ホール

機種分類：モビルポッド

製造：連邦軍

全高：12.5m

本体・主砲重量：17.2～25.0t

ジェネレータ出力：400kW

スラスター推進力：24,000kg

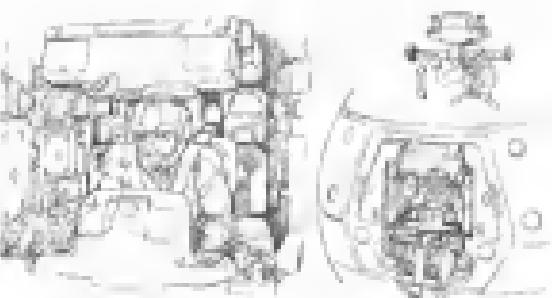
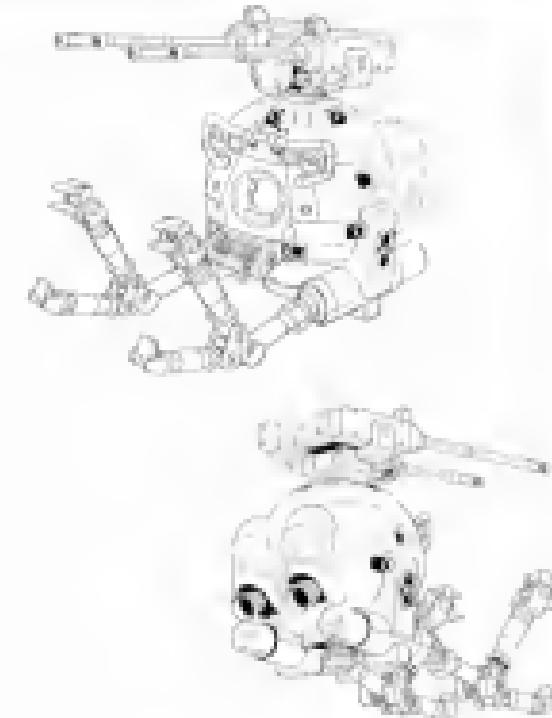
センサー活動半径：4,000m

『M作戦』によって連邦MSが空襲するまでの間、ジョン軍のMSに對応するため、その場しのぎとして連邦軍が宇宙開拓軍ポッド「SP-901」を改修して造った戦闘用ポッド。

その戦闘能力は強く、連邦軍のパイロットからみると性能が良いなって。大砲を装備し大面積面積を、重量は約「100t PGJム」で構成は、その重量でカビとして使用された。

標準武装として「RB-79」用の120mmキャノンを装備したものが装備されているが、實際によつては他の武器が装備されていた機体もあった。「RB-79K」は、宇宙開拓軍に配備されていたもので、武装として180mmキャノン、他にライヤー・ランチャーや大型マニピュレーターを装備している。

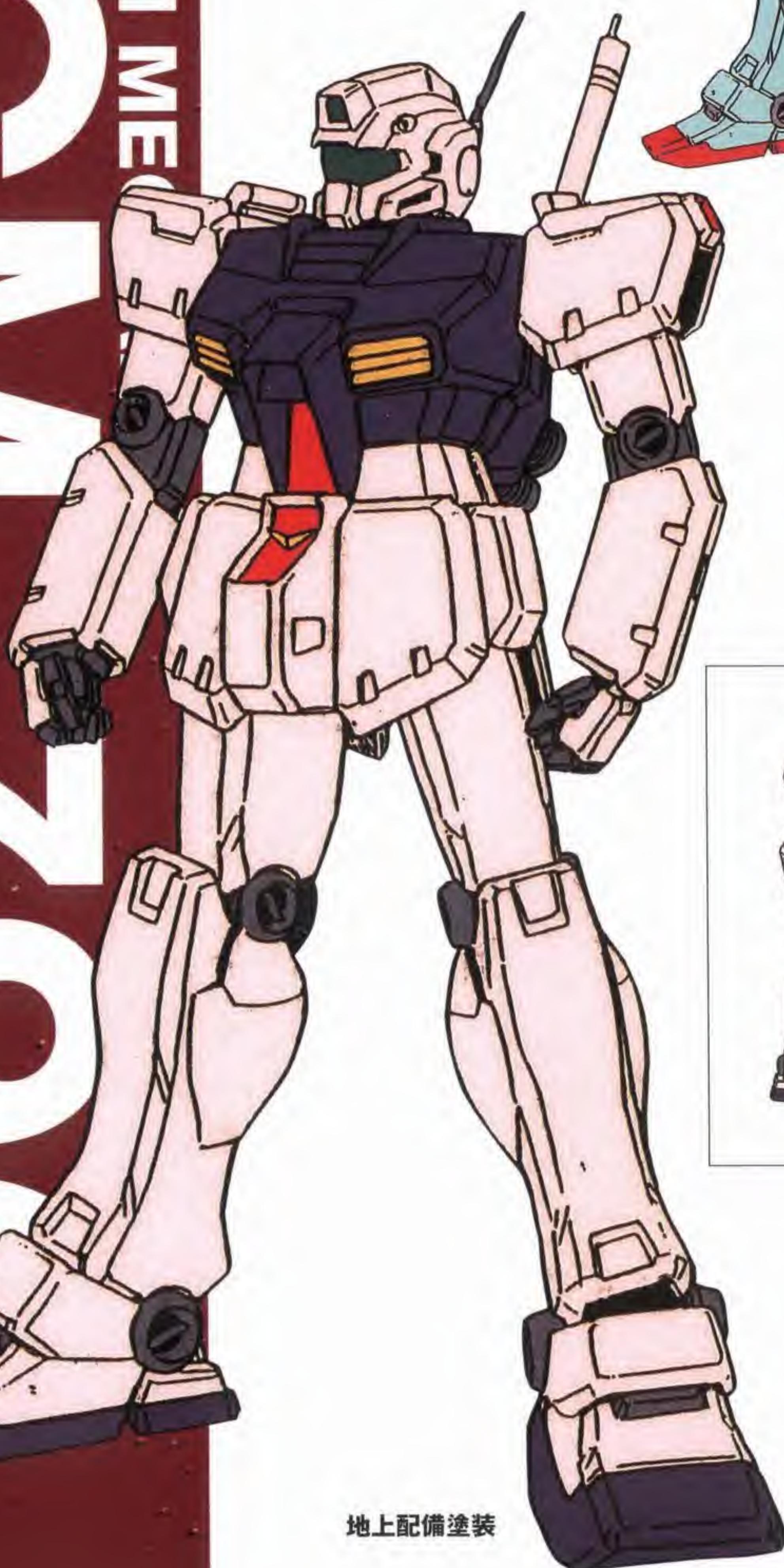
機動戦士ガンダム／GUNDAM



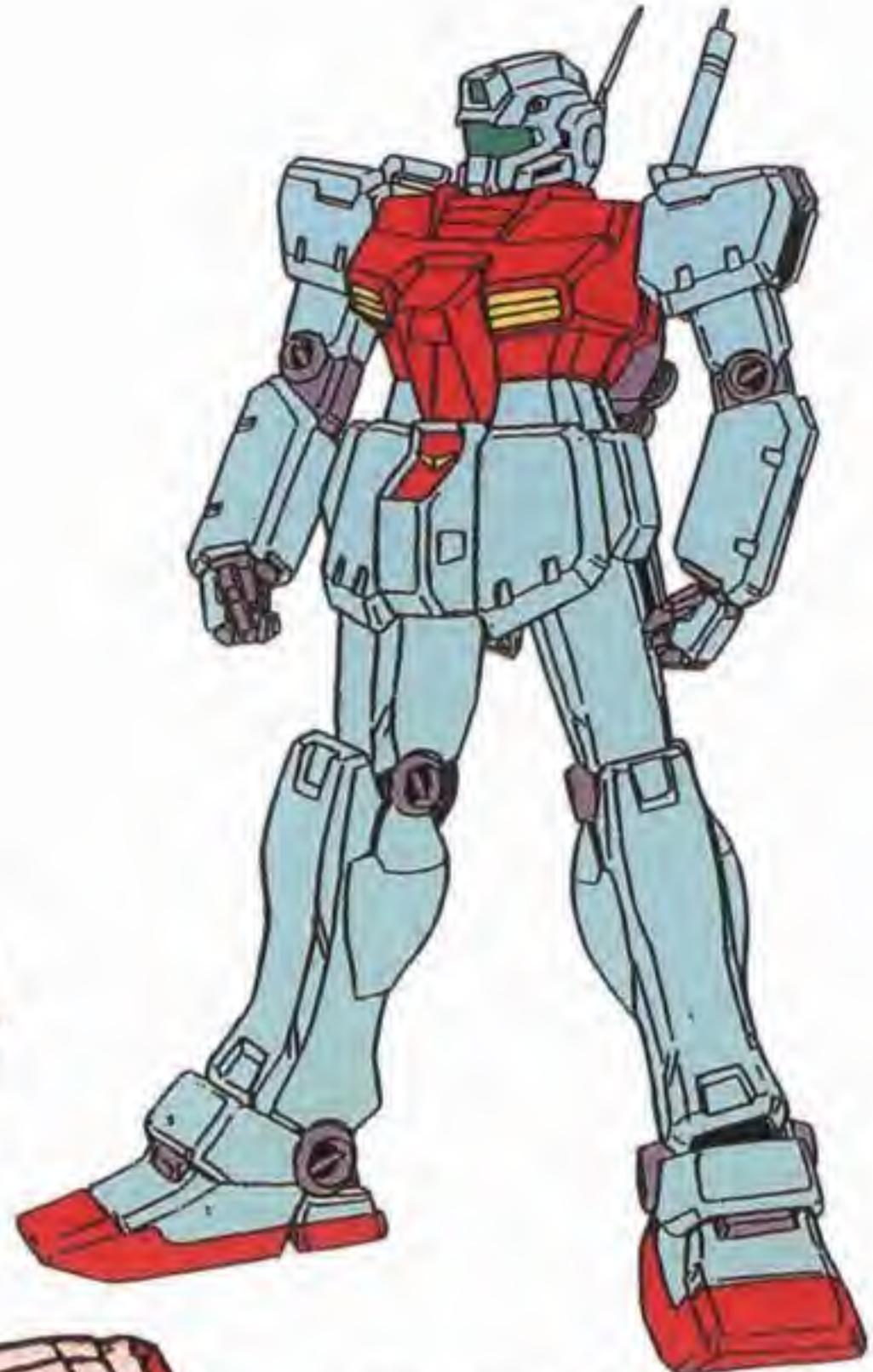
ジム改



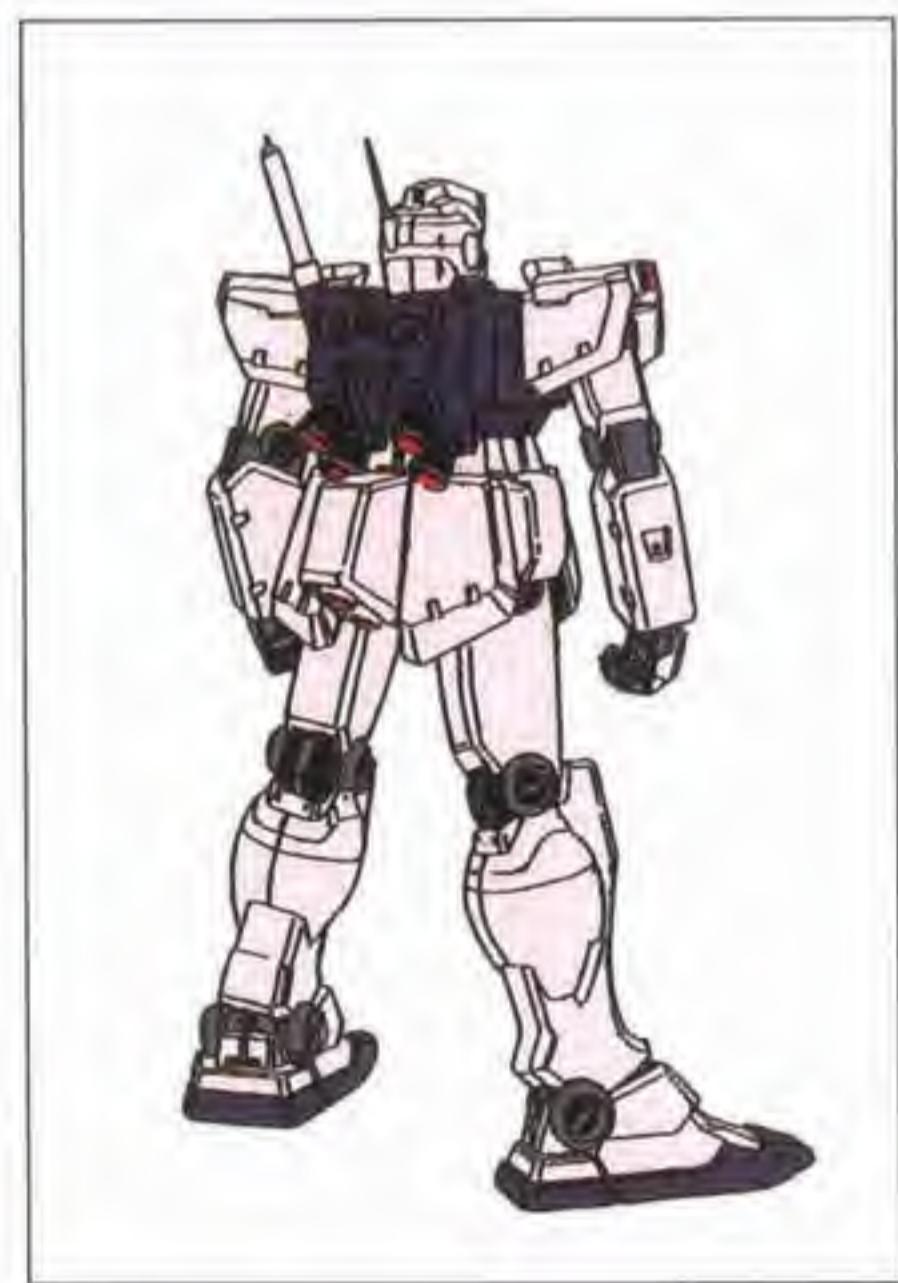
GUNDAM ME



地上配備塗装



宇宙配備塗装



# RGM-79C ジム改

機種分類：汎用MS

開発：連邦軍

全高：頭頂高：18.5 18.0m

本体・全重重量：41.2 / 58.0t

ジェネレーター出力：1,250kw

スラスター推進力：各7,450kg

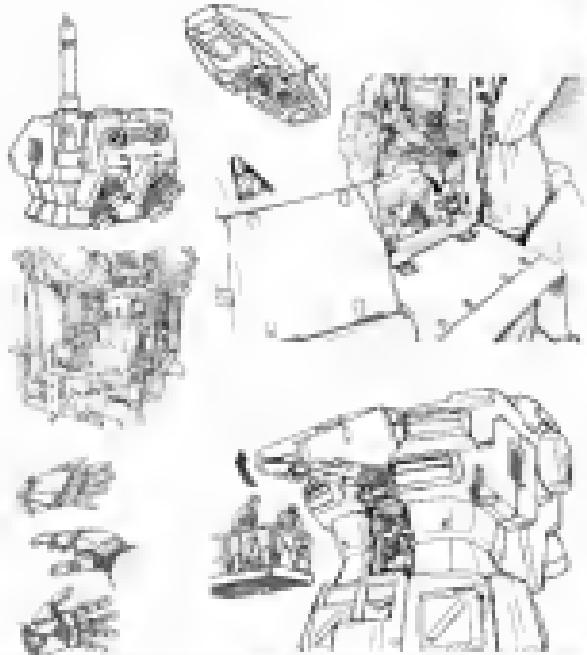
第一回改良時にバージョンアップされた「RGM-79Cジム」の改良機関型。

「ジム改シド」や「スティンバーカム」をいい機体はジムを改良・強化した、いわば上級機だが、この「RGM-79C」はあくまでも量産機であり、ひょそ0083年の時点ではジムの機動ラインはすべてこの「C型」となっている。

ジェネレータは以前のものだが、スラスターの推進力と機体の運動性能が若干強化されている。アクセルと油圧回路の性能がいいといつて設計を受けたジムだが、この改良によりそういった問題は改善された。

このあと、「RGM-79Cジム」が量産するまでの期間、ジム改は連邦軍の主力MSとして運用されている。

機動戦士ガンダム  
0083スラスターストメモリー



90mmマシンガン



360mmバズーカ



60mm  
ガトリング

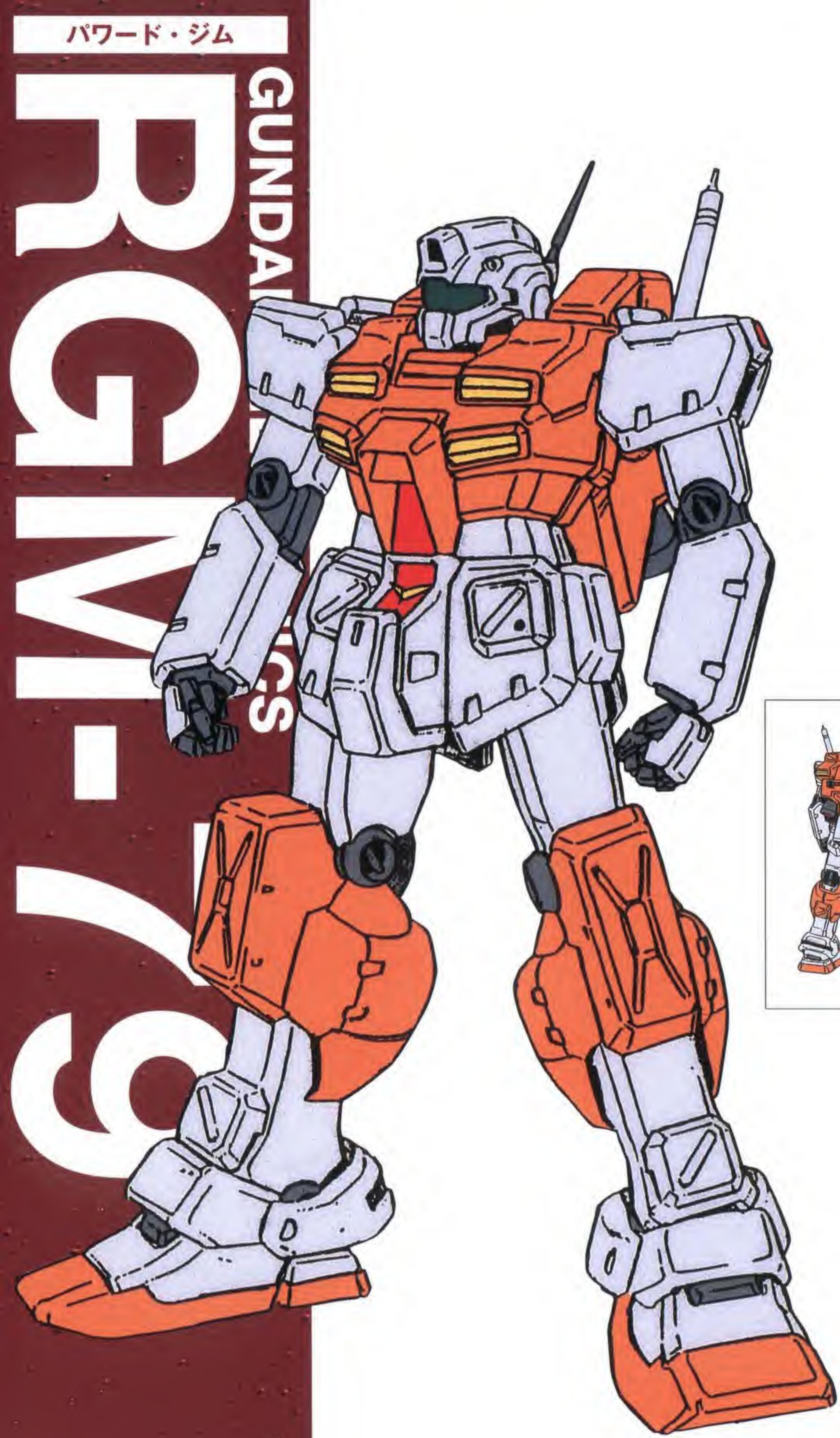


シールド

ビームサーベル

パワード・ジム

GUNDAM



# RGM-79

## パワード・ジム

機動兵器：アストラムG

属性：連携型

全高：頭頂高：185.5 / 180.0m

全長：全幅：41.2 / 58.0m

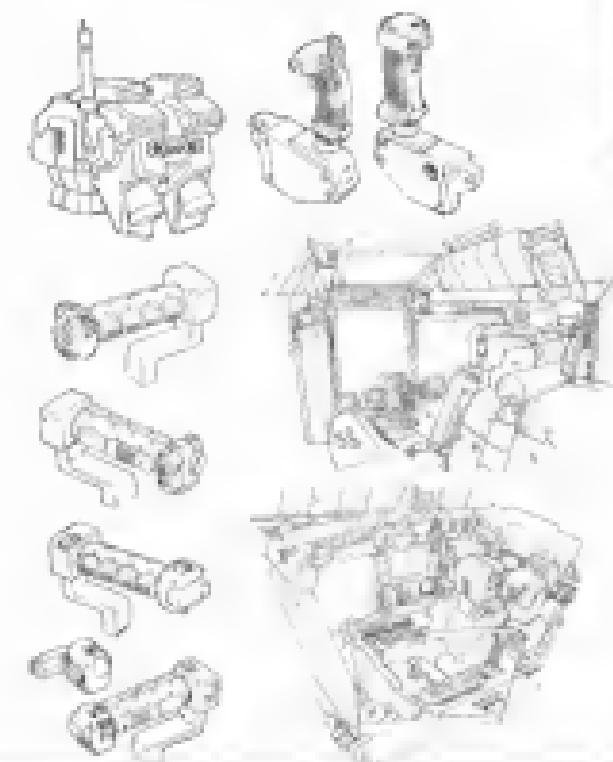
ジェットエンジン出力：1,250kw

スラスター総出力：57,480kw

センサー有効半径：6,000m

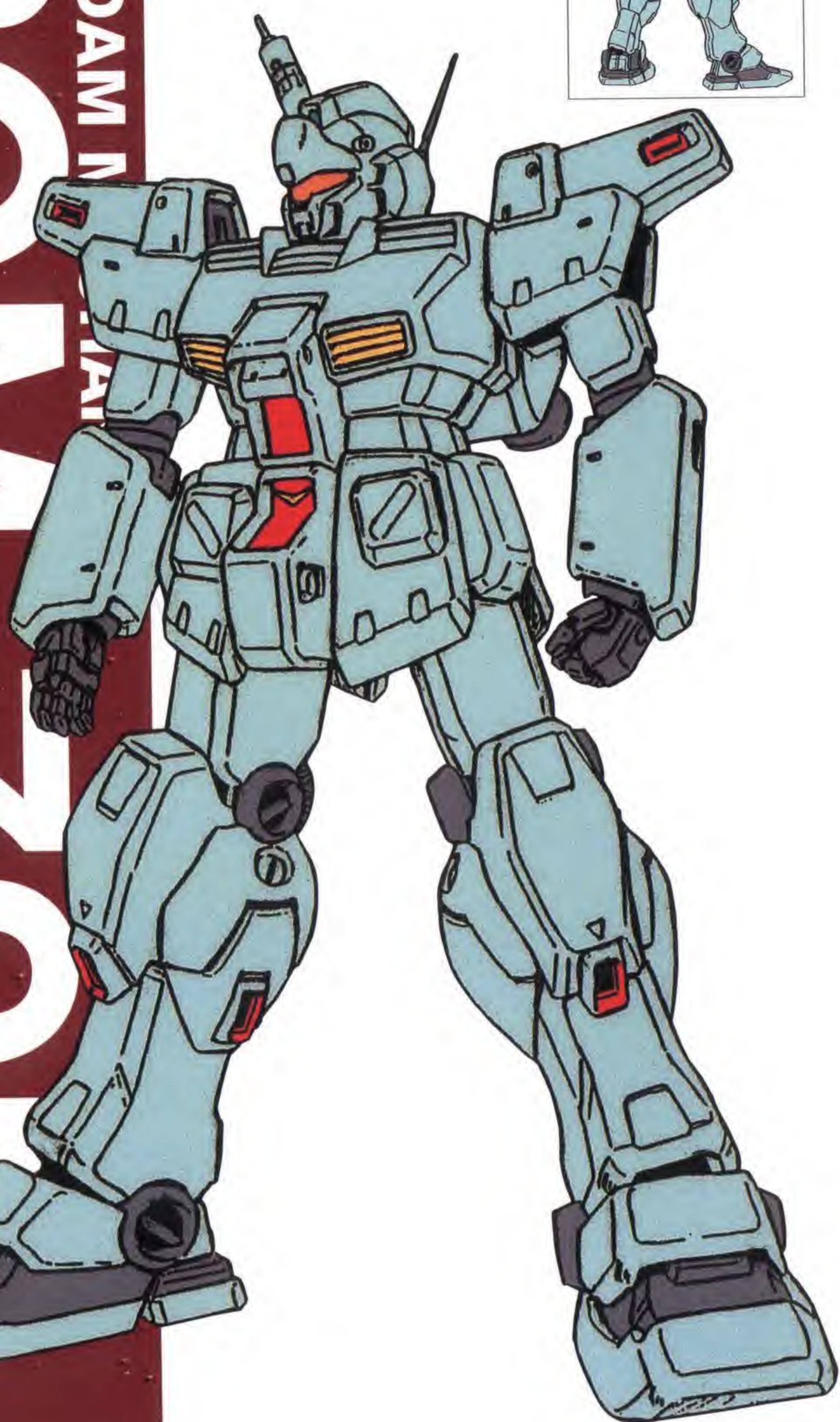
機動兵器アストラムGの「パワード・ジム」は単体の  
隊士番号を残している。これは、この機体がガンダムシリーズ開拓のため  
のマーベルアストラムからであり、オレンジ  
とホワイトという機体色もアストラムであ  
ることを示している。「RGM-79G」をベー  
スとした機体には、ミラスラー能力が実  
現に引き上げられた「パワード・ジム」  
「パワード・ジム」これは「パワード・ジム」という  
名称のちとなりた。頭部に強化された  
ショットアッパーが装備されている。  
これらは頭上での機動性向上を図って  
装備されたものであり、ここで示された  
データは「RGM-79G」の能力下限値に  
アッパーが加えられた。頭部であるジムの  
機体設計上で規定されていない「アーヴ  
ニア」のため、追加された装備の影響  
ユニットの外観に反映している。

頭部強化ガンダム  
0083スタートメモリ



ジム・カスタム

GUNDAM



# RGM-79N ジム・カスタム



機種分類：汎用M級

製造：連邦軍

全高：頭頂部：18.4m / 18.6m

全長：全機合計：42.0 / 57.0m

ジェネレーター出力：1,420kW

スラスター推進力：67,480kg

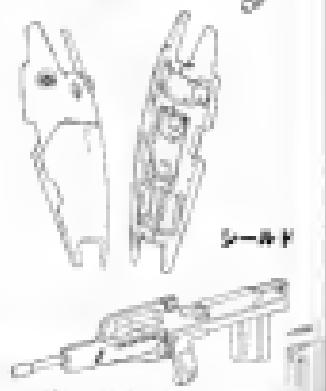
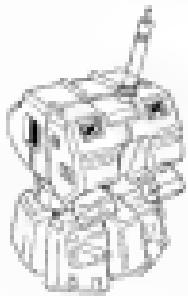
■エースパイロットとして登場されたジムの機動戦士形である。

一度機動戦士用、アオン軍の機動戦士として設計された結果、各種の機動M級の開発に着手した。この「ジムカスタム」は、その後も手を離れた機動戦士を持つにいたった機体である。「スナイパーカスタム」のよう、機甲や武装を強化するのではなく、あくまでドータルの機動性能の向上が図られている。機体各部に装備された装備制御パニアによくない、運動性を活用すれば、ガンダムタイプ込みのショルダーロボによって、機動ビーム砲も武器として使用ことができる。

ガンダムタイプを抜けば、最高水準の機動性能を持つ機体といえる。座席、座席コスツガ独立して運用範囲が広いものの、駆動性能は強度に少ない。

機動戦士ガンダム0083

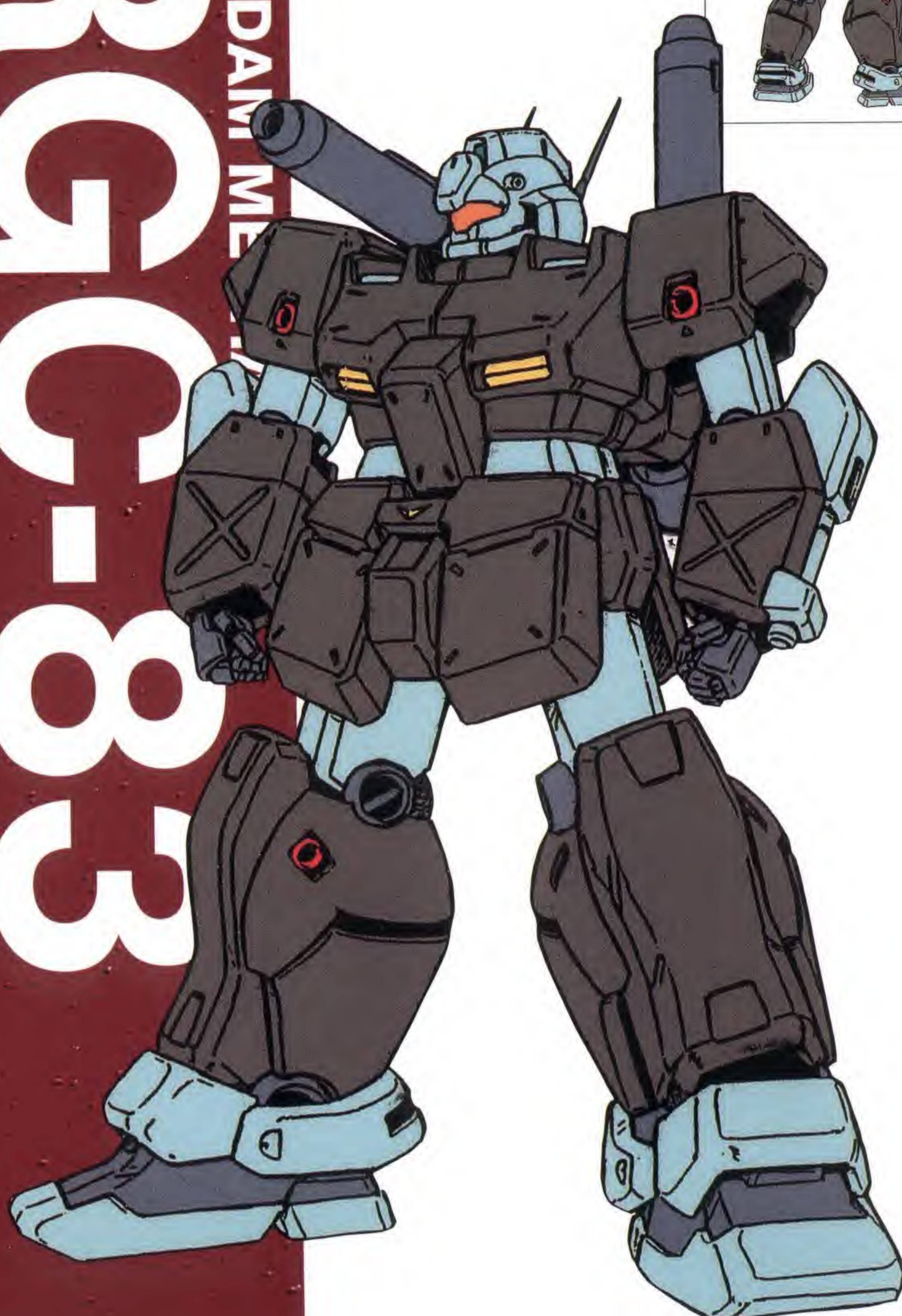
スカーフィストメモリー



ジム・キャノンII

# ジムキャノンII

## GUNDAM



# RGC-83

## ジム・キャノンII

機種分類：駆逐戦闘M3

駆逐：連携駆逐

全高：機高高：20.0 18.0m

連体：全高重量：47.3 46.9t

ショルダーホルダ：1,420mm

スラスター推進力：50,400kg

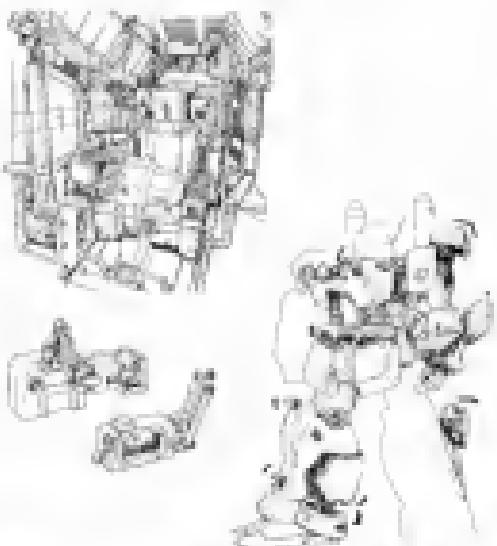
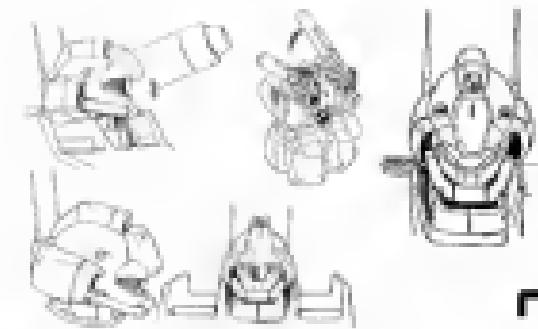


機種名が見送られた「RGC-79ジムキャノン」の改良型機体。改名と共に、機体の外、その機体コンセプトは「RGC-79ジムキャノン」に近い構造として設計されており、面影は名前だけを除いて全くない。

高出力のショルダーホルダを搭載したことにより、中距離駆逐用兵器としてビームキャノン2門の装備を可能としている。装甲にはRGC-79時代のアーマーコンセプトを受け、中距離駆逐用に最適と再考されたチャバムアーマーコンセプトが採用された。火力・装備の強化が大幅に強化された機体であるが、重量増加による機動性の低下は否認めない。

ジムカスター開発、この機体も一年戦争後に開発されたもので、生産数は非常に少ない。

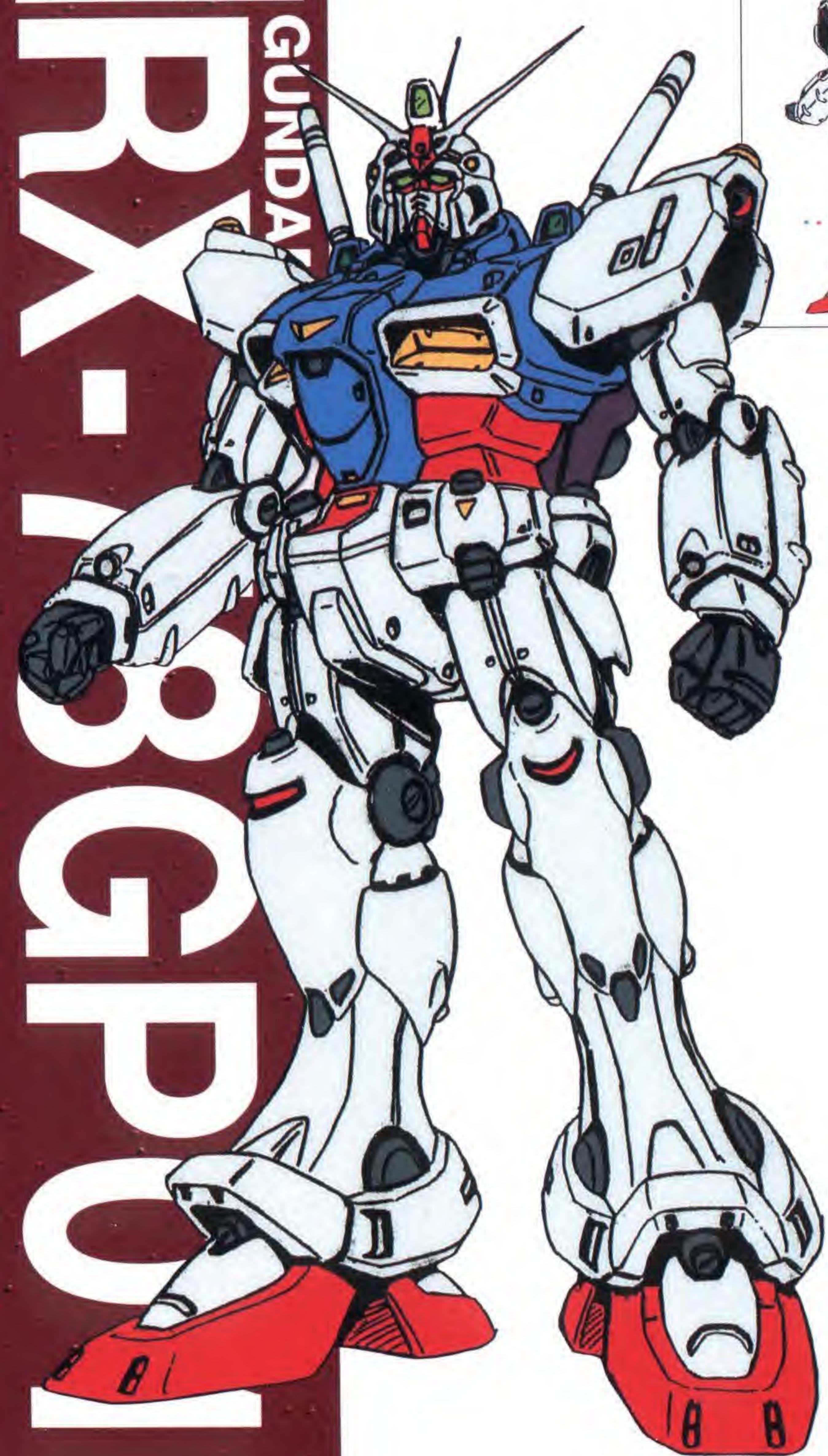
### 機関銃士ガントルムGODDEスラスター・アームモーター



### ジム・ライフル



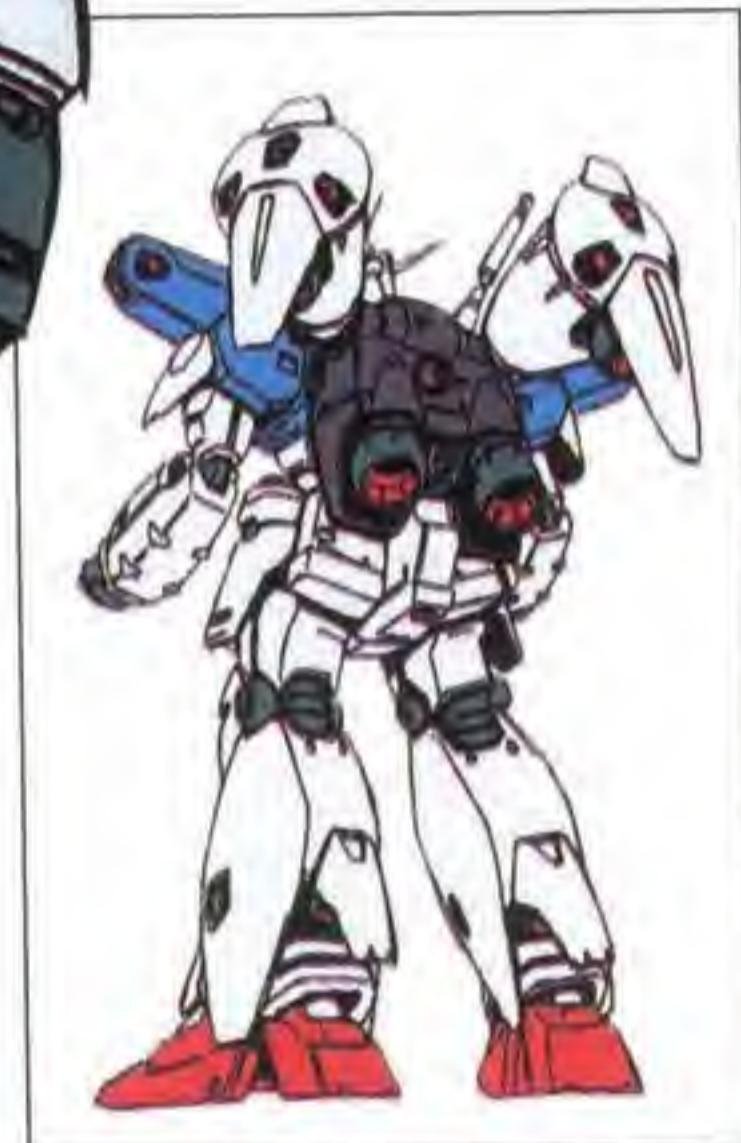
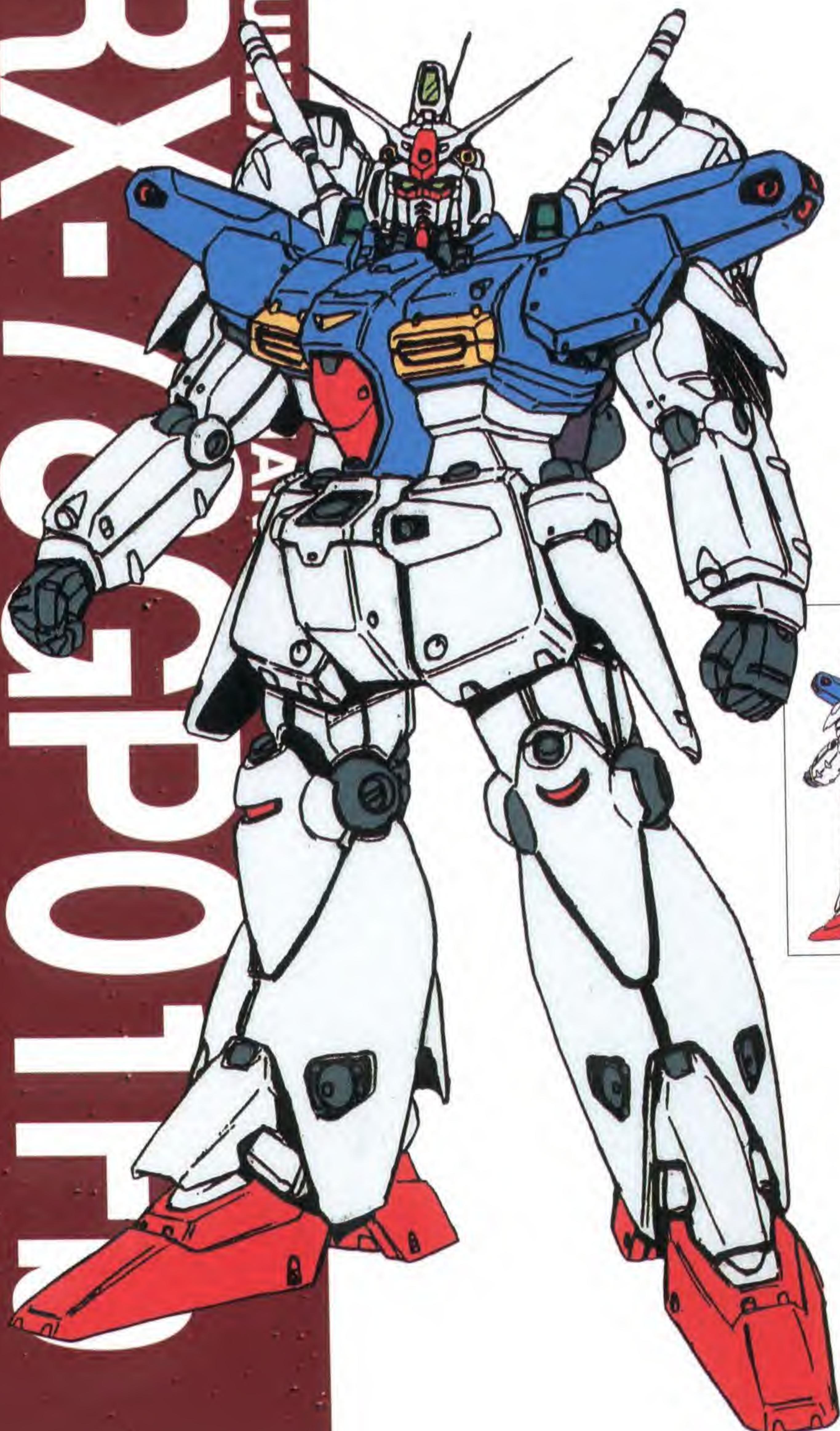
ガンダム試作 1 号機





ガンダム試作1号機フルバーニアン

試作1号機  
フルバーニアン



# RX-78GP01Fb

ガンダムGP01の爆破バーニアン

機械名稱：宇宙飛行試作MS

開発名稱：アナハイム・エレクト

ロニクス社

全高：頭頂高：19.5 / 16.5m

本体：重量重量：43.2 / 74.0t

ジェットモーター出力：2.045kw

スラストモーター出力：144,000kg

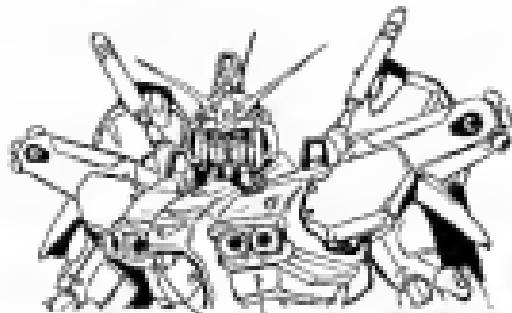
機GP01の宇宙空間仕様。P-01Buster-フルバーニアンと呼称される。

機械本體のGP01に爆破装置バーニニアやスラスター、他の機体などの宇宙用装備が追加されている。それに伴い、コア・プロテクターを装備するコアファイターオルサブ仕様へと変更されている。

フルバーニアン機体の特徴は、パンクハイドに取り付けられたアーススターが1つである。このアーススターはフレキシブル・ジョイントで連結されたり、爆力効果をほぼ無制限に変えることができる。これに追ってフルバーニアンは強引強を重んじ、機動性・運動性を過度に競争となっている。

荷重に強いハーベスティング・バランスがとれた機体であり、8000kg荷重にかけた荷物のMSは評価していくべきだろう。

機械名稱：ガンドム0003  
スカーラストマモリ



ビームサーベル



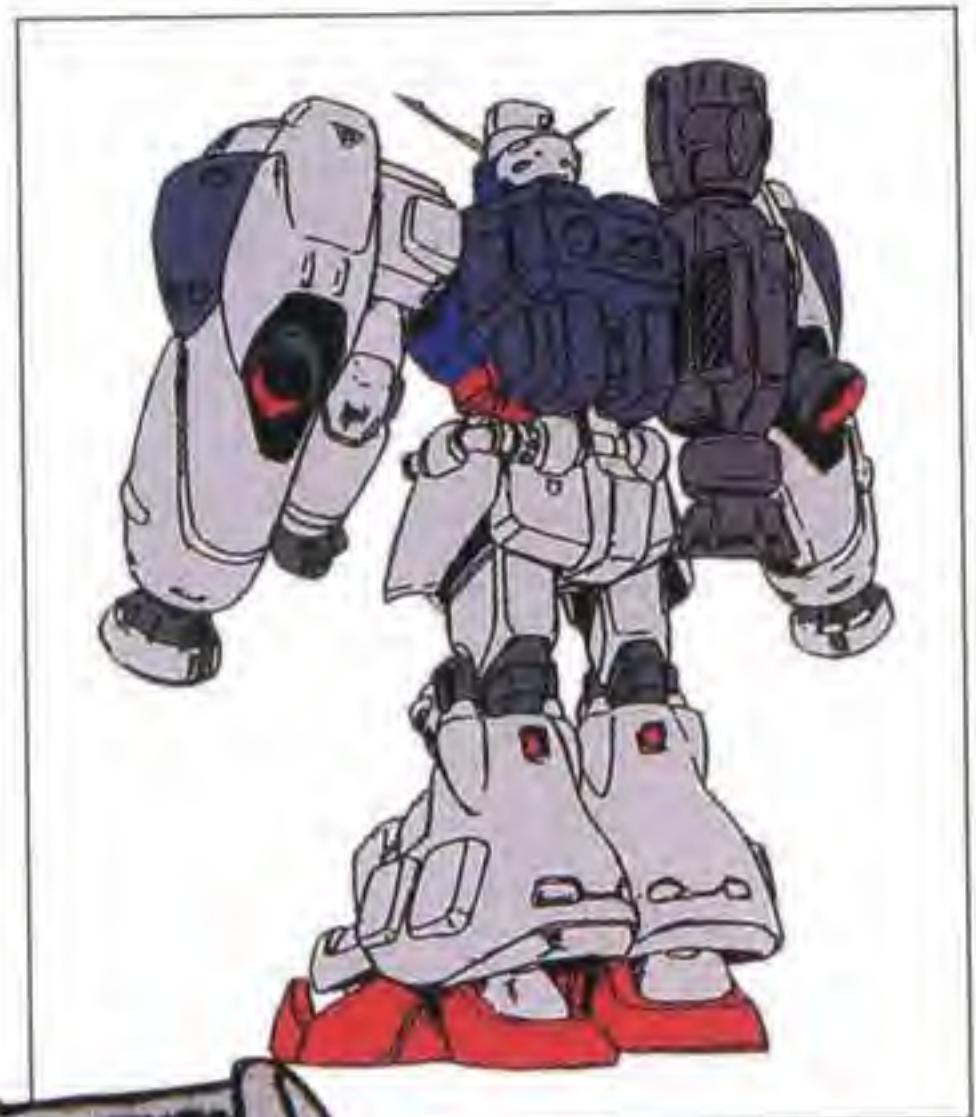
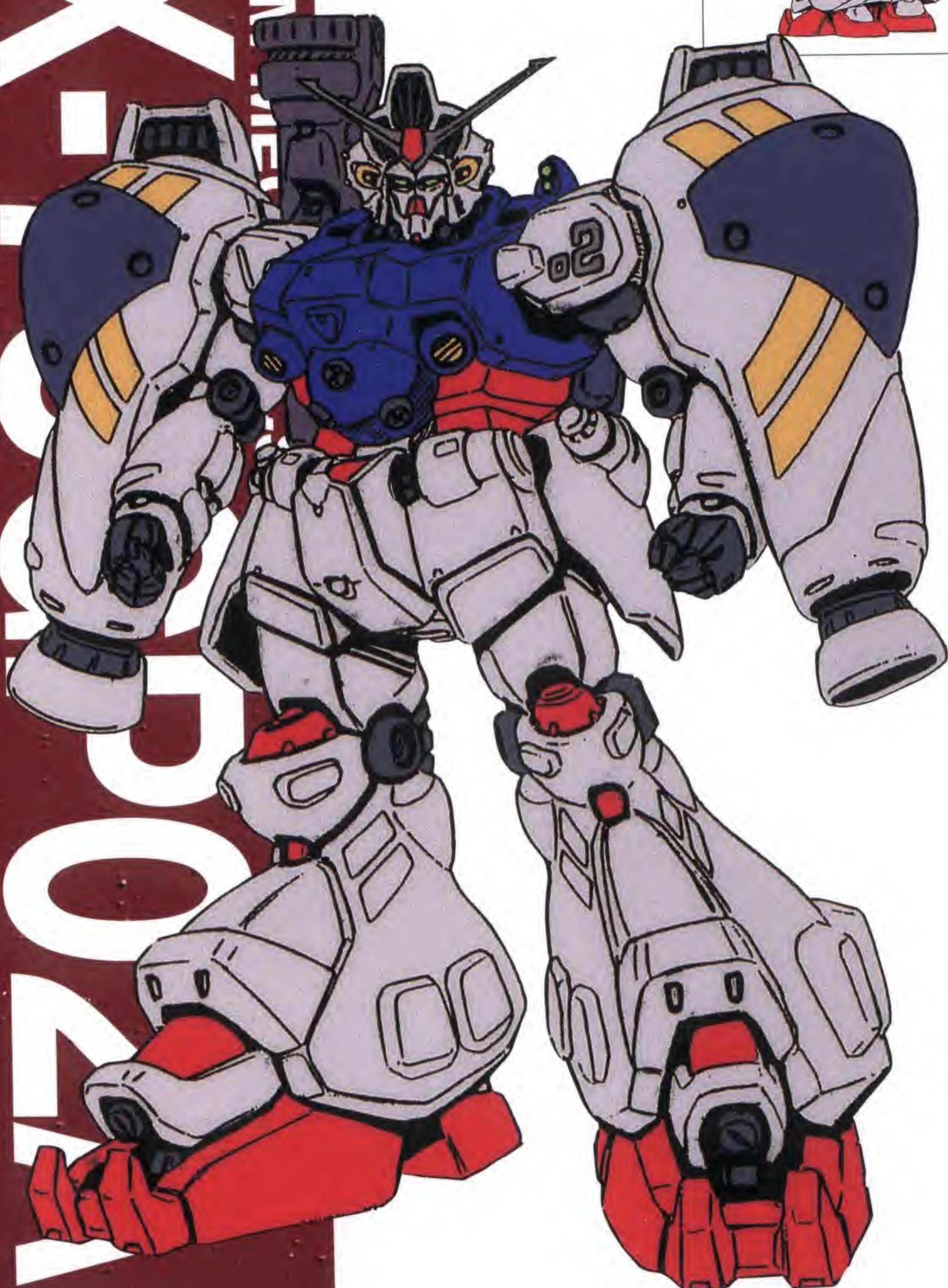
ビームパルサー



ビームライフル

ガンダム試作 2 号機

GUNDAM



# RX-78GP02A

## ガンダム試作2号機

機体名: 戦闘用試作機MS  
製造会社: アナハイル・エレクト  
ロニクス社

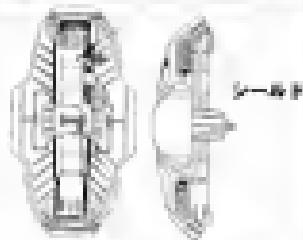
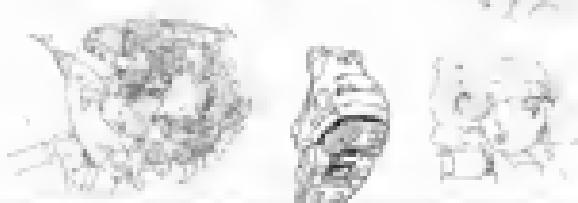
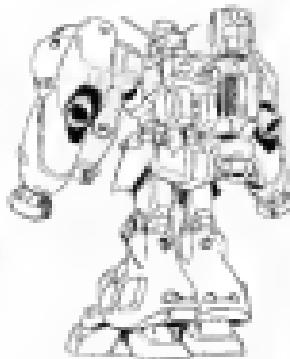
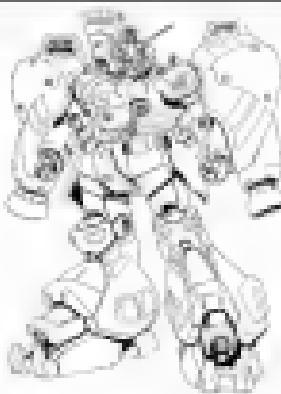
全高: 腰部高: 18.5m / 18.5m  
本体: 全體重量: 54.5t / 83.0t  
ジェネレータ出力: 1,150kW  
スマスター駆動力: 1,552,000kg

●「ガンダム歴史計画」によって譲られた機体のMS。

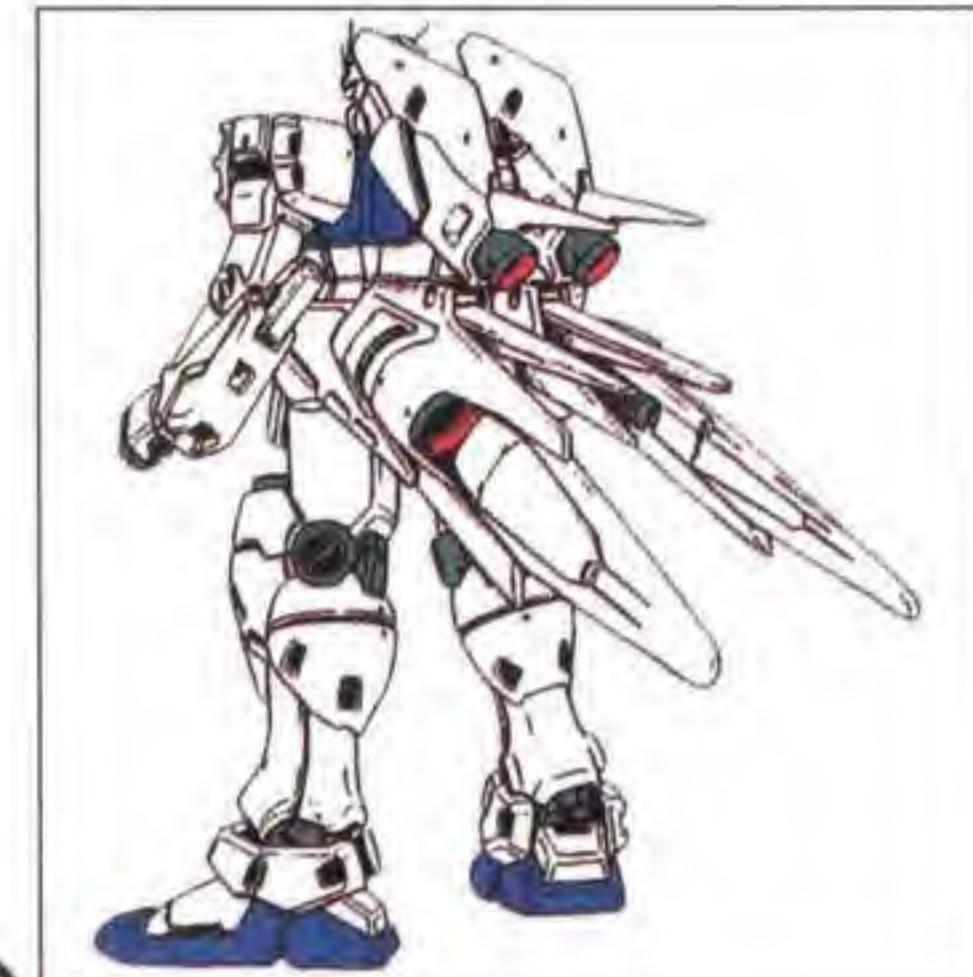
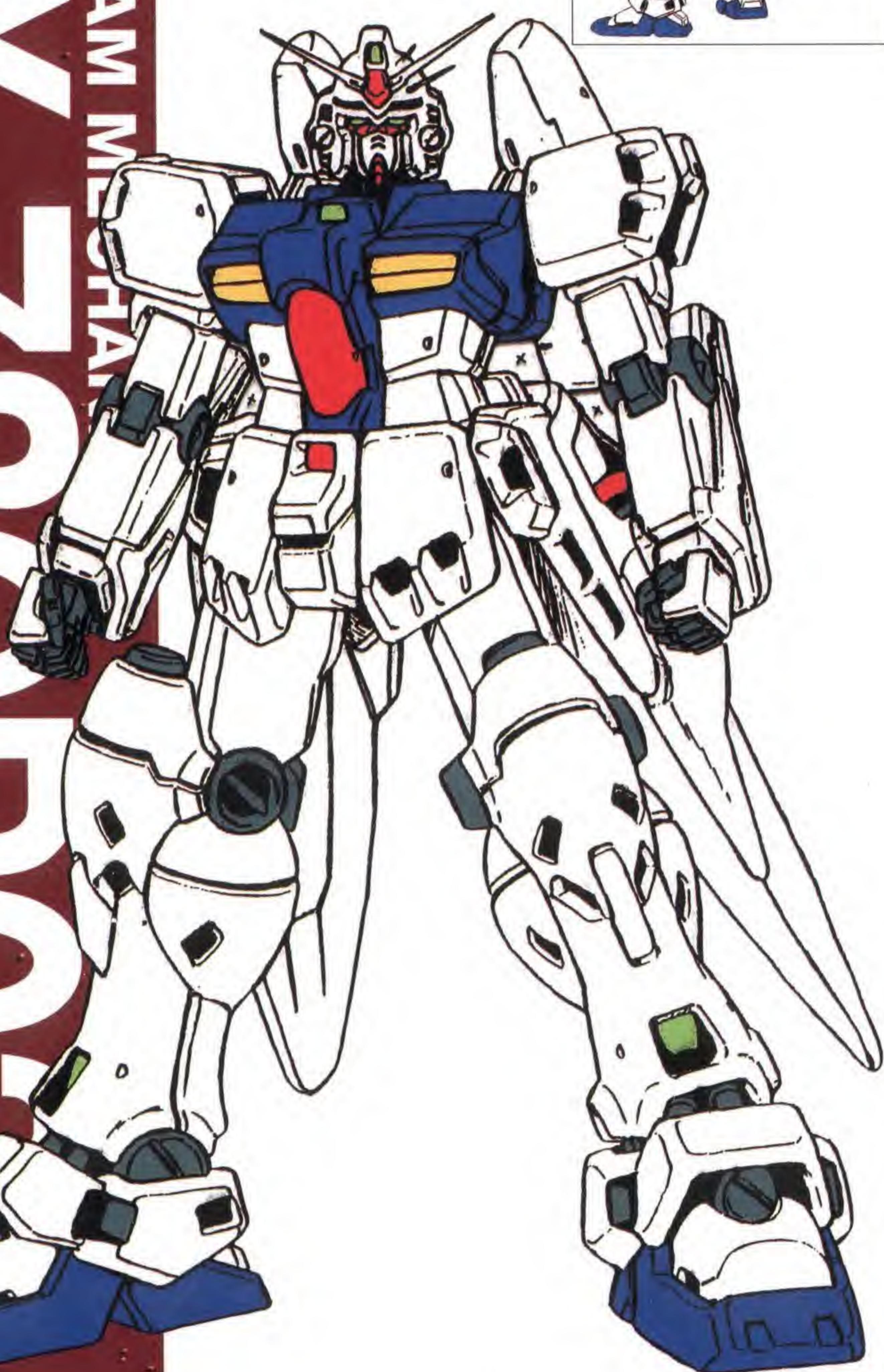
本機体は、によって使用が禁止された機体群だが、その性能／技術上の優秀性は、スマスター砲を搭載下においても評価に高かった。このGP02Aは「技術実力と実力を兼ね備えた機体MS」として開発されたものである。

右肩部に装備されたアトミックバズーカより、Mk-02機関砲を発射する。アトミックバズーカは射程が短いため、GP02Aは機関砲下での生存性が落とされた。そのため機関砲の遮蔽位置を考慮とする大型スマスター砲搭載だつ。また、機関砲に装備された場合は、機体には前後各一門熱線銃が搭載されており、熱線を以て武器内蔵、と素早くシールドなどを遮蔽する。

### 戦闘用試作機MS スマスターMk-02

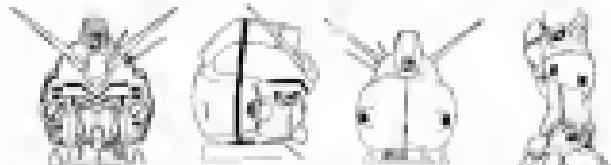
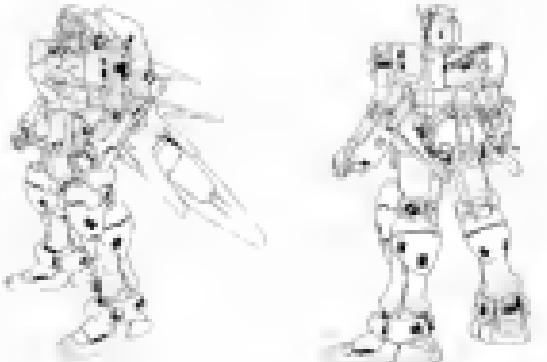
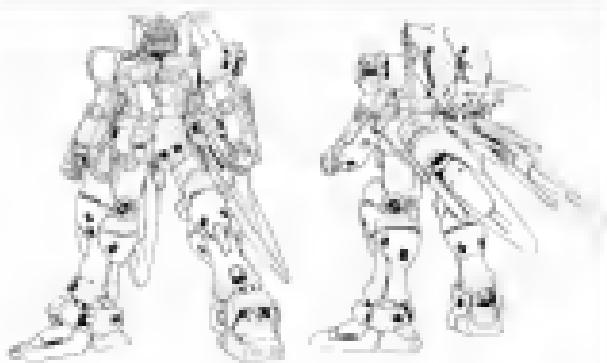


ガンダム試作3号機 ステイメン



# RX-78GP03S

ガンダム試作3号機 スタイイン



# RX-78GP03S

ガンダム試作3号機 スタイイン

機種分類：宇宙戦用試作機

製造会社：アナハイム・エレクト

ロニクス社

全高：脚面高：18.2m / 18.0m

本体：全機重量：141.6t / 70.0t

ジェネレータ出力：2,000kW

スラスター出力：1,000,000kg

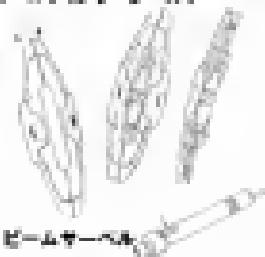
■大型MS「アンドロイドウルフ」のコアユニット（コアドーム装備）をシステムとして組み込んだ機体である。

GP03Sタイインは、試作コンチナ、超速射、大型ビーム砲などから構成されるアーム、ドームベース「オーラス」と合体、アンドロイドウルフのシステムを駆動する。

この機体は単体の駆動力でも高い性能をもつ、通常に取り扱われるテール・バイブレーターは、GP01TFのブースターボノード用、通常の可動範囲をもち、高い可動性を実現している。オーラスのカウル・シンクレアとの連携により、多角な武器の運用を実現する。フォールディング・バー、ドームセード等のアンドロイドウルフを脱いだためのものが多いた。

## 機種別駆動ガンダムの機器 スタートメモリー

### フォールディング・シールド



ビームサーベル

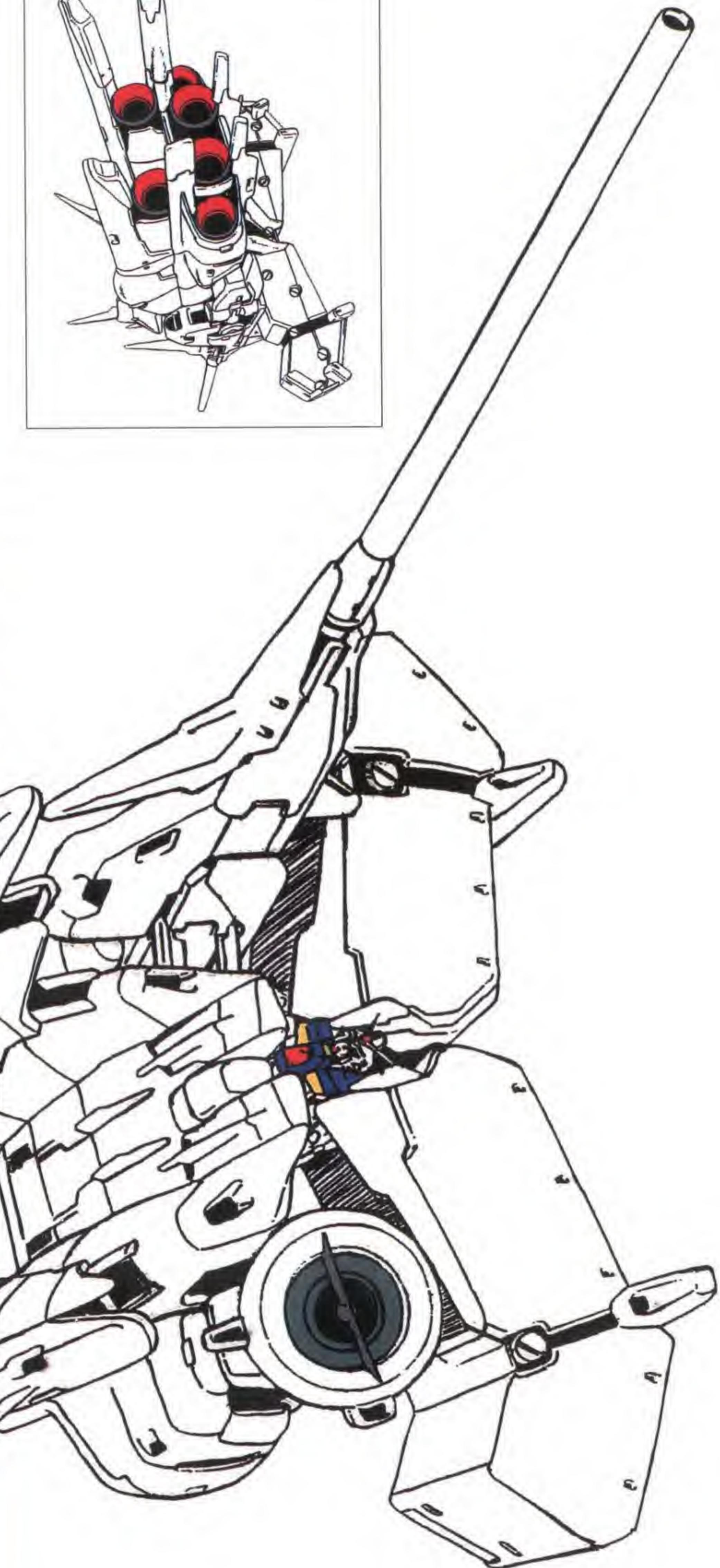
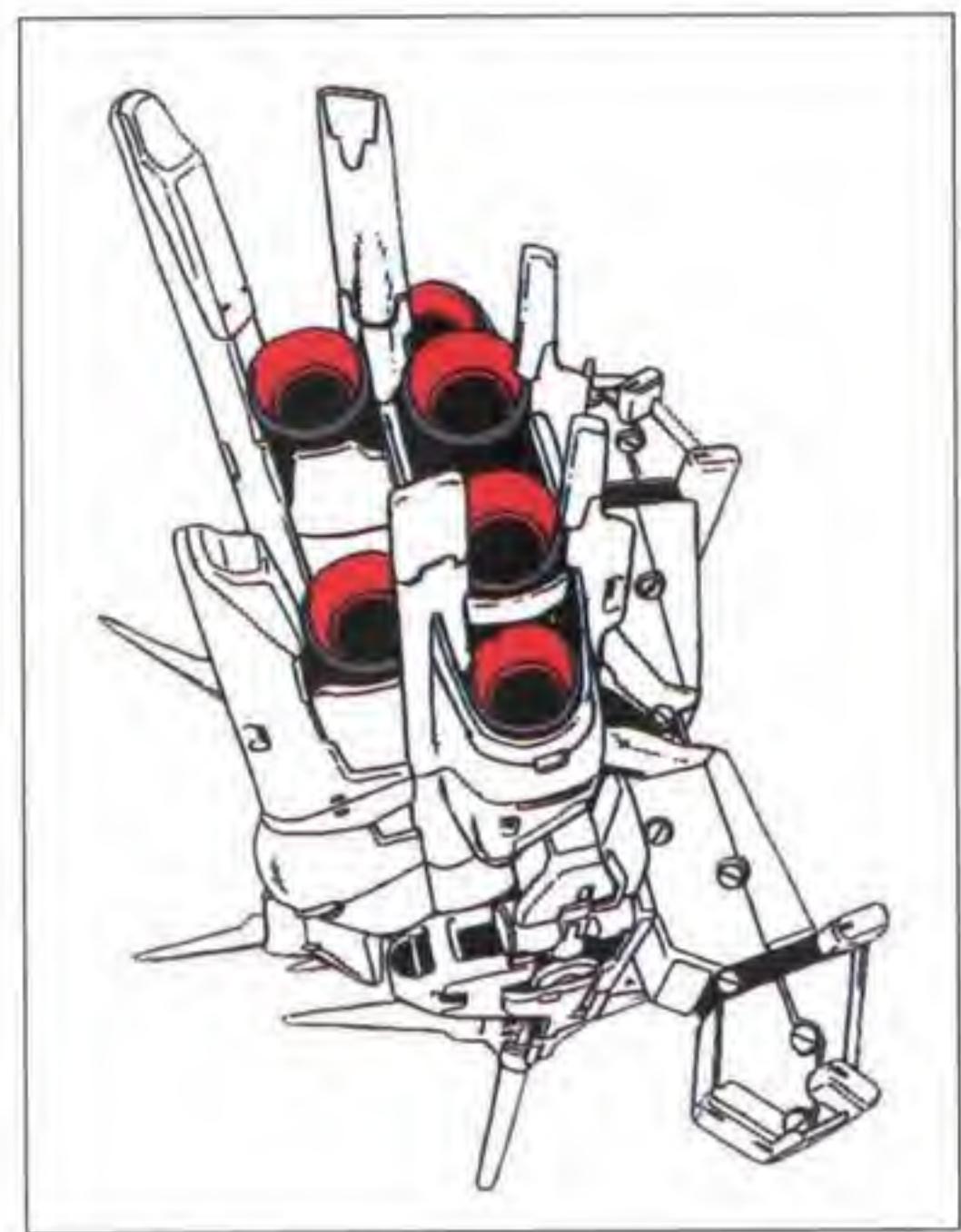


ビームライフル

ガンダム試作 3 号機

# XX GUNDAM MECHANICS

# 試作 3 号機



# RX-78GP03

## ガンダム試作3号機

機種分類：試作戦闘用試作機

製造会社：アナハイル・エレクト

ロニクス社

全長：140.0m / 38.5m

本体：全重重量：225.4t

483.1t

ジェネレータ出力：35,000kw

主手スカート推進力：245,000kg

■「GP03アングロローラム」は既製オレンジ色のモビルアーマーの上うな、大火力と高機動力を兼ね備える機動戦闘機として開発された。

アングロローラムの主な特徴は、宇宙空間における移動戦闘機である。機体上面のウェポンコンテナには必要に応じて赤外線センサオプション装備が搭載され、計測装置やIRセンサなど、あらゆる機動戦闘への耐えを可能とする。その能力は極めて高く、1度でM20太陽に匹敵する。

機体正面には複数の進撃用の機関砲をもつメビーム砲が、機体左側にロビーム砲塔による遠隔を無理せずするフィールドジェネレーターが、腰に付いている。

機動戦闘用ガンダムの機  
器一覧

メビーム砲

マイクロ  
ミサイル  
コンテナ

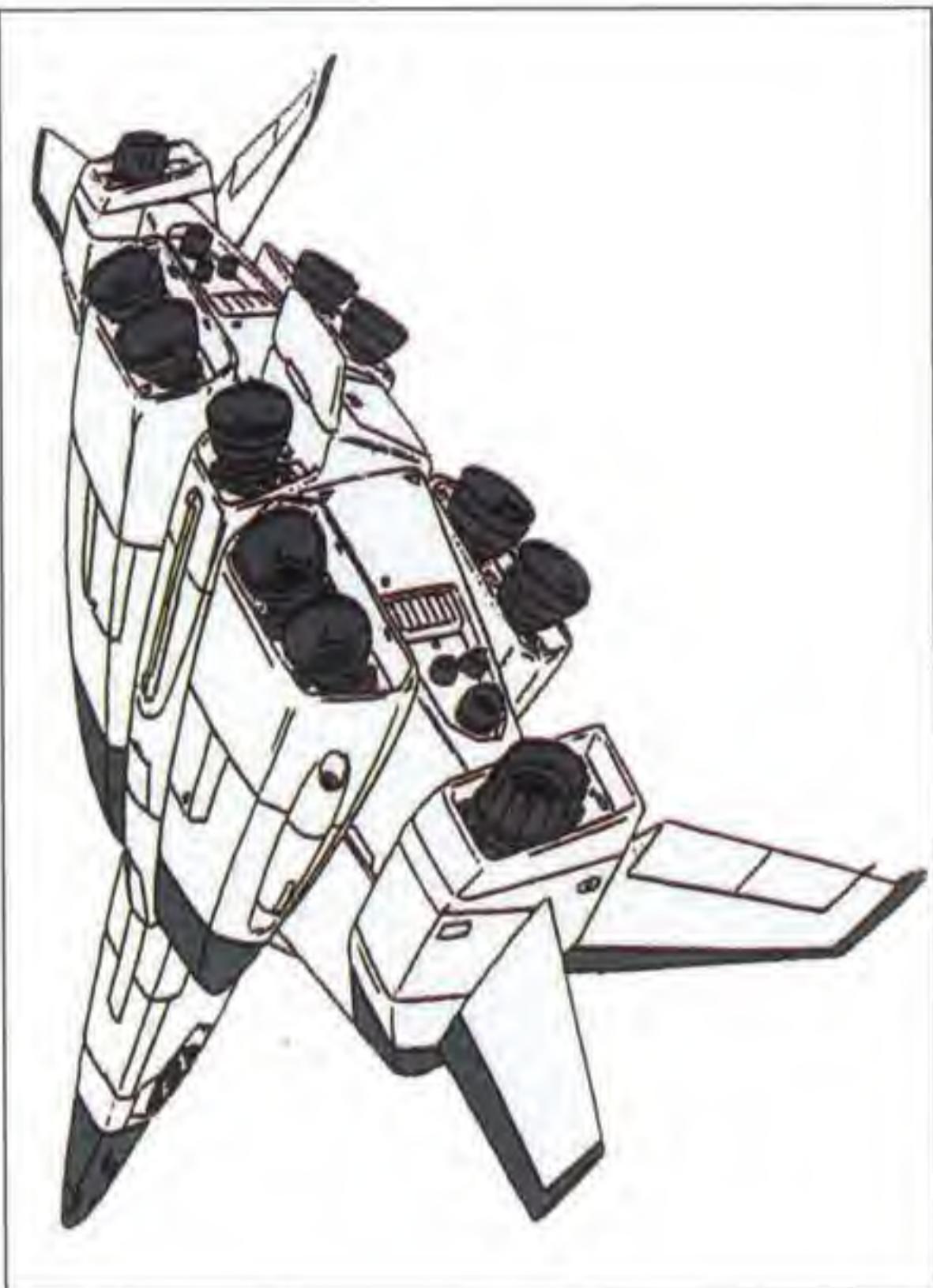
フィールド・  
ジェネレーター

大型ビーム  
サーベル

大型爆薬  
ミサイル

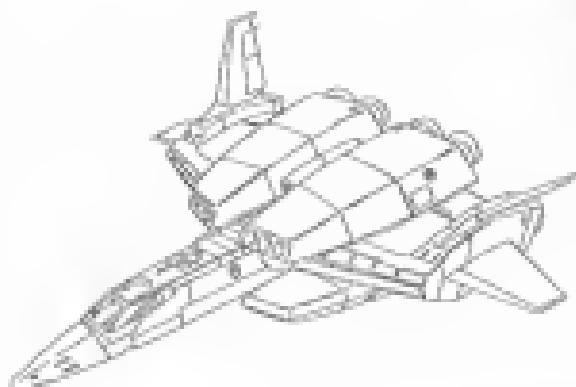
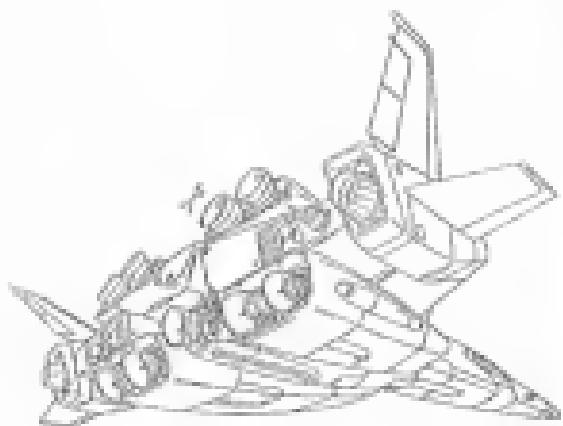
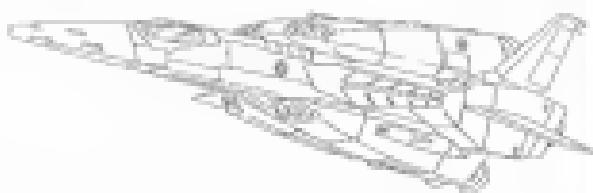
クロー

セイバーフィッシュ



# FF-S3 セイバーフィッシュ

機種分類：空戦用戦闘機  
乗組員数：ハーフクラク  
乗員：1名



『FF-S3セイバーフィッシュ』は、多用途戦闘機として開発され、『F-16』の子機型開発タイプである。

FF-S3は、堅実にあたって機体構造の強化が図られ、堅強な機体構造により宇宙飛行、大気圏内と、あらゆる飛行空間域での運用が可能な機能を備えている。宇宙仕様のFF-S3では、通常の爆撃機のブースターパックを装備して使用される。MS空母は、他の連邦軍では、宇宙空間の飛行における生力として運用されており、開拓当初は爆撃機で敵に対処する機体の最初の一歩だった。

電子ビーム・パリューション(アラモード)  
爆撃爆雷主攻ガンドム

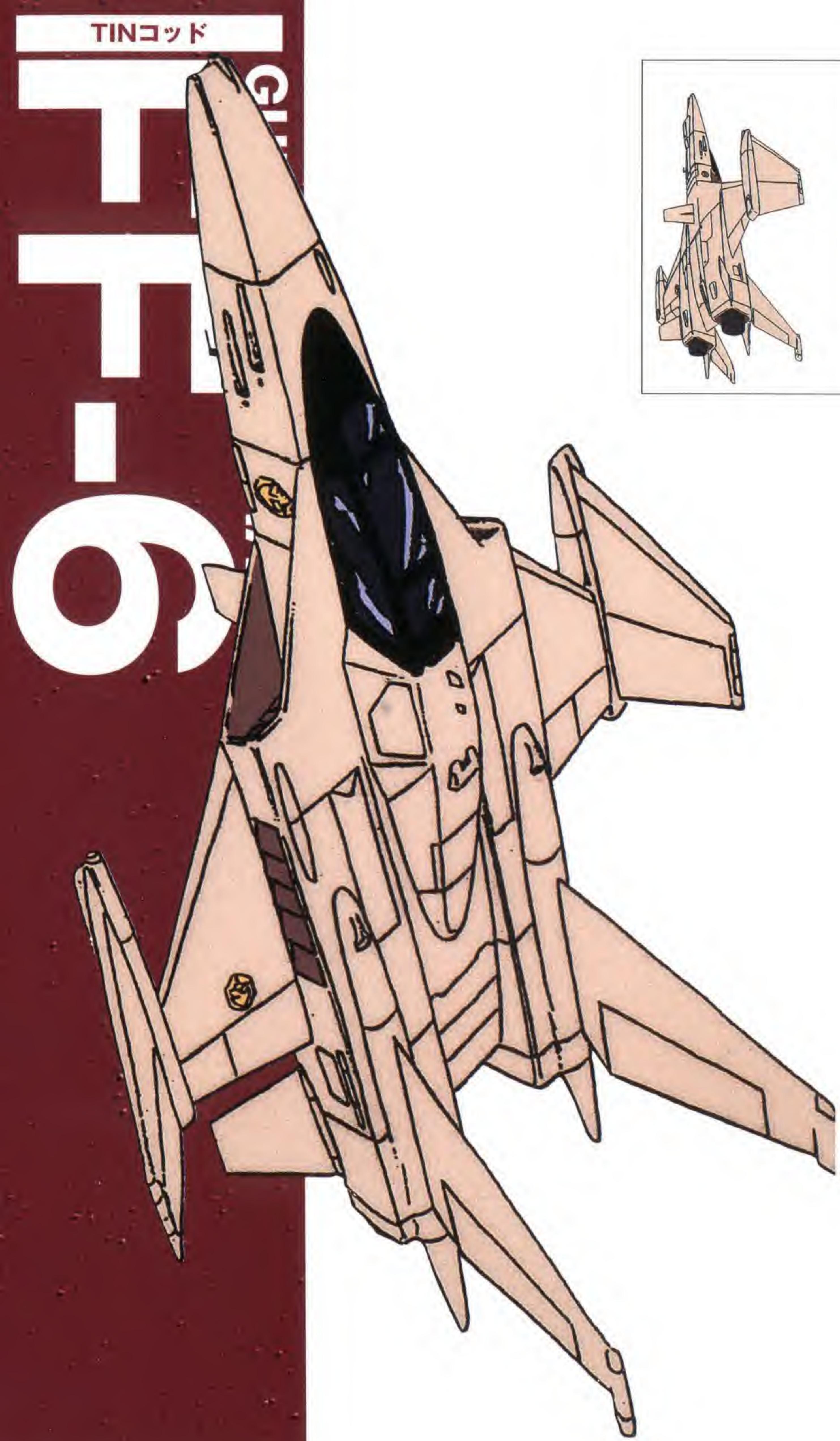


ヒサイルランチャー&ヒサイル



25mm機銃艤

TINコッド



# FF-6

## TINコッド

機種分類：軽攻撃機

製造会社：ハーベック社

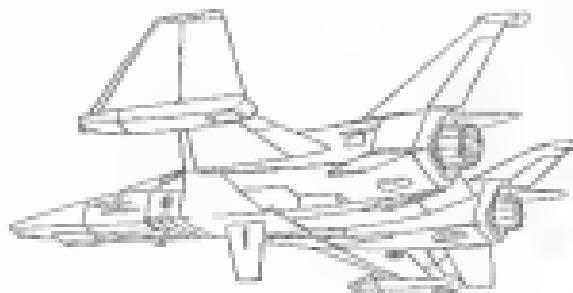
乗員：1名



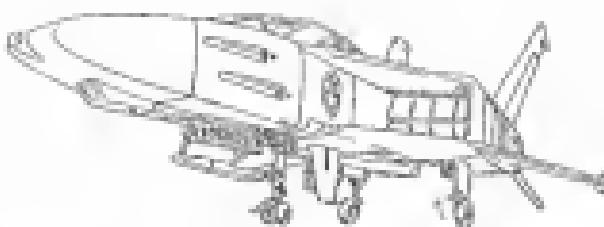
■北朝鮮内での制空戦闘機を任務として担当された通常軍の小型制空戦闘機。

座面高さの低さを特徴とする、防空戦闘が主な任務のため、飛行距離はそれほど長くない。そのぶん機体は小型化と運動性優位が重視され、いかなる飛行をも実現する優れた能力が与えられた。武器は25mm機関砲とAAAM（対空ミサイル）。AAAMは機体の火力特性を活かさせるため、外因攻撃だけではなく内因式となっており、専用のランチャーによって発射される。

なお、TINコッドはコア・ファイター開発の母体を中心としたことでも有名である。



■モビルスード・エリエーションズ社モビリ  
製造技術士エボンダム

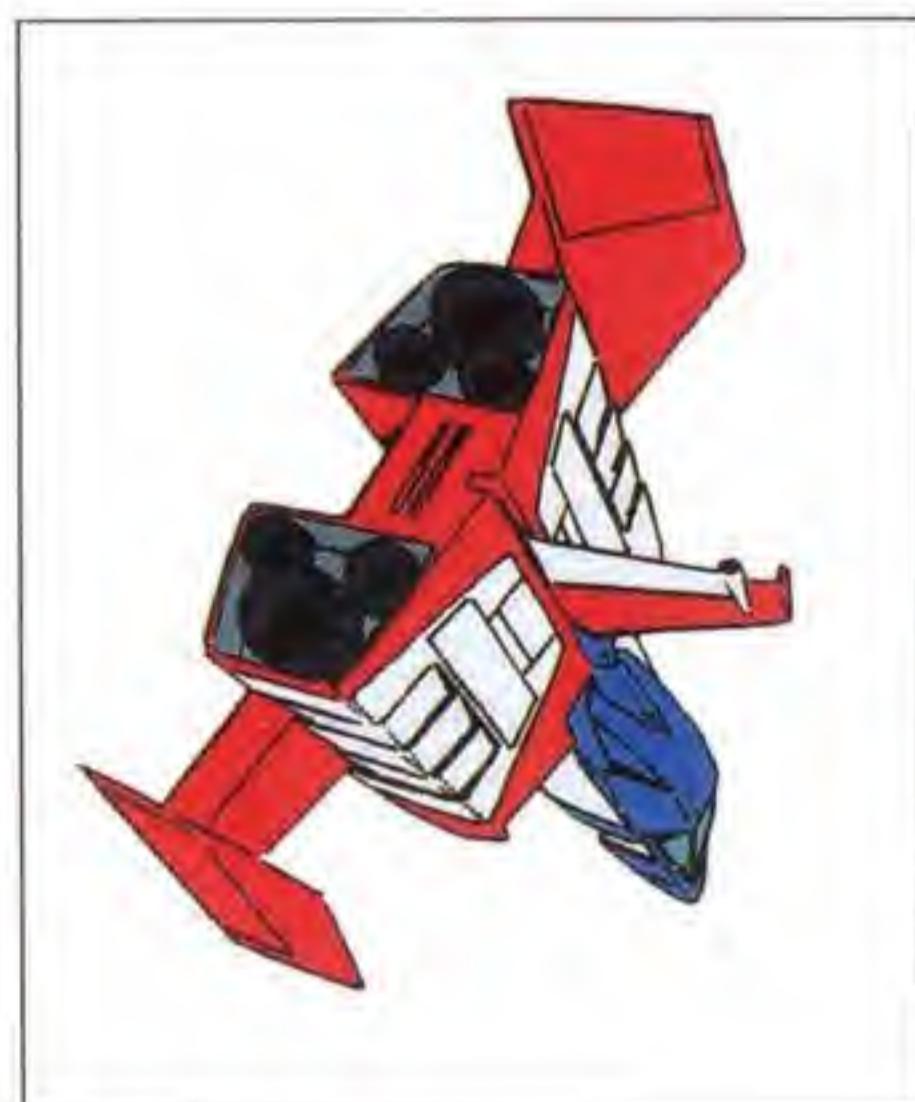
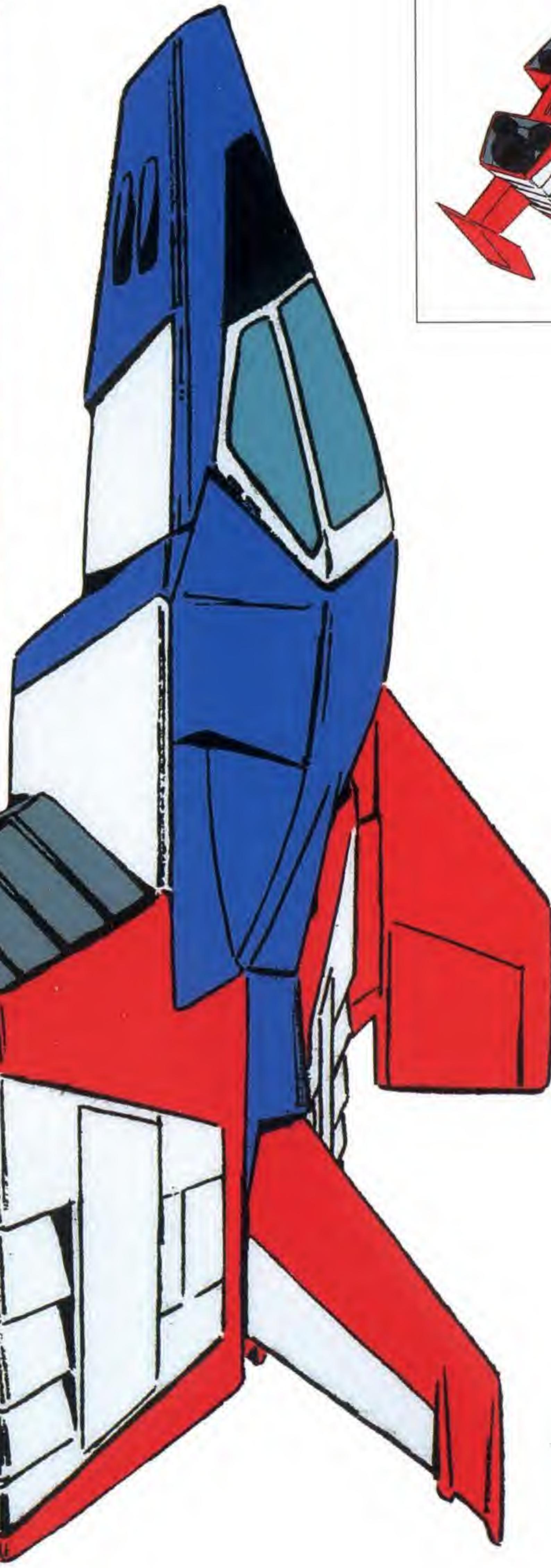


25mm機関砲

コア・ファイター

# THE GUNDAM MECHANICS

GUNDAM MECHANICS



# FF-X7

## コア・ファイター

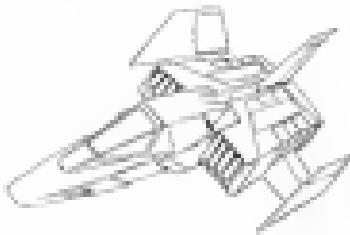
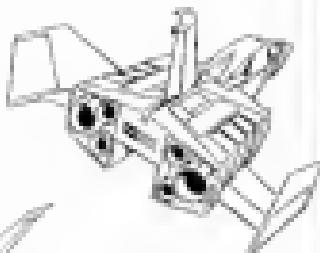
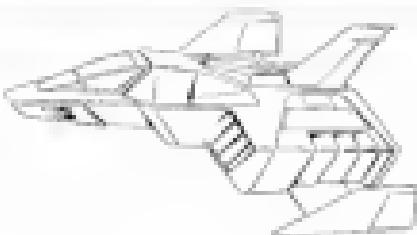
機種分類：小型機両用戦闘機

開発会社：ハービック社

全長：全幅：8.6m

全高：全幅：8.01

乗員：1名

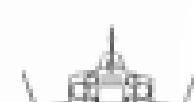


### 装備装備

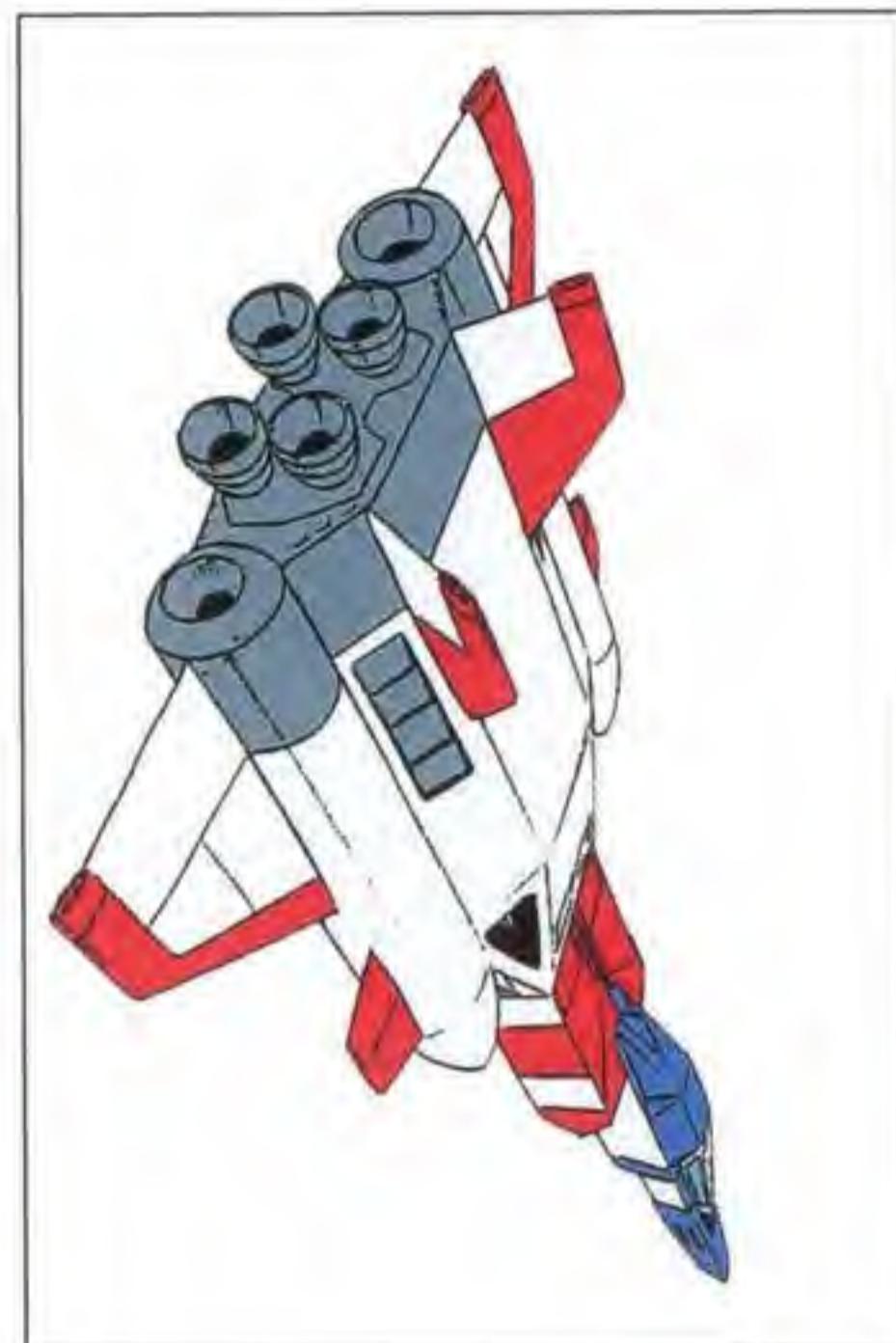
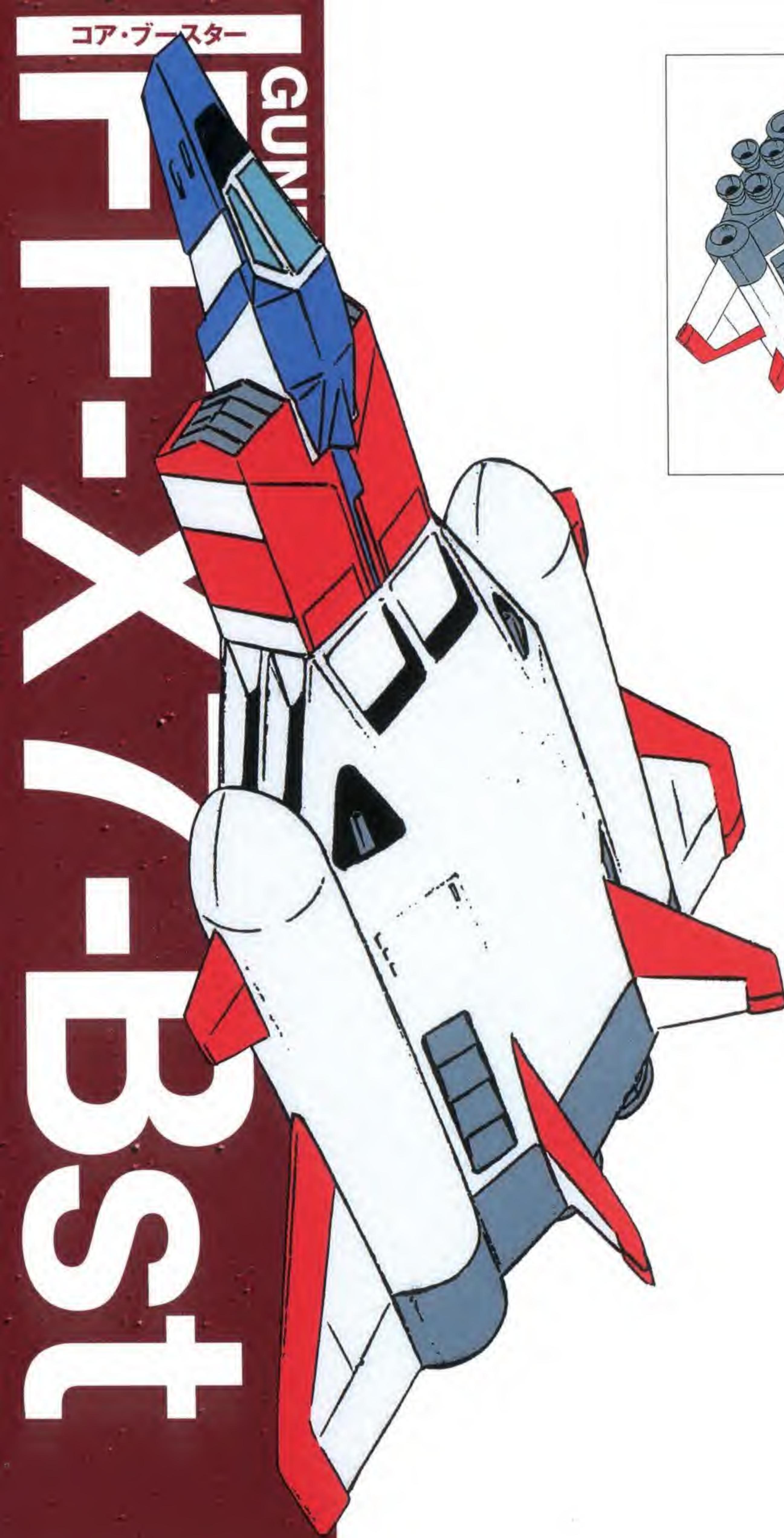


パンシル  
ミサイル

25mm機銃砲



コア・ブースター



# FF-X7-Bst

## コア・ブースター

開発会社：東風道機開発

製造会社：ハーピック社

全長：全長：13.5m × 12.5m

全重：全重：18.2t

乗員：1名

■コア・ブイターにブースターユニットを装備し、パワーアップを図った機体。宇宙と地上の両方で使用できる多用途戦闘機である。MSの支障メカにて試験的に開発された。

主武装として、ビームライフルを装備する。威力を持つ火炎兵器も装備している。多用途機種などと評価されている。

コア・ブースターはMS用のサブ・フレイムシステムとしての使用も可能であり、1機の機体を複数で操作することができます。

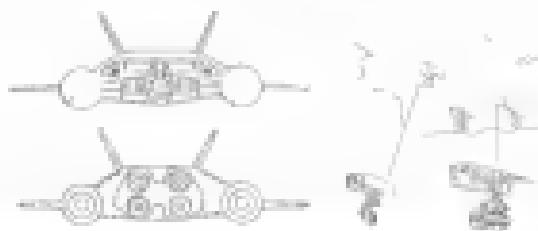
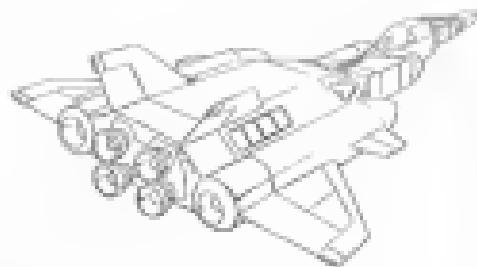
## 開発開発生ガンドム(試験型)



ビームキャノン



25mm機関銃



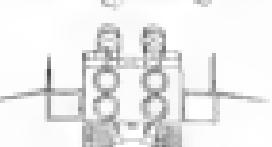
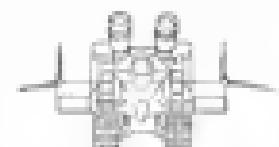
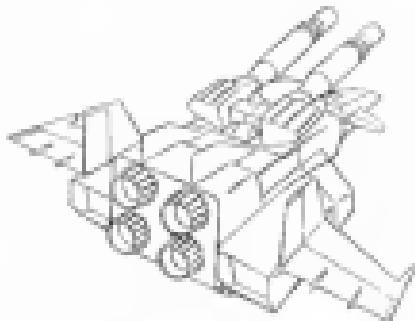
Gファイター



# G-FIGHTER

## Gファイター

機動兵器：MS主機器機動兵器  
登場：1話



「G-Fighter ガンダム」の変形用に開発された機動兵器機。

宇宙・地上の双方で運用が可能で、地上ではアオン連合G-Fighterのように「サブ・フライト・システム」として、MSを機上に乗せて操作することができる。また、G-Fighterは機体を機械に分離し、「RX-78 ガンダム」等の内部部に組み替えることができる。この機構は「Gアーマー」と呼ばれ、これにより、ガンダムの内部移動を高速に行なうことを可能とした。

G-Fighterはガンダム専用の変形メカといつては機上、2機が並置されるなどとされている。

## 魔物的战士ガンダム(TV版)



ビームキャノン

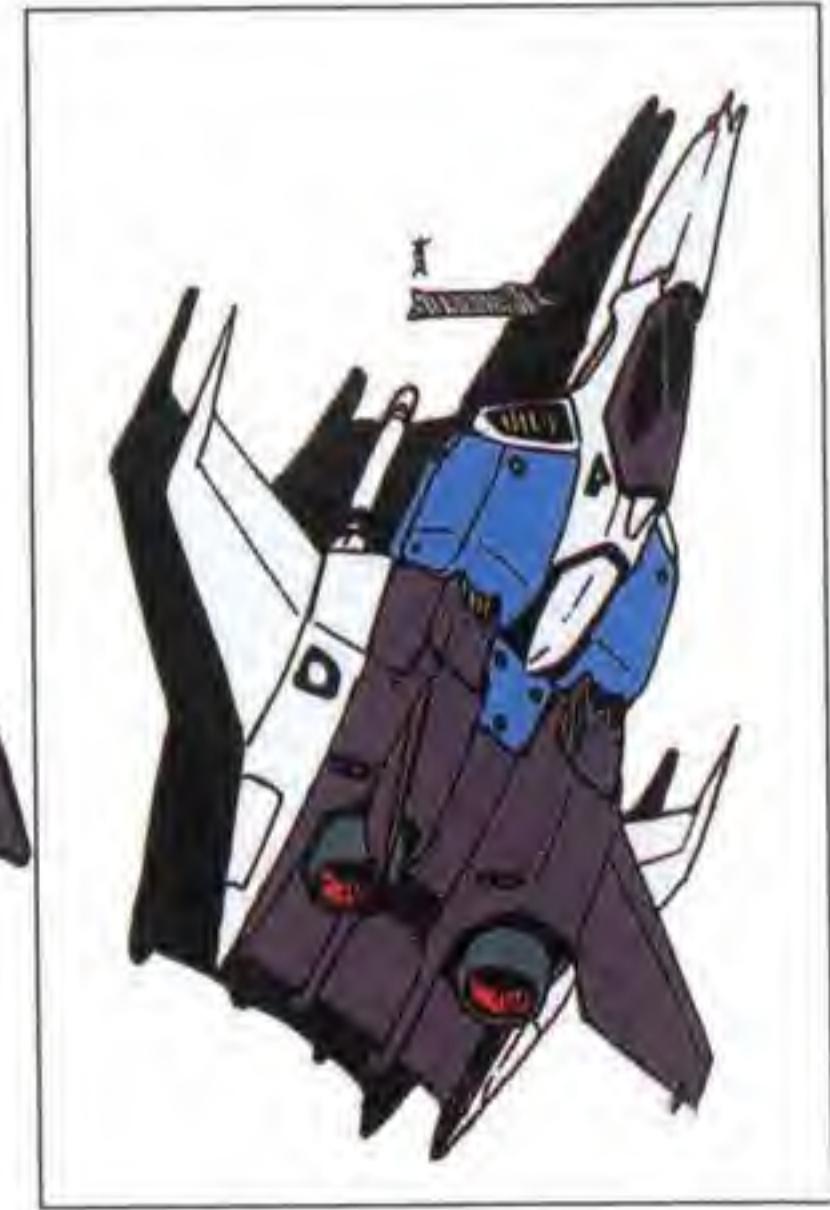
コア・ファイターII



FF-X(7)II



FF-X(7)II Fb



# FF-X(7)II/Fb

## コア・ファイターII

乗組員数：小型特務用乗組員

製造会社：アーライム・エレクト

ロニクス社

全長：全幅：14.7 / 10.5m

全高：15.9m

スクラスター推進力：84,000kN

乗員：1名

『RX-78GP01』の開拓版として開発された小型戦闘機。このシステムが『コア・ブロントーンシステム』と呼ばれることからもわかる通り、もとより『RX-78GP01ダム』で開拓されたいたものと結論して置いたものである。

コア・ファイターIIのスクラスターは、A級規格規格に満たさないが、A級スクラスターとなる。このため、コア・ファイターIIの仕様を変更するだけでRX-78GP01ダム規格の地上飛行での運用が可能である。

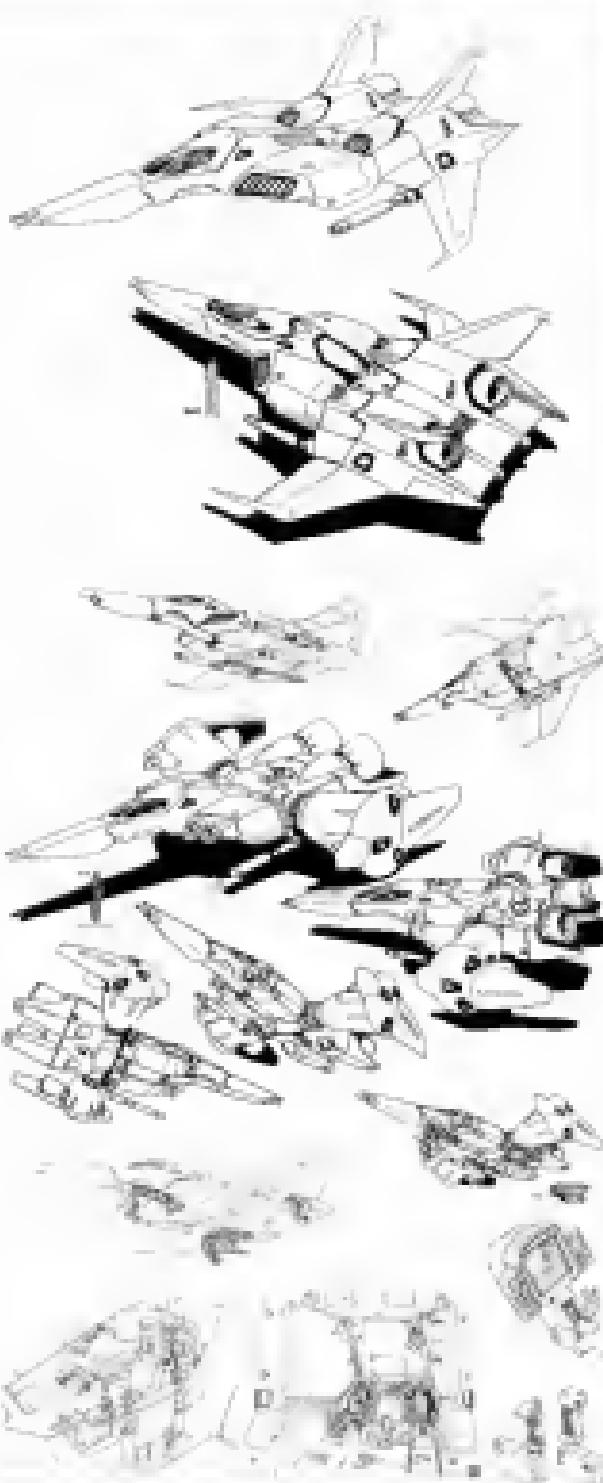
## 魔界魔術士ガンダム0083 スタートメモリー



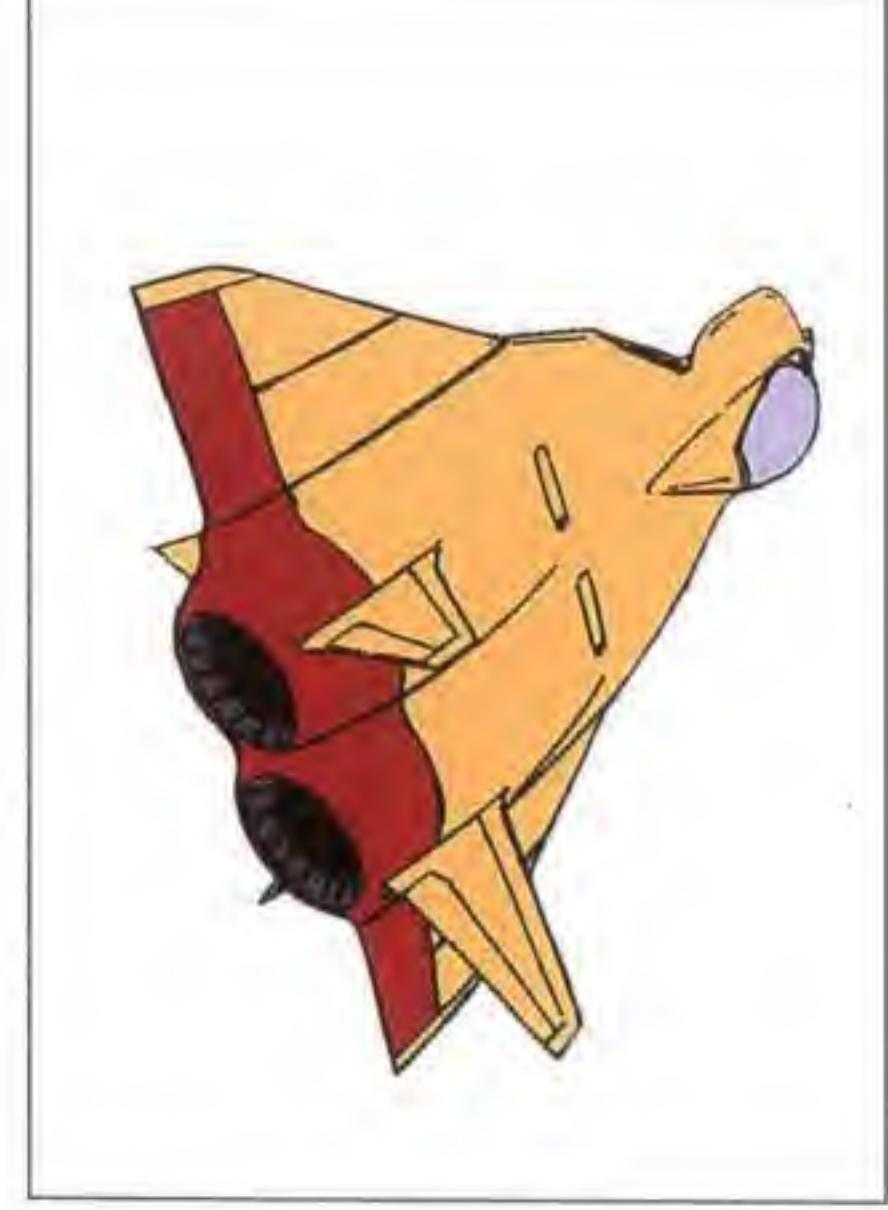
ビームガン



ビーム



フライ・マンタ



# FLY-MANTA

## フライ・マンタ

機種分類：戦闘攻撃機

製造会社：

全長：全幅：17.0~13.0m

全備重量：11.7t

乗員：1名

多目的攻撃を主任務とする海上軍の戦闘機等級。

機首に装備された2基の多目的ランチャーは、高い命中率を誇り、通常地、空対空の各種ミサイルが装備可能である。

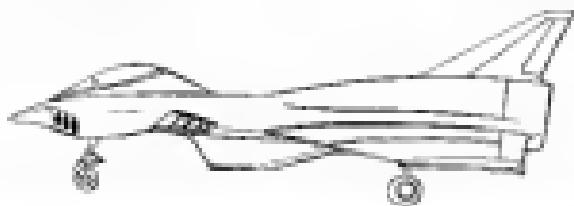
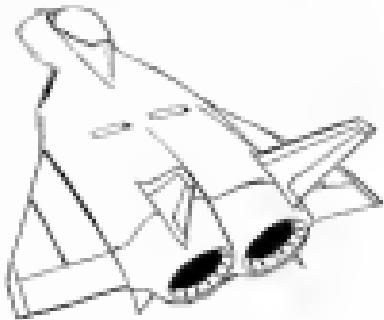
機体表面の空気取込口入り口付近には、25mm機関銃が装備されており、これは自機の自衛用に使用される。その他、胴体下、翼下のランチにはスマート爆弾や誘導ミサイルなどが装備され可能である。強度の性能の進行を可能としている。

主力武器を解説として、運用軍の多くの特徴に記載されていく。

## 機種別紹介ガンダム

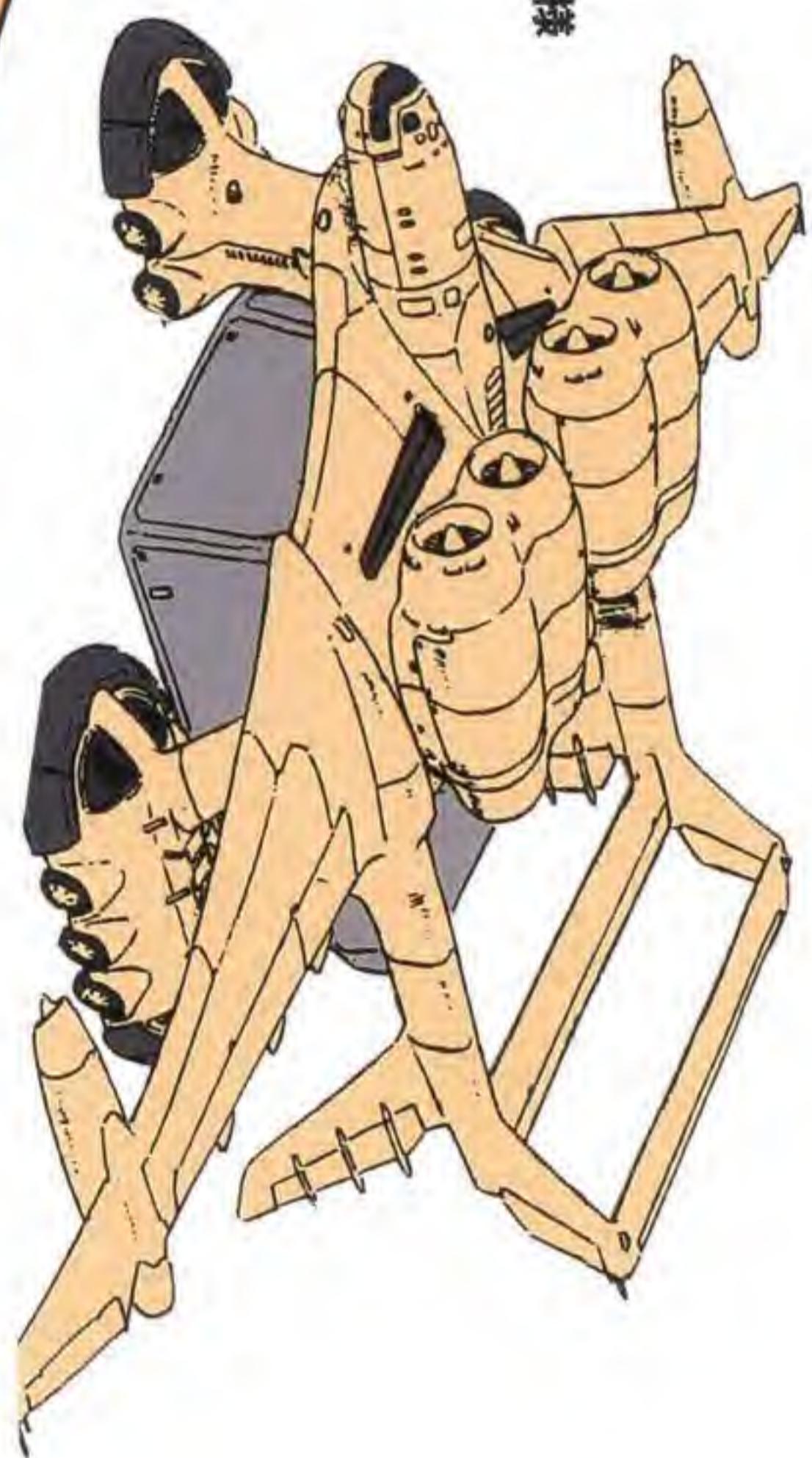
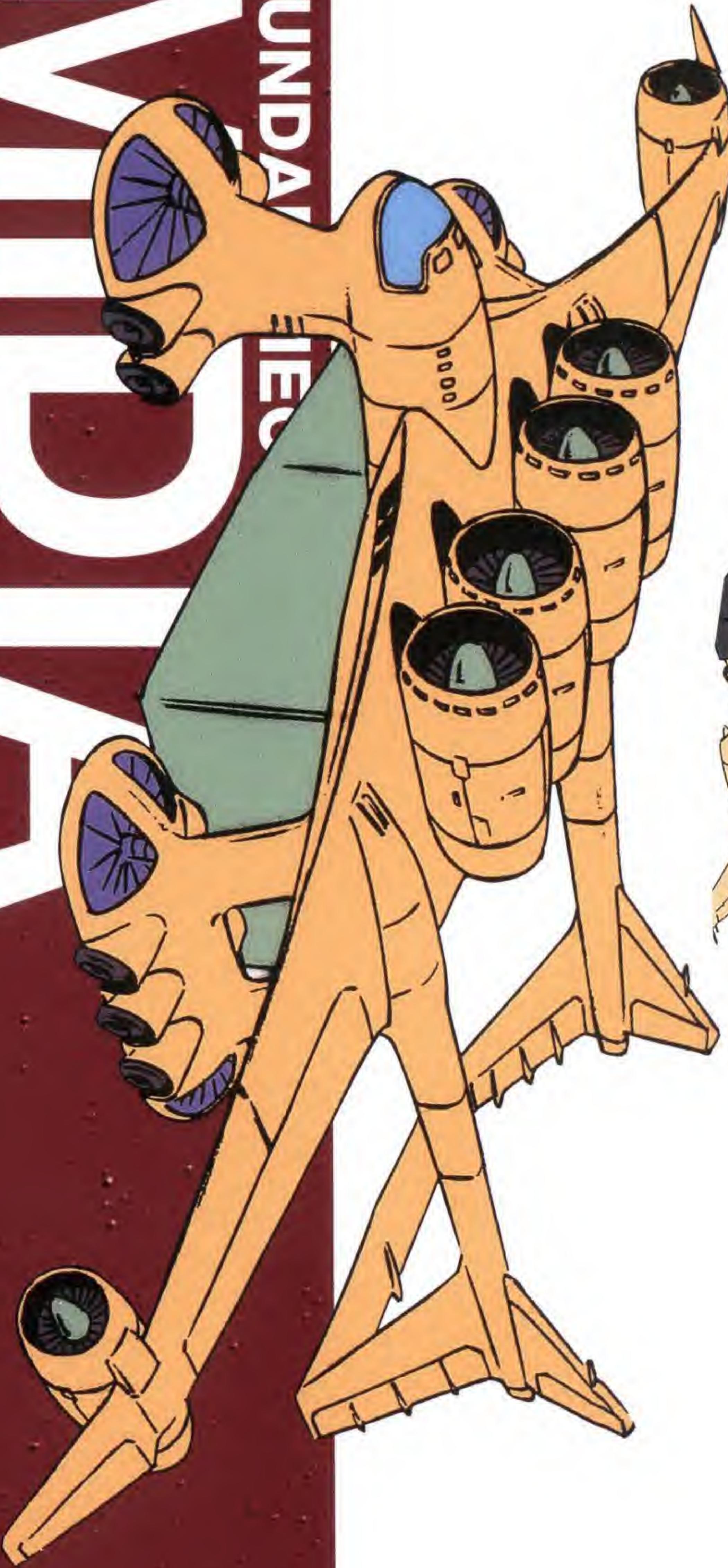


## 多目的攻撃用ミサイルランチャー

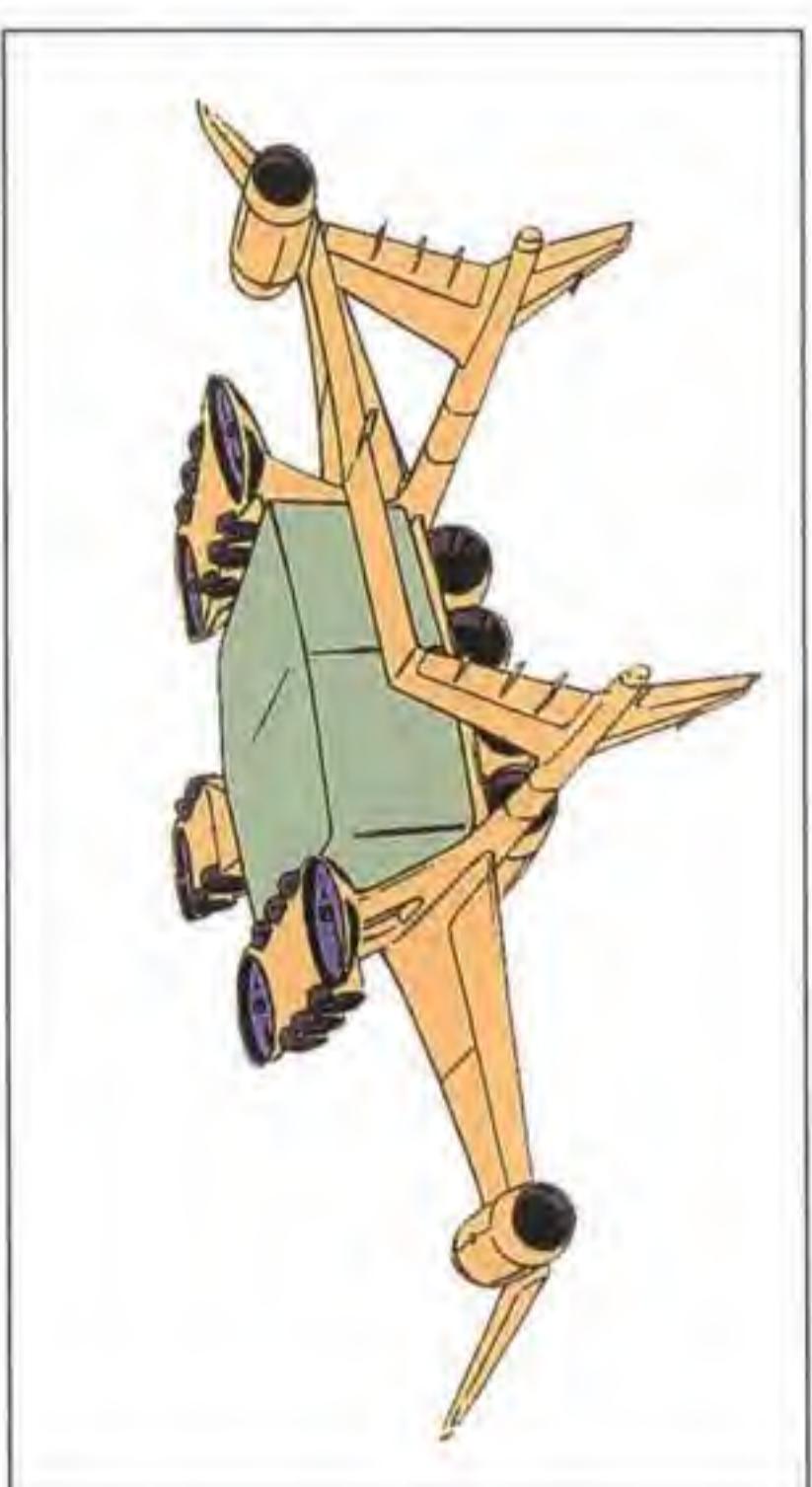


ミデア

GUNDAM



MS空挺降下仕様



# MIDIA

## ミデア

機種分類：輸送機

製造会社：ミデア社

全長：全幅：45.0 67.7m

主翼面積：245.0m<sup>2</sup>

最大搭載量：160.0t

乗員：20名

普通機軍の大型輸送機。輸送目的の機体としては、近戦戦でも最も多く使われている。

2基のローターを上昇、2基の主力をジットエンジンを機体に横掛する。このリフトローターとジットエンジンに上り、ミデア輸送機は160tという大容量の輸送能力を誇り、直に輸送機の名前や戦場の部隊への輸送機場の輸送に従事した。なお、一年戦争初期にはエンジン出力向上し、機翼面積120m<sup>2</sup>以上にしたタイプも配備されている。

一級、主力運送機が配備されているが、基本的に輸送能力はない。

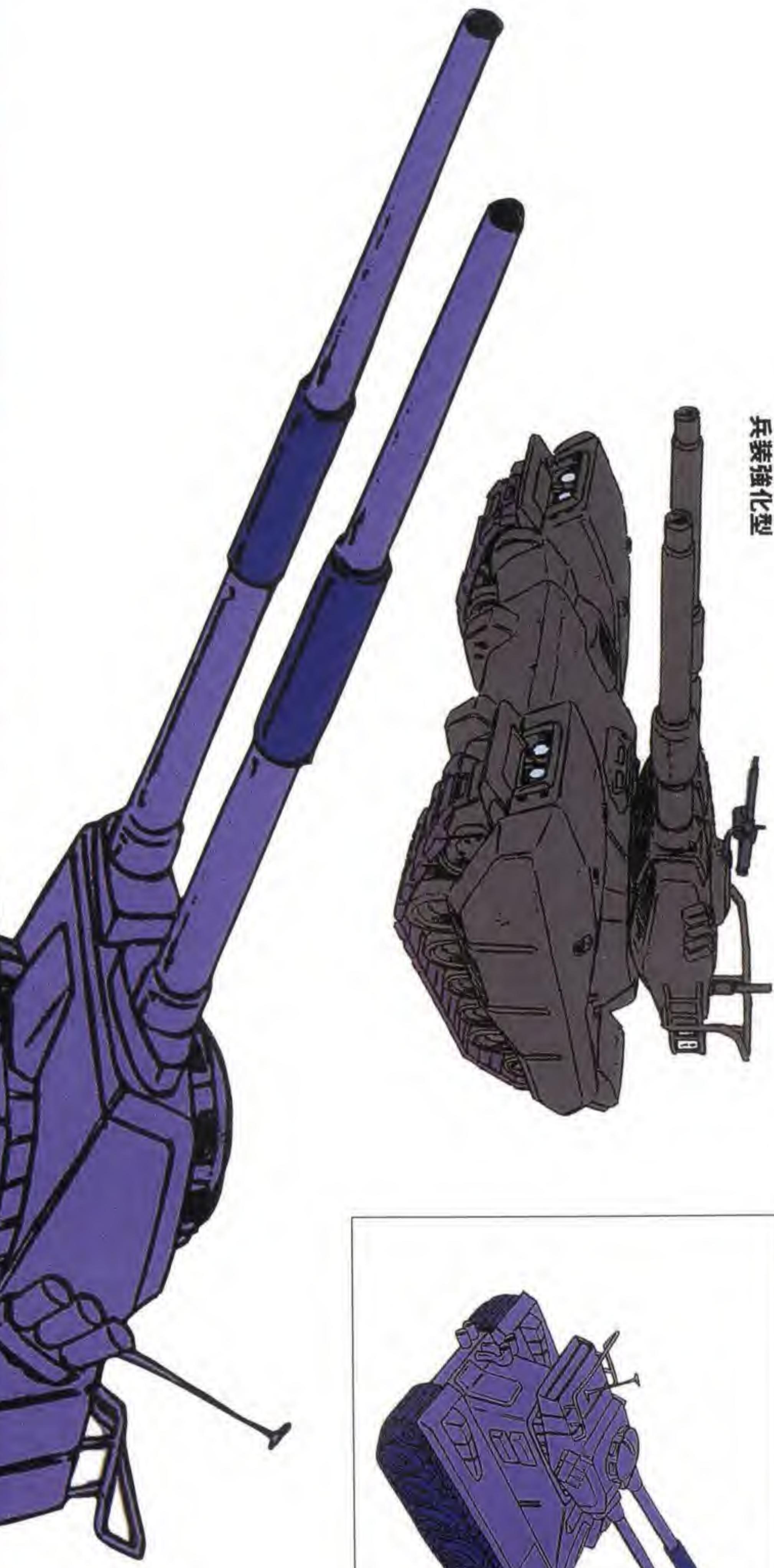
## 重爆撃士ガンダム

重爆撃機主ガンダム・機09MS小隊

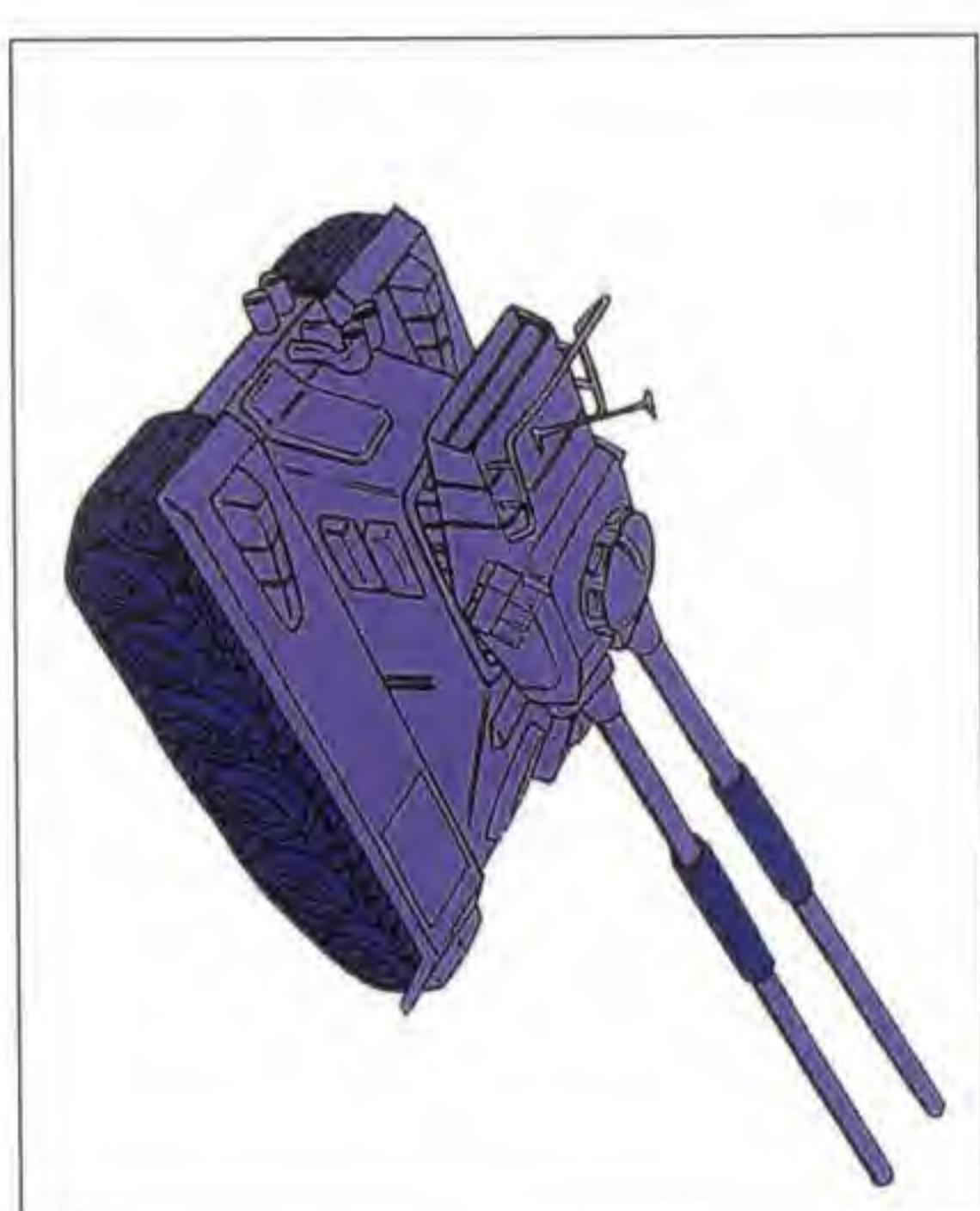


61式戦車

# GUNDAM MECHANICS



兵装強化型

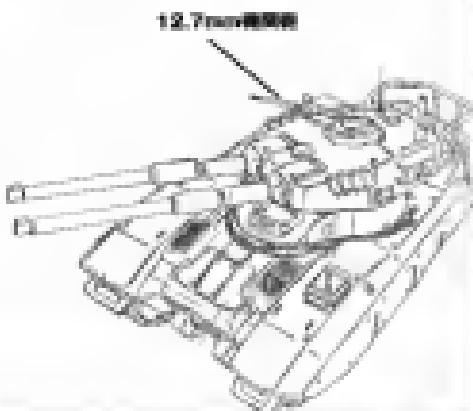
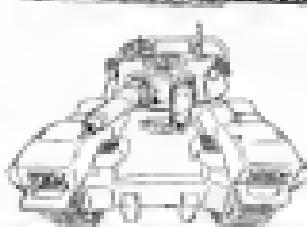
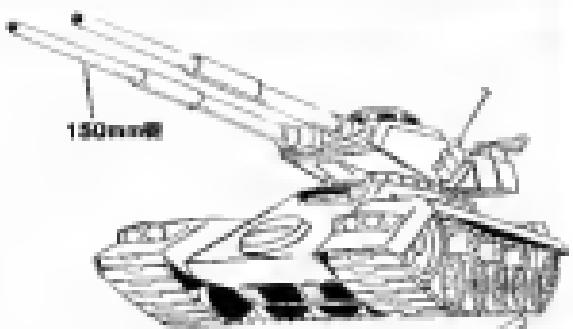


# TYPE61M.B.T.

## 61式戦車

車種分類：主力戦車

乗員：5名



■本車は1961年に試作採用され、諸戦場の主力戦車。

主砲である150mm砲は専門開発しており、砲塔から2本の砲身が伸びているといふ。砲塔のアーマーは薄めで、車長は、車長、砲手、ドライバーの3名で、主砲塔の装填には自動装填装置が使用されている。兵員としては駆逐戦車よりも、性能向上策としてM60のニラス1型機電子装置、火器管制などに各種改良が施されている。

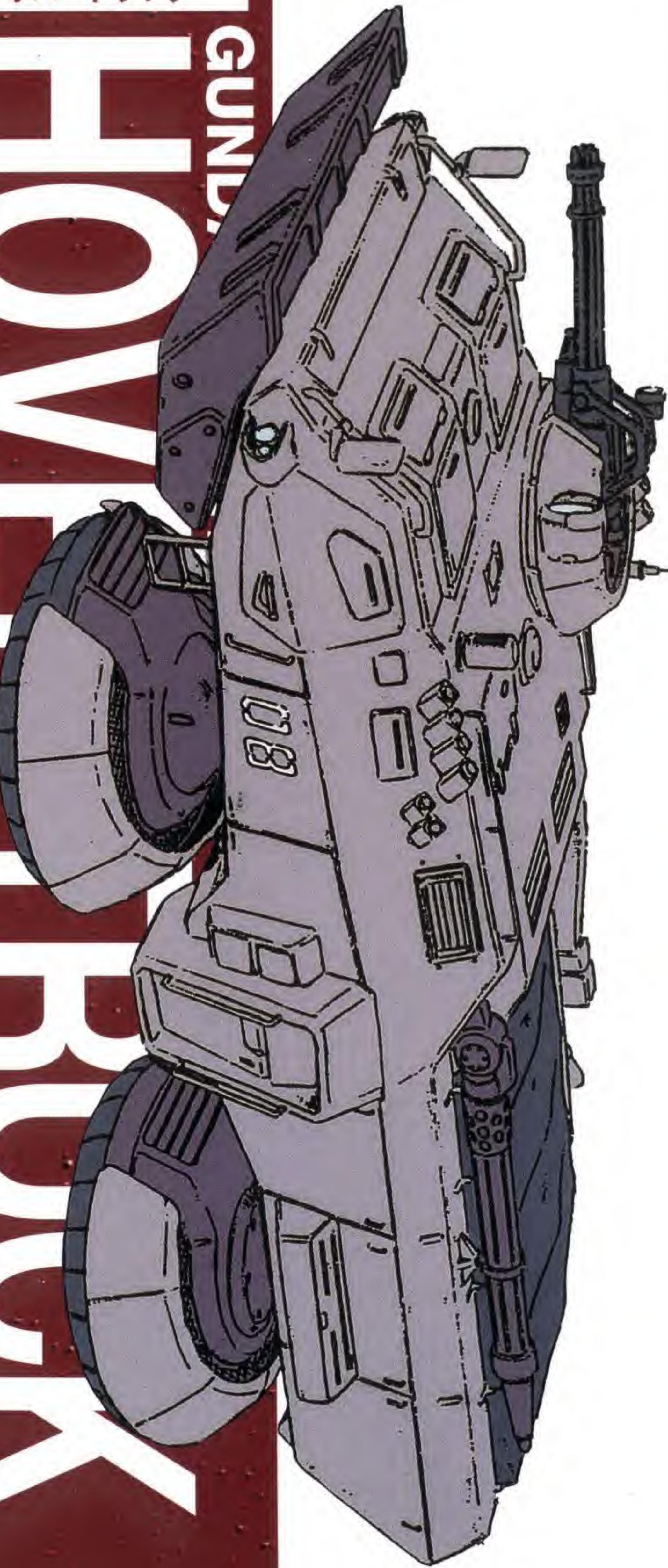
一年程を前半における運用軍の主力兵器であったが、地上での戦闘力としては火力が弱く、M60に折衷するのは難しかった。

■機関銃搭載車両

■機関銃搭載車両 ■M60小隊

ホバートラック

HOVER GUN TRUCK

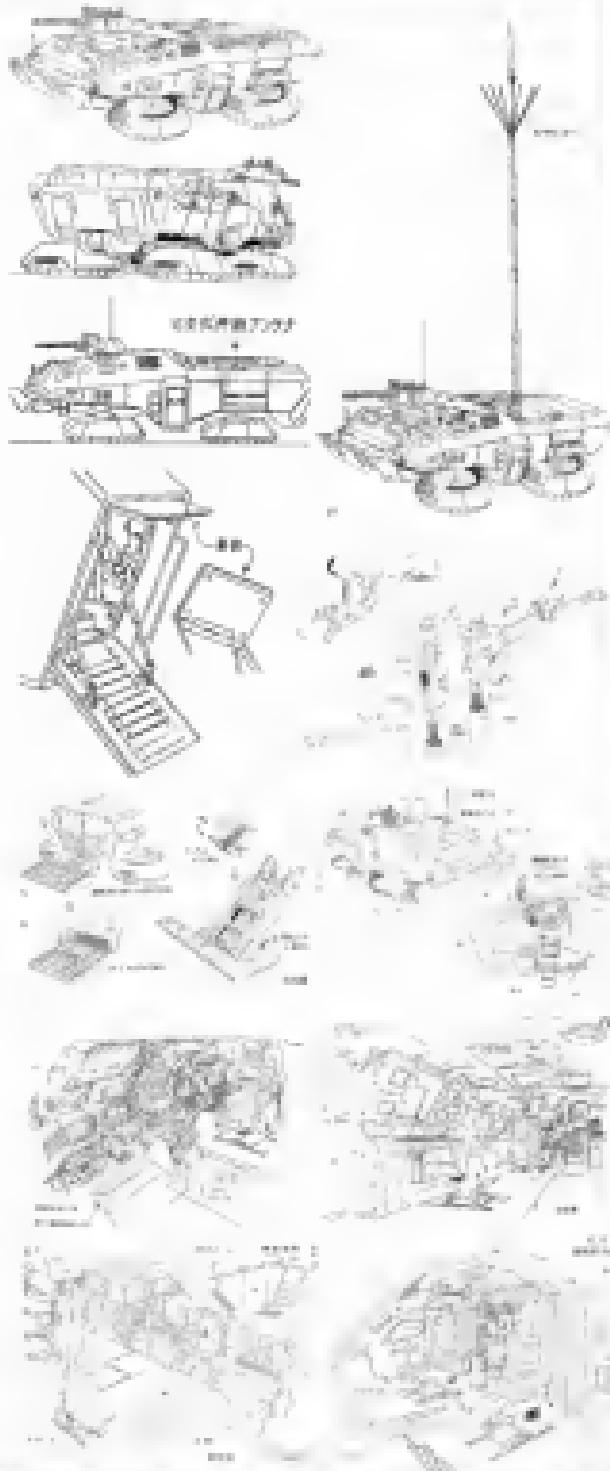


## HOVER TRUCK

## パートラック

## ANSWER

卷之三



●本邦は開港として開港された通商港の上に一層開港場。

往復曲率は23mm/mであるのと相  
反して、通常のサポートやパッキンシテ  
ー(伸中を保たせる面を強く凝固)によら  
ず、純粋の凝固速度を行なう。前に  
パッキンシテーを使った「め」には逆  
風は、當初のレーダーが極に立たない、  
モノブロード波子地帯下において、極  
度に重量などのどった、中央地盤の西  
山は、押す手は武道など力の極端な者  
の頭部に集中される。

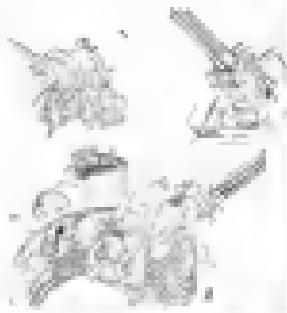
連邦議院は、MBCの各小院にこのような支給申請手続を行わせるのが慣習となっていました。

【新規登録】[新規登録](#)



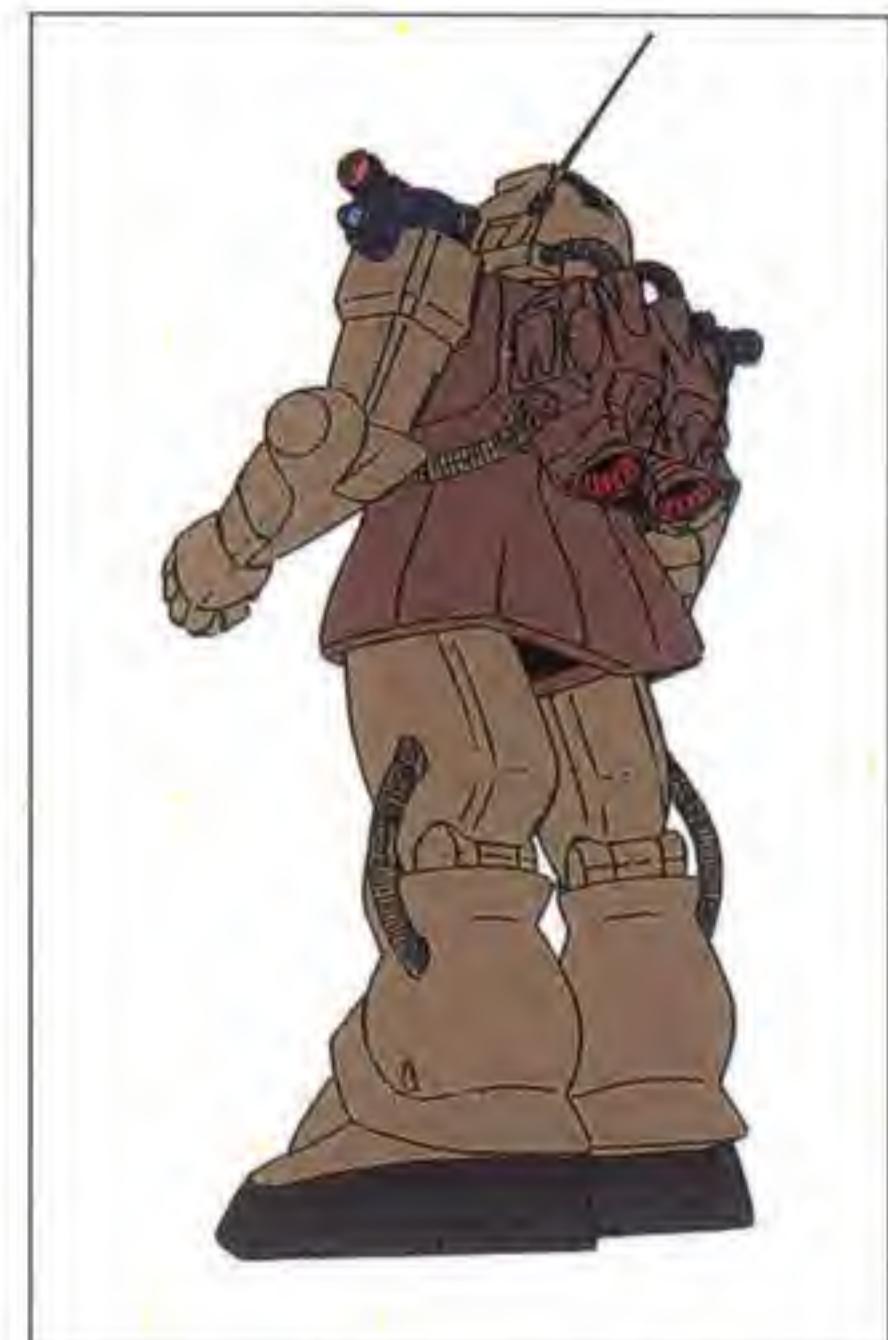
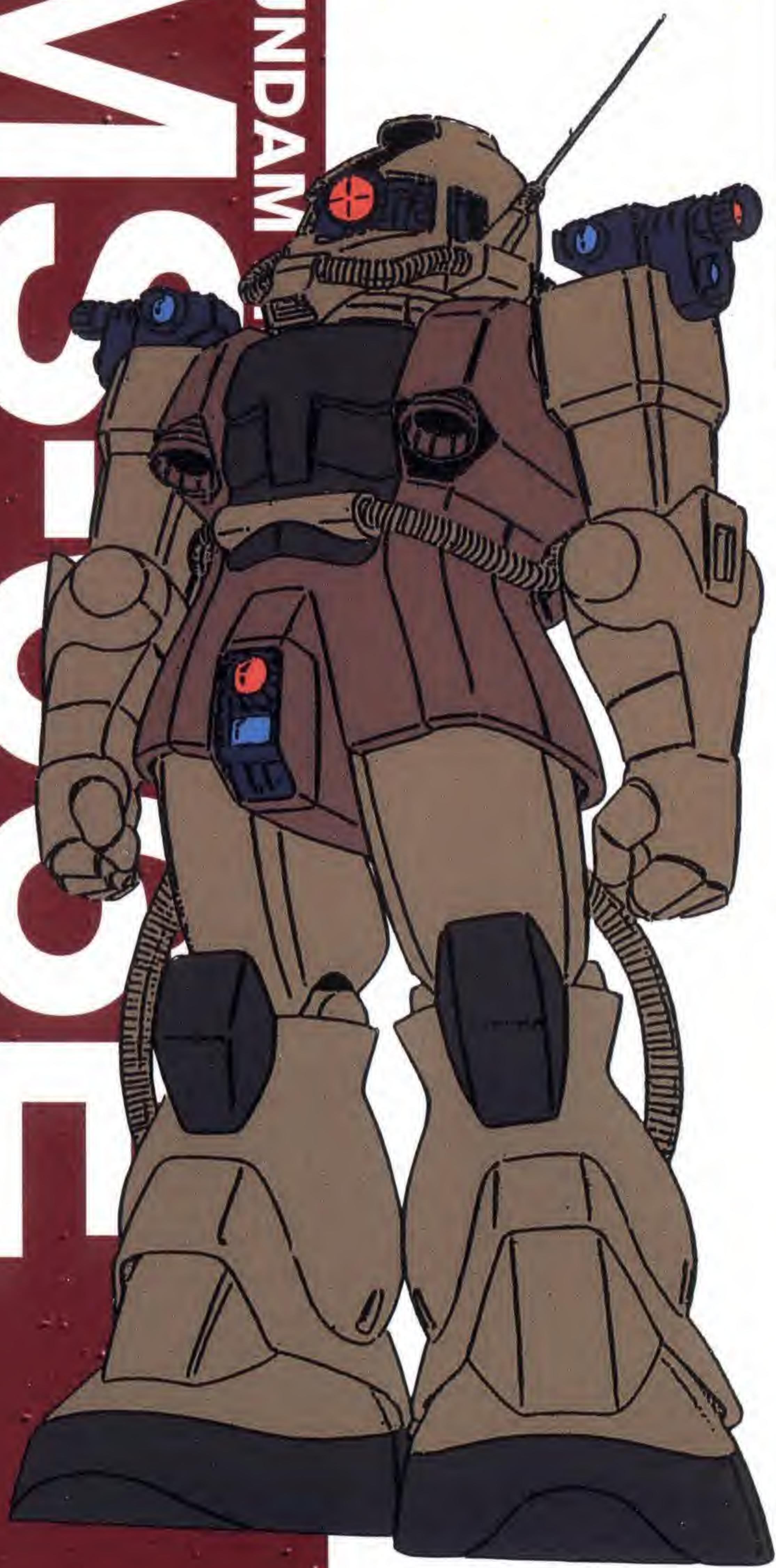
2000-07-04 2000-07-05

20 mm<sup>2</sup> tube 2-0



ザク強行偵察型

Ζ GUNDAM



# MS-06E ザク強行偵察型

機種分類：汎用MS

製造会社：ジオニックス社

全高：頭頂高：18.0 - 17.7m

本体：全體重量：60.4 - 76.2t

ジェネレータ出力：8551kw

スラスター推進力：各3,750kg

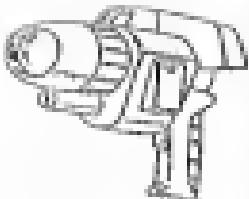
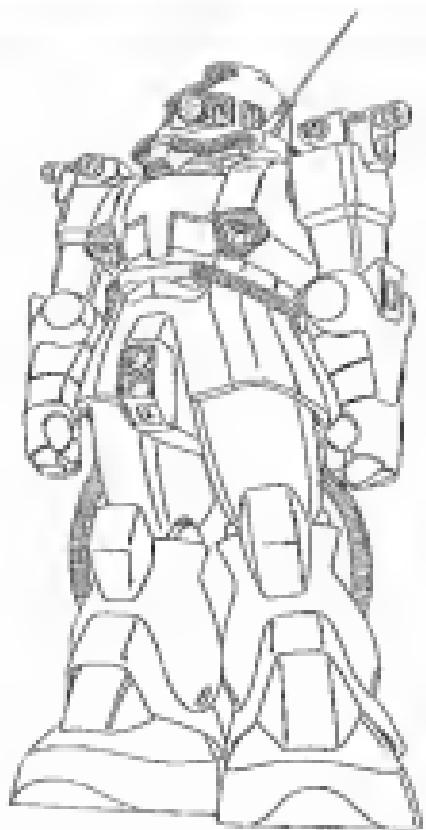
センサー有效半径：3,200m

■『高达-008ザク強行偵察型』は、既存のザクイドの戦闘力を利用した戦術的車輌として開発された機体である。

『高达-008』から再び小型化部分を削り戦闘した機体は、既存の車輌をベースとしているが、機体各部に機関システムを削減したものとなっている。最大の特徴である機関アシストシステムは、もともとの機関武器の力が弱めで大口径の武器を装備するタイプに変更され、それに伴いガラスルーフを削除したものである。また、モノアイマーカーに面ロールを追加し、ガトア可動部日本の戦闘が追加されている。

武器は1基オフ、頭の脇部グローブ部分に1基装備されたガトア、機関砲を装備の頭部砲塔部のケツモード、機関砲塔に装備された機体は通常車にも計測され、一年戦争が開始後も採用された機体が開発された。

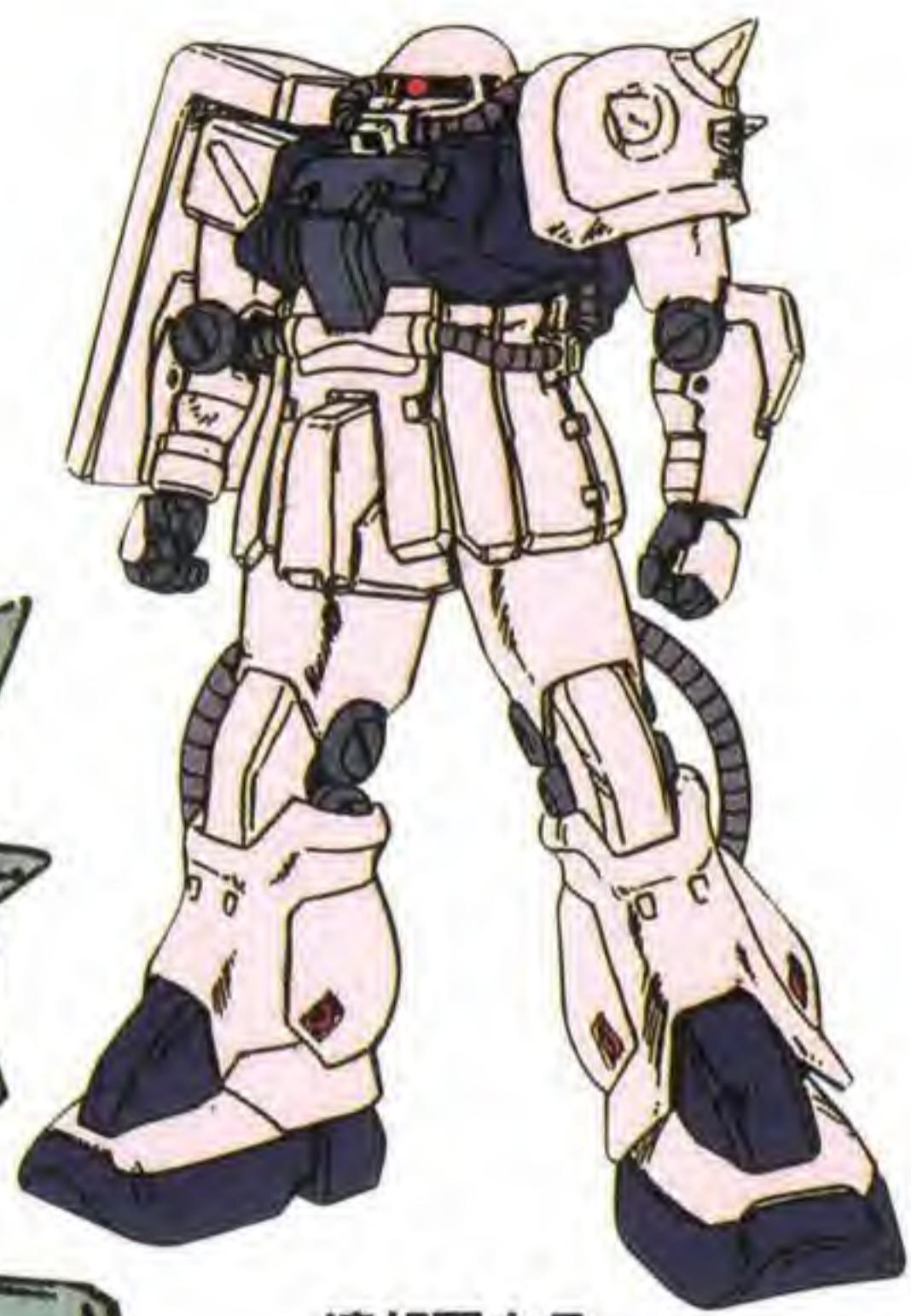
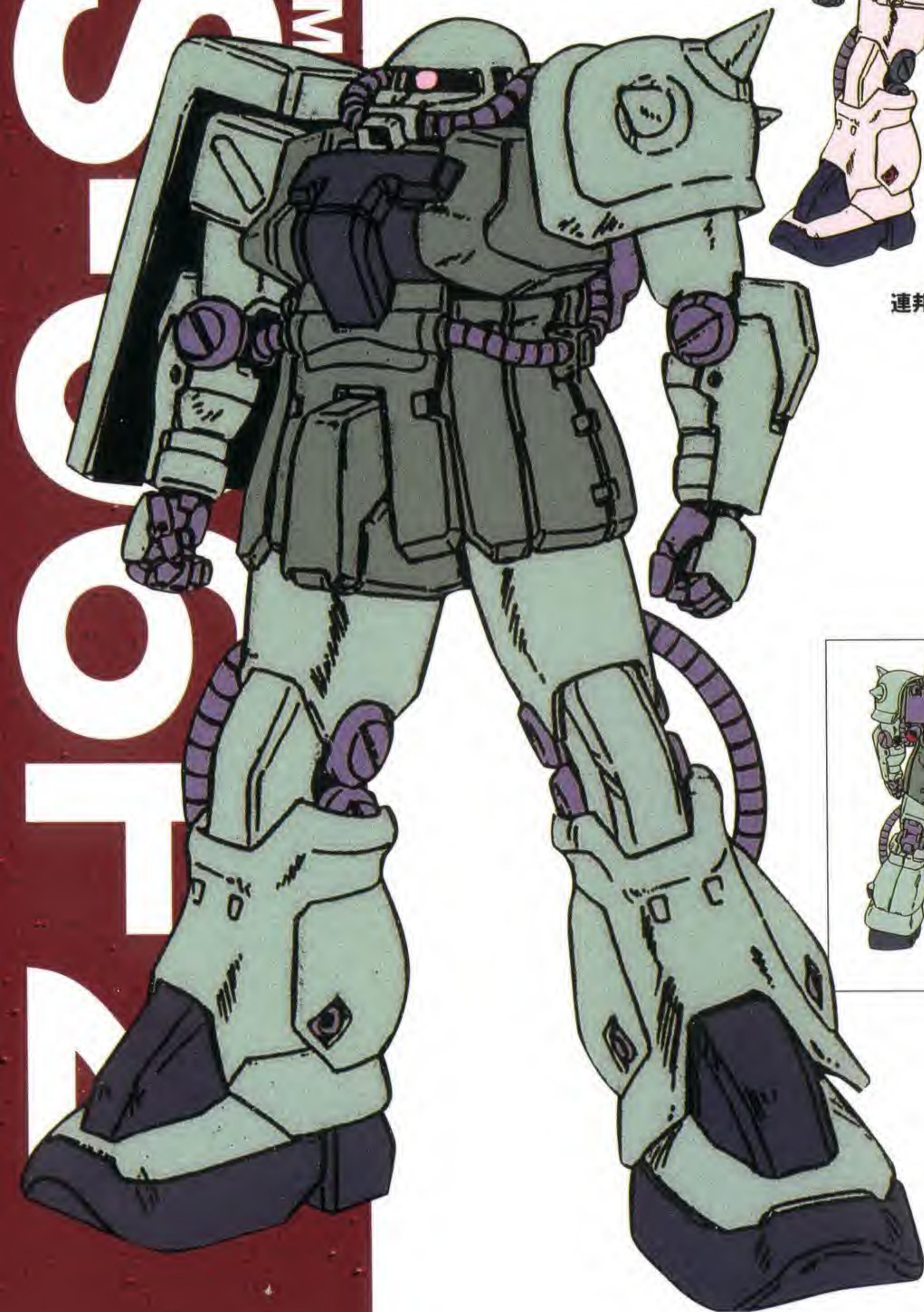
■モビルスィーフ・アリエーション(アラモア)  
■機動砲士ズガンダム



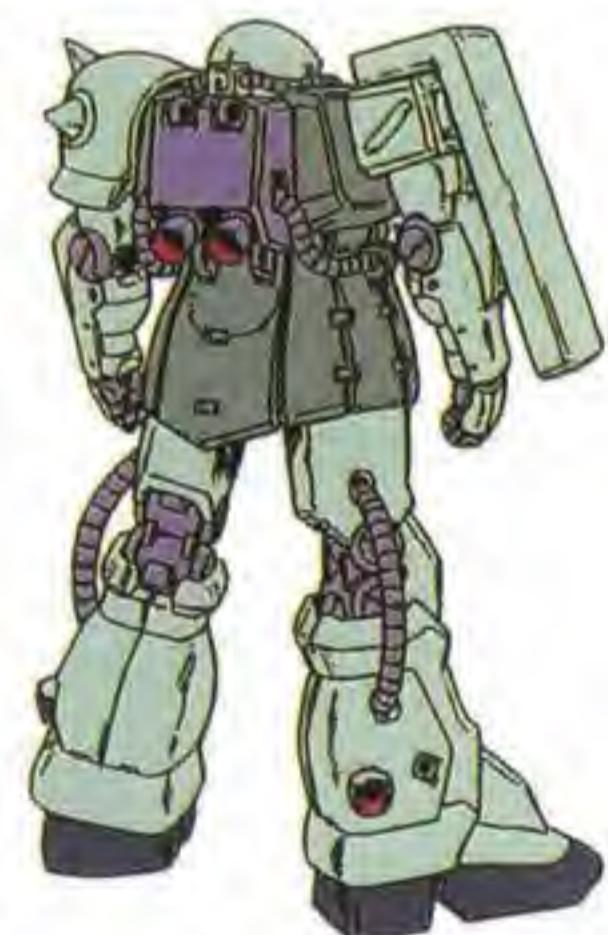
ガーナダム

ザク後期型

GUNDAM



連邦軍カラー



# MS-06F2

## ザク機動型

機動分類：汎用MS

製造会社：ジオニックス社

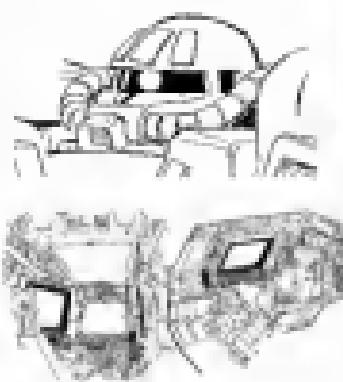
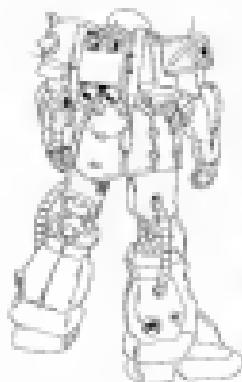
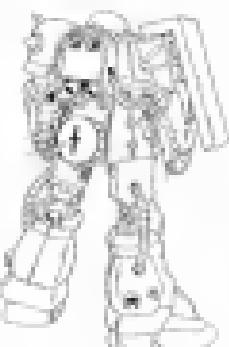
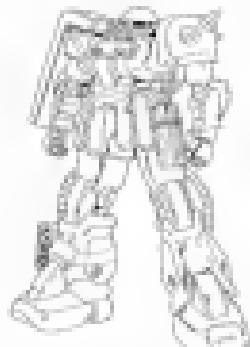
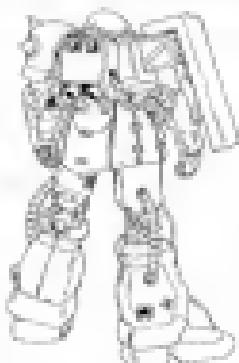
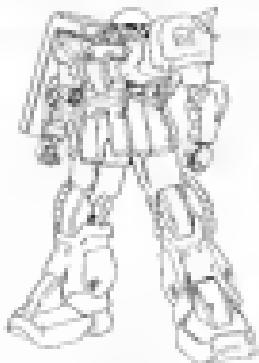
全高：頭頂高：17.5m／17.5m

全幅：全幅重量：49.2t／70.3t

ジェネレーター出力：9000W

スラスター出力：53,400kg

センサー有效半径：3,250m



ヒートホーク



50mmマシンガン

ショットルムフラフラー



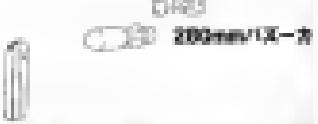
ハンドグリップ



120mmマシンガン

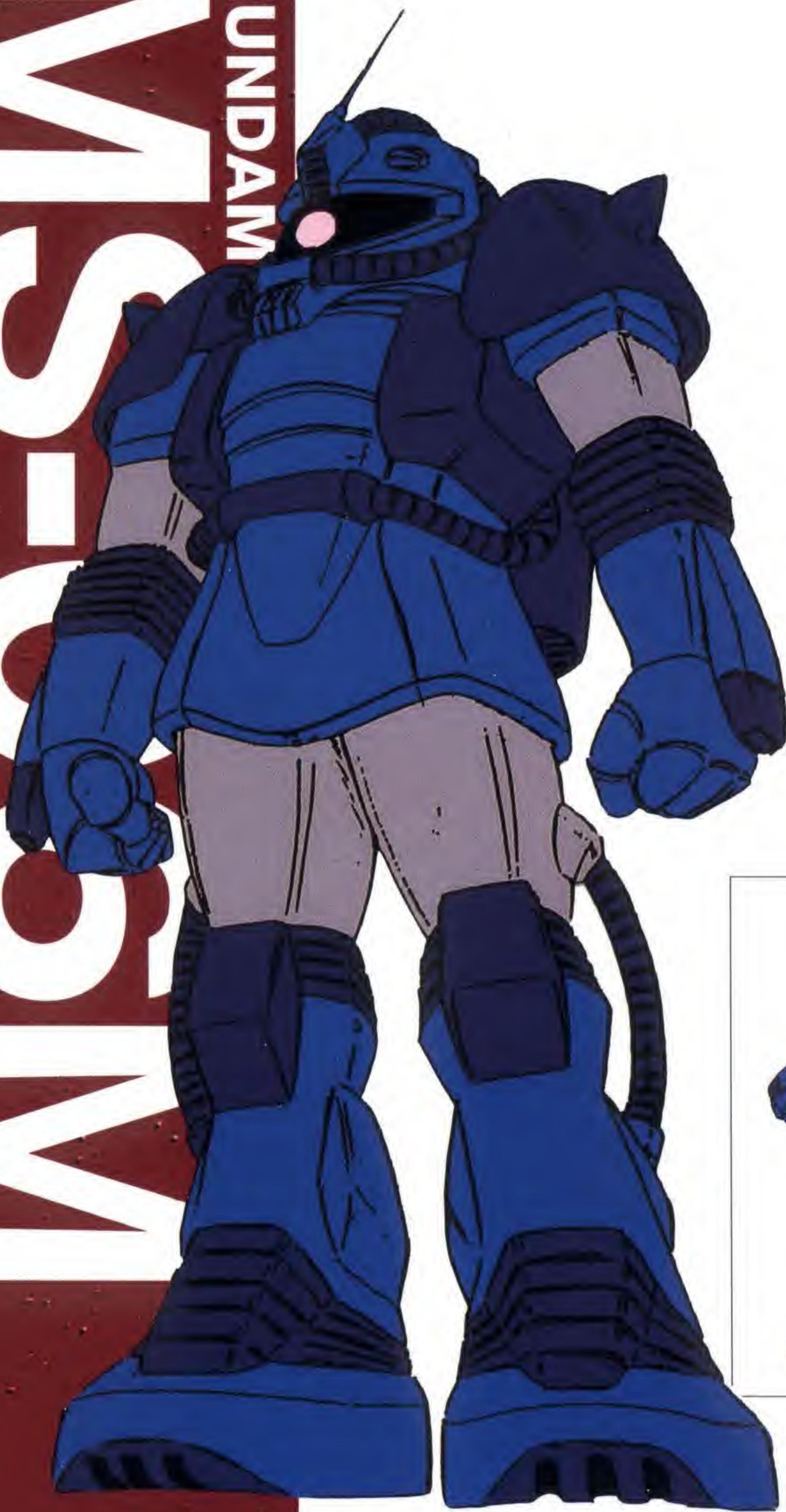


200mmハグ一式



ザク・マリンタイプ

GUNDAM



# MS-06M

## ザク・マリンタイプ

機械分類：宇宙戦闘機

製造会社：ジオニック社

全高：機頭高：16.2・17.5m

全長：全機重量：45.3 t/60.0t

ジェネレータ出力：951kw

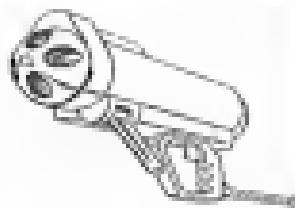
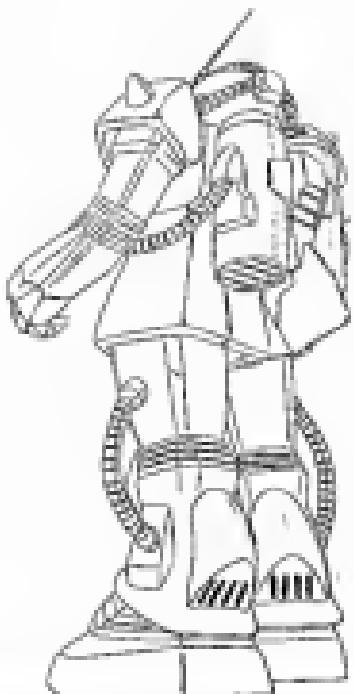
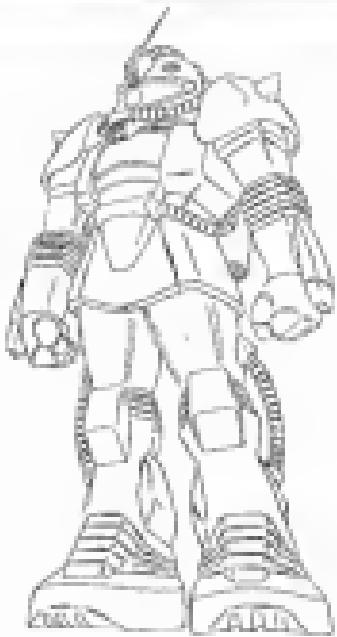
スラスター出力：168,000kgf

センサー有效半径：3,200m

■ プラン軍は、一帯戦争開始後から機動歩行戦闘における運用制限を留め、水中行動が可能なMSの開発を進めていた。新規のMS-06M用水平翼が可能な機体へ適用する計画が立てられたが、司令部が要望するスパイラル逃走ことはできなかった。このため、水平翼開発M級といひ、まったく新設計のM級が開発されることになったのである。このため、M級の改進型は「M級の改良ザク・マリンタイプ」の名前を採られた。水平翼直前の水翼エンジンと水平翼用武器のデータ収集などを、開始段入された。

開発された7機の「MS-06M」は、四大西洋の潜水艦部隊に配備され、結果はともかく、アーティラリーといつては結果を残している。

■ MS-06M・パリエ・ショウ・プラモ用  
機械部品セミコンダクタム

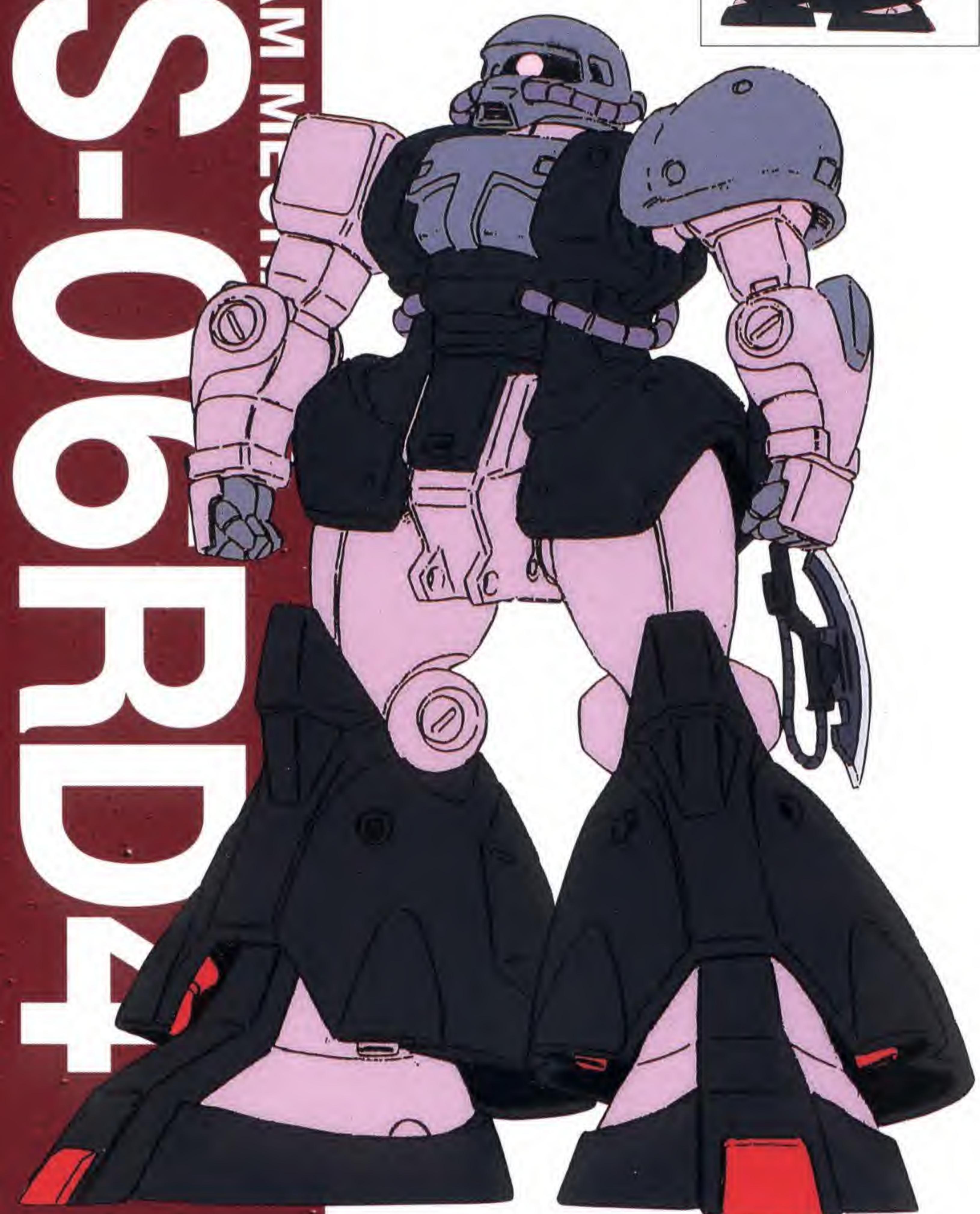


オフロッカ装甲

## ザク高機動試験機

# GUNDAM

25  
9  
6  
3  
1  
8  
7  
4



# MS-06RD4

## ザク高機動試験機

開発番号：テスト用MS

製造：グラナダ基地MS工房

全高：機械高：17.5m / 17.5m

本体・全重量：60.0t / 77.5t

ジェネレータ出力：各600kW

スラスター推力：各3,000kg

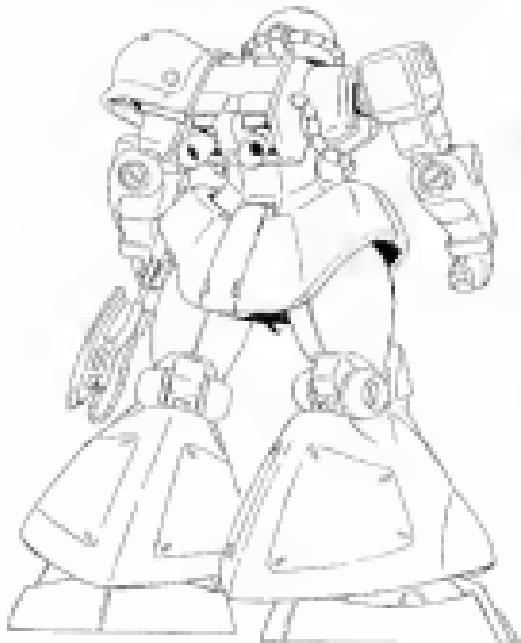
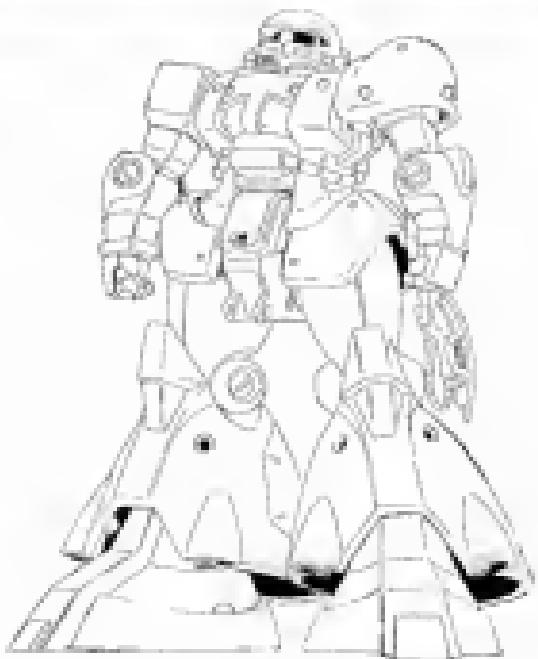
センサー有效半径：3,500m

■一年戦争中盤、ソイン連邦軍機動部隊にて改修されたMS-06（MS-14）が完成させられた。改修は改修導入者であるMS-06の開発者によっていた。改修名MS-06RD4。トモラウイの改修でMS-06とMS-06Rの改修を併用して改修を行なった。

MS-06RD4はMS-06が今日以上の半身比「MS-06R」の頭部をベースに開発された試作機である。頭は「MS-06」の頭部カバーを複数の宇宙服スマスターに換装すると、この複数の機動性能を併用できる形でアスリドするため、この頭部を開発した。その後の上半身を復元しているので、頭部開発のみが半機動のアビリティをもつた形である。

開発グラナダ基地で開発されたあと、機動戦隊用に昇格改修された機動戦隊トライアル中に登場。開発されたまでに多くのデータを残している。

■機動戦士ガンダム』第60話から登場



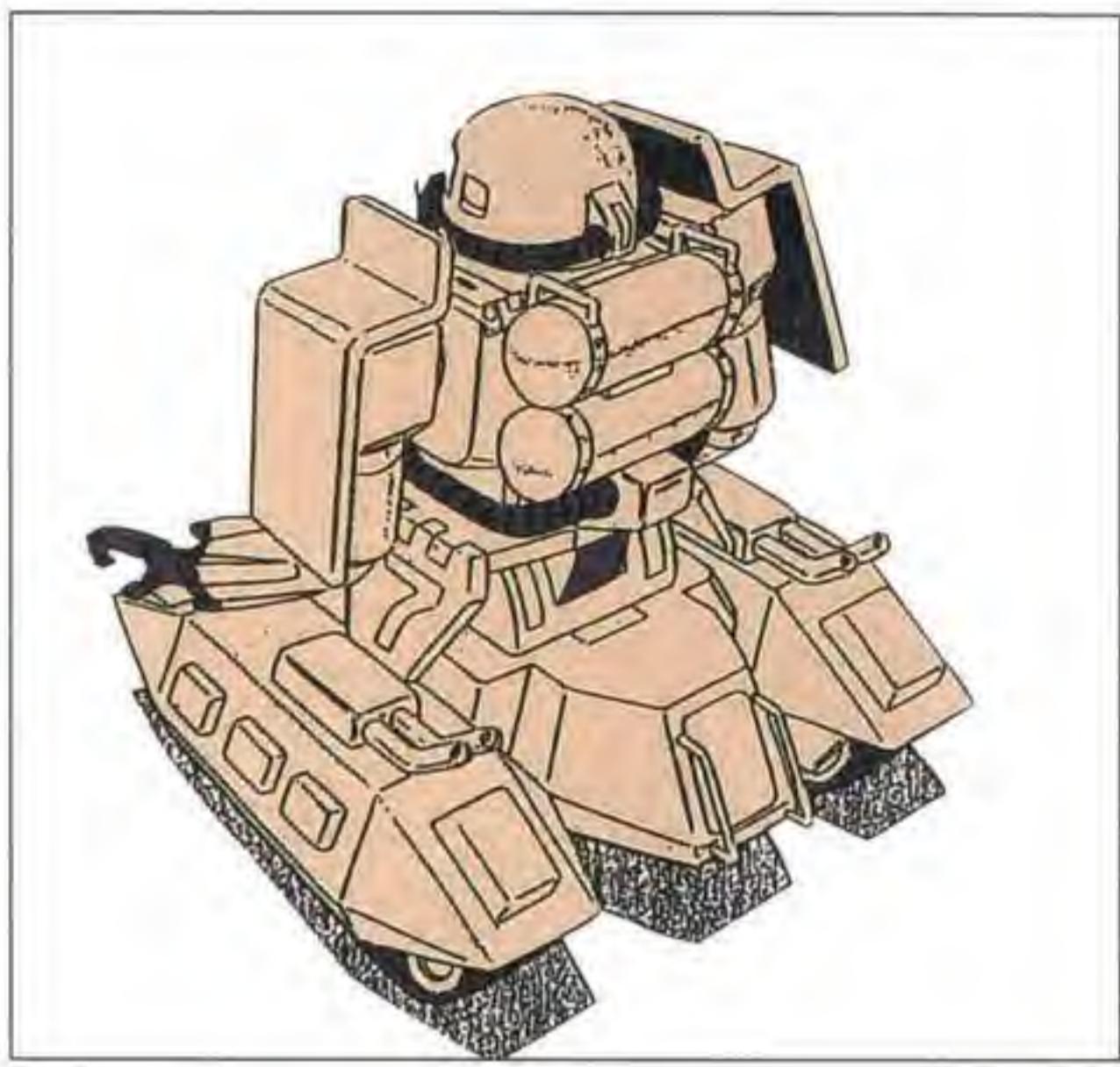
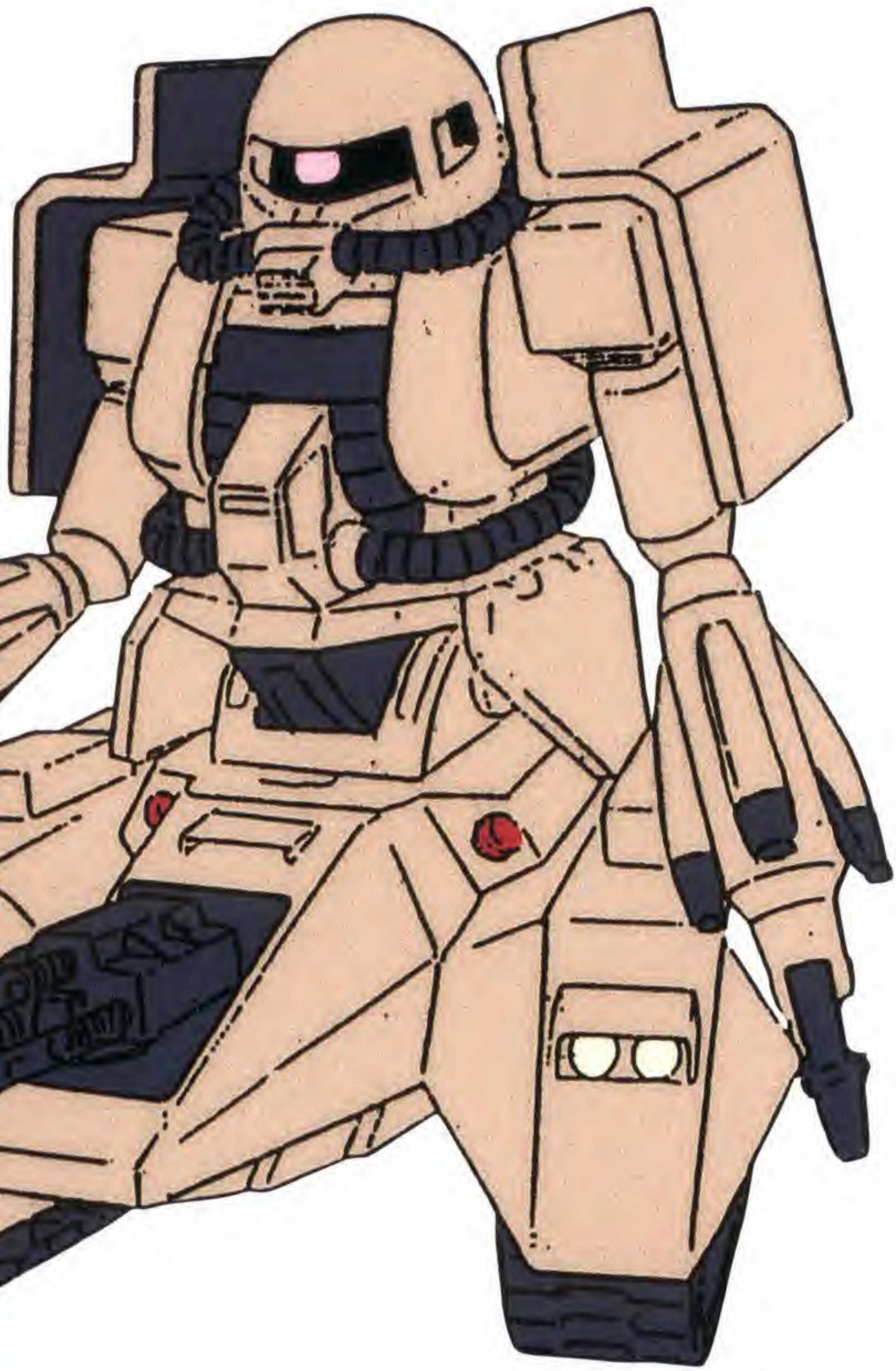
120mmマシンガン



ビームサーベル

ザクタンク

# GUNDAM MECHANICS



# MS-06V ザクタンク

機械分類：荷重用機器

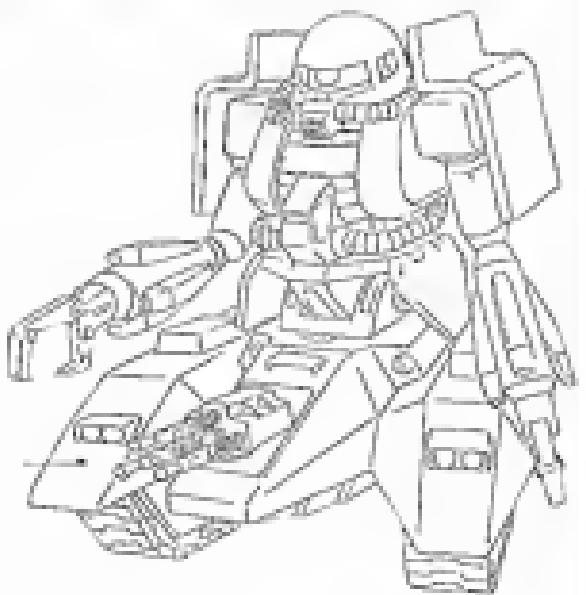
駆動：前輪各駆動

全高：機頂高：14m程度

本体・全幅面積：50m<sup>2</sup>程度

ジェネレータ出力：850kW

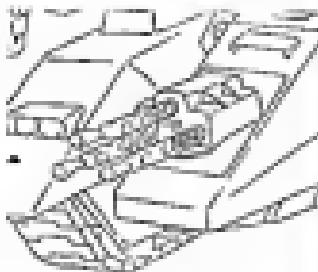
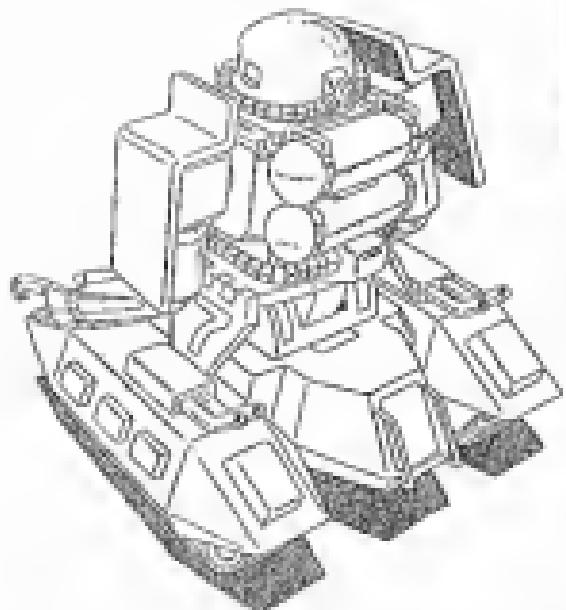
センサー・荷物半径：3,500m



■「ザクタンク」は、ジョン軍の機械化部隊ではなく、ゴードン生産されたものではないのです。正確には、機械は存在しない。もともとは地上の荷物搬送が問題によって機械の開発されたザクの上半身と、マゼラットの車体（マゼラベース）を組み合わせて作った作業用マシンだった。作業用マシンとして機械のオニヒューラー開拓的性能は大きく、中でも機械の本体からない荷物搬送ではこのようなりマイクロ機は非常に重宝されたのである。そのため車両式の機械ではあるが、車両式でも開拓したため、多くの開拓用「ザクタンク」が製作された。

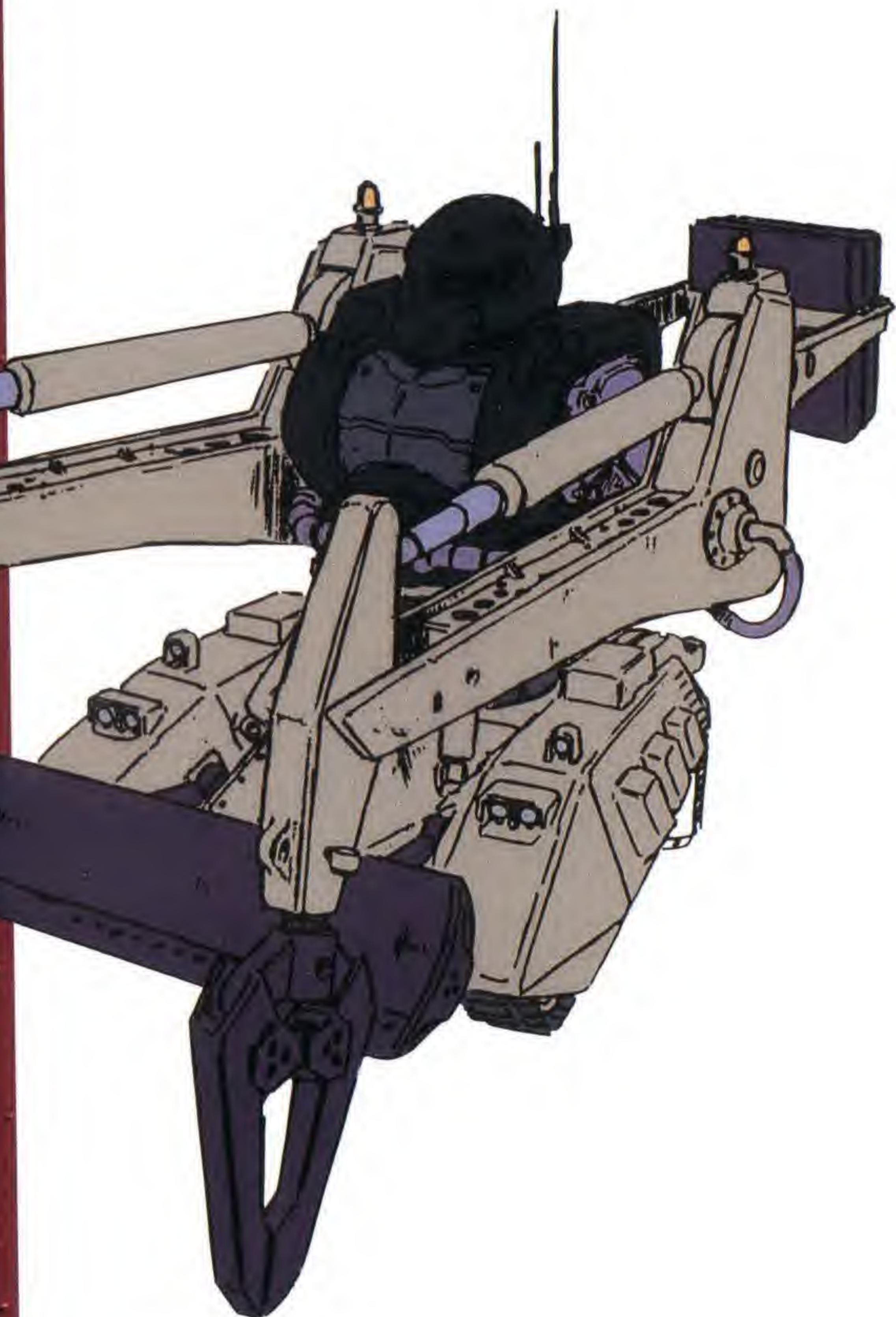
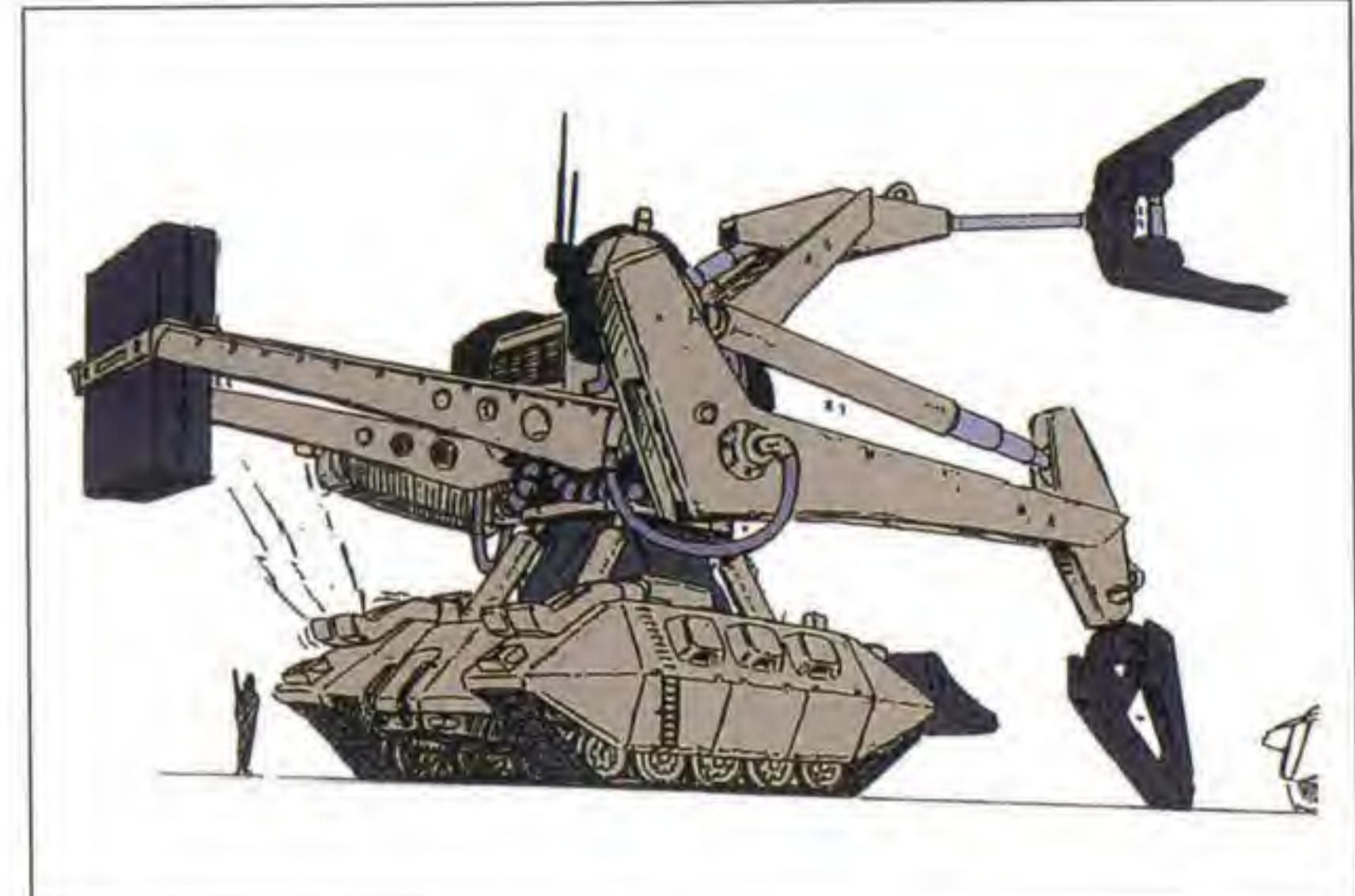
基本的にZCは前線基地での荷物搬送や、M60の移動・荷物などに使われた「ザクタンク」であるが、なかには式典を防ぐ目的に使用する機種もあった。

■セミカーゴ・ザクエーション（ラムズル）  
重量級荷物スパンボム



35mm機銃砲

## ザクタンク



# MS-06V

## ザクタンク

機動兵器：機動戦士Gundam

属性：機動戦闘用

全長：機動高：12m程度

速度：全速度：451km/h

ジオネレータ出力：8000W

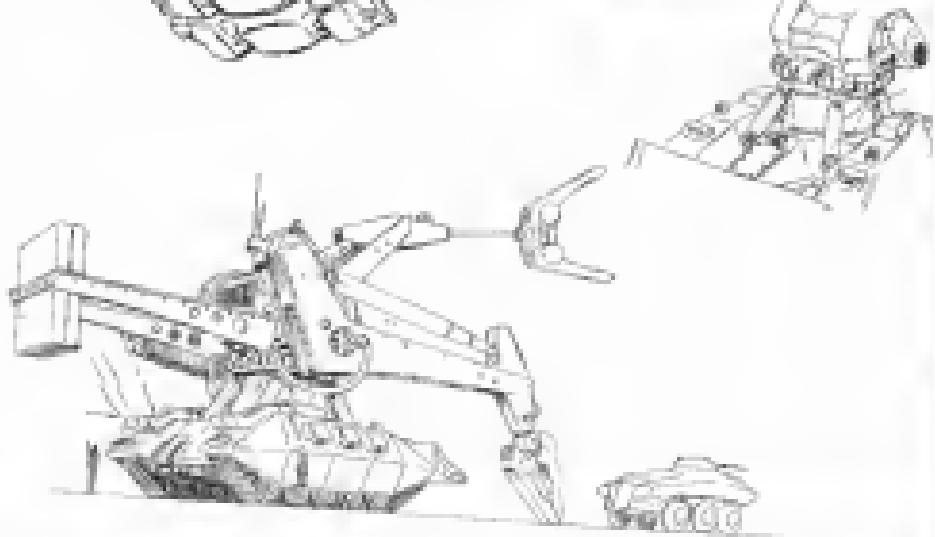
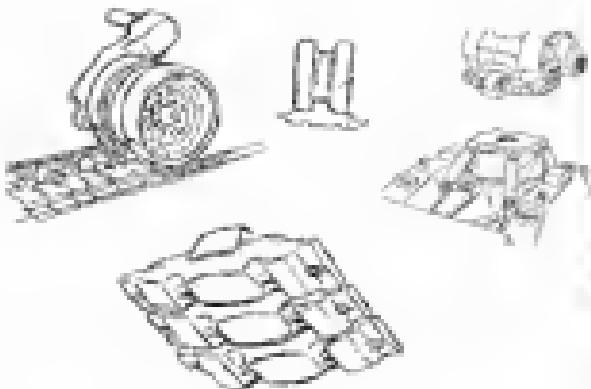
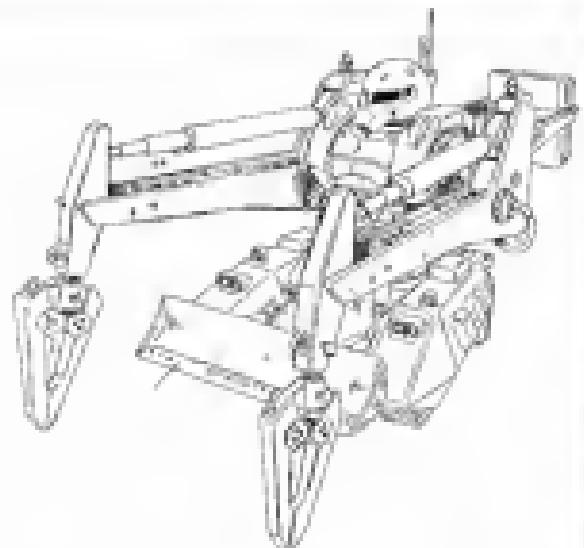
センサー感知半径：2,900m

■「ザクタンク」は機動戦闘用として、機動を強化した形態では、機動もさることながら歩行も出来ない。特にG級は機動と機動が重く、機動の効率が悪くなる傾向があった。「ザクタンク」は、これらへの弱點を整備車両と、工作機械用機の必要が発生された結果である。

「ザクタンク」は機動によって機動を強化されたザクの上半身と、ザクタタックの頭部(マガラベース)を組み合わせて作成。人馬を機械駆使でなく、兵士との併用が可能でもあった。機動は、機動によって機動をマガラベースで活性化する。

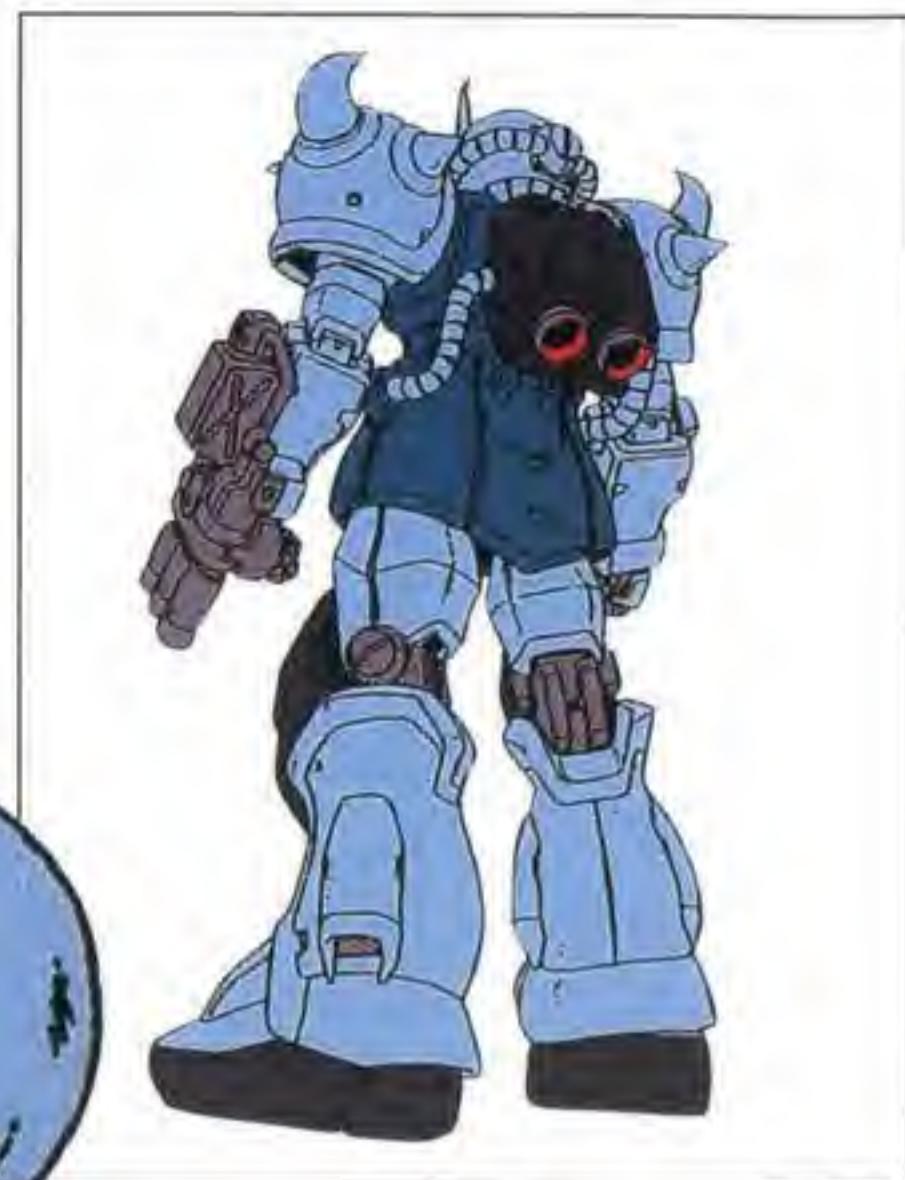
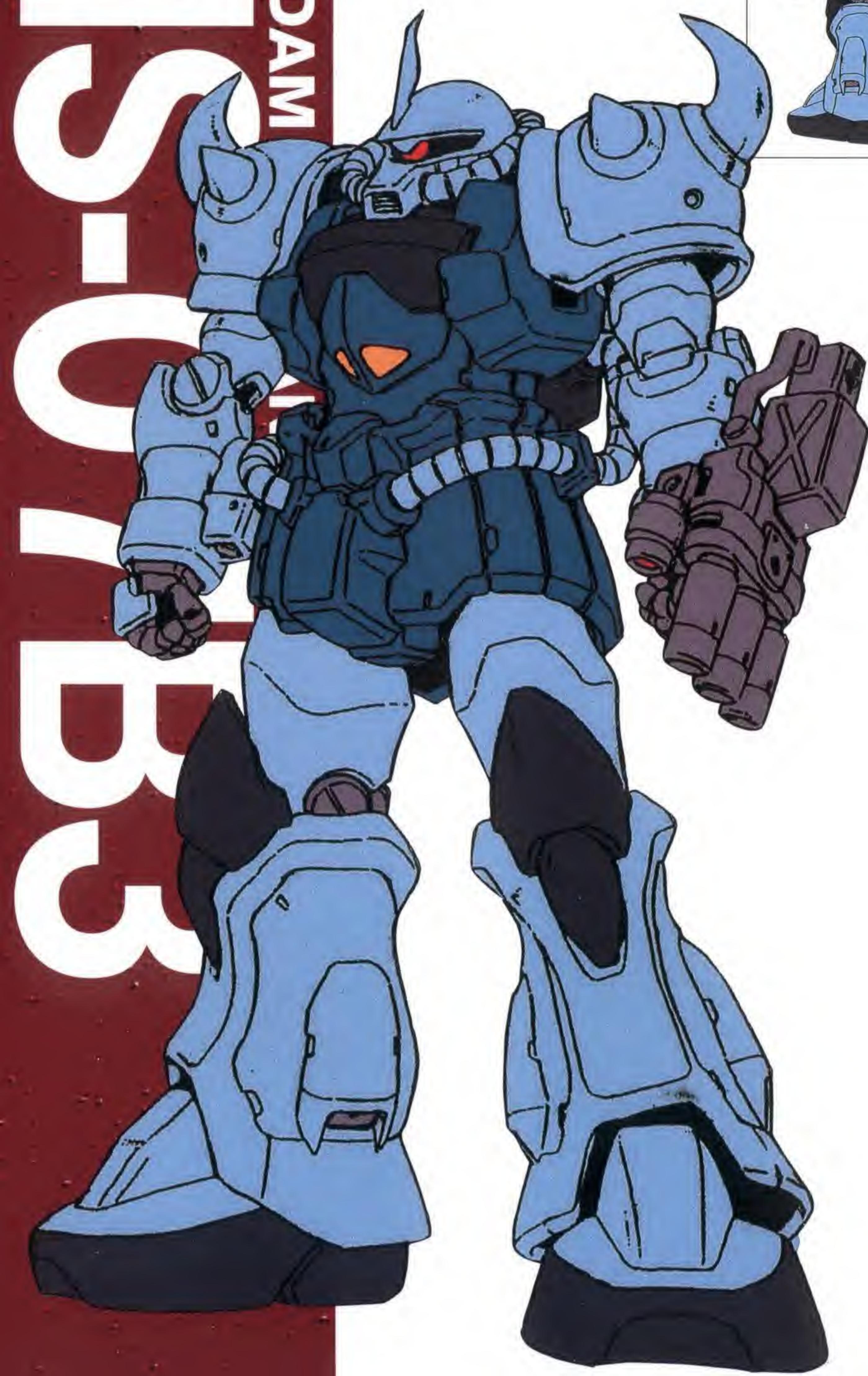
この「MS-06V」は上半身を装備して機動から機動がはすされ、ドーパーブレードやロングマニピュレーターが取り付けられると完全な作業用タンクとなっていた。

機動戦士ガンダム、機動戦闘用機



グフカスタム

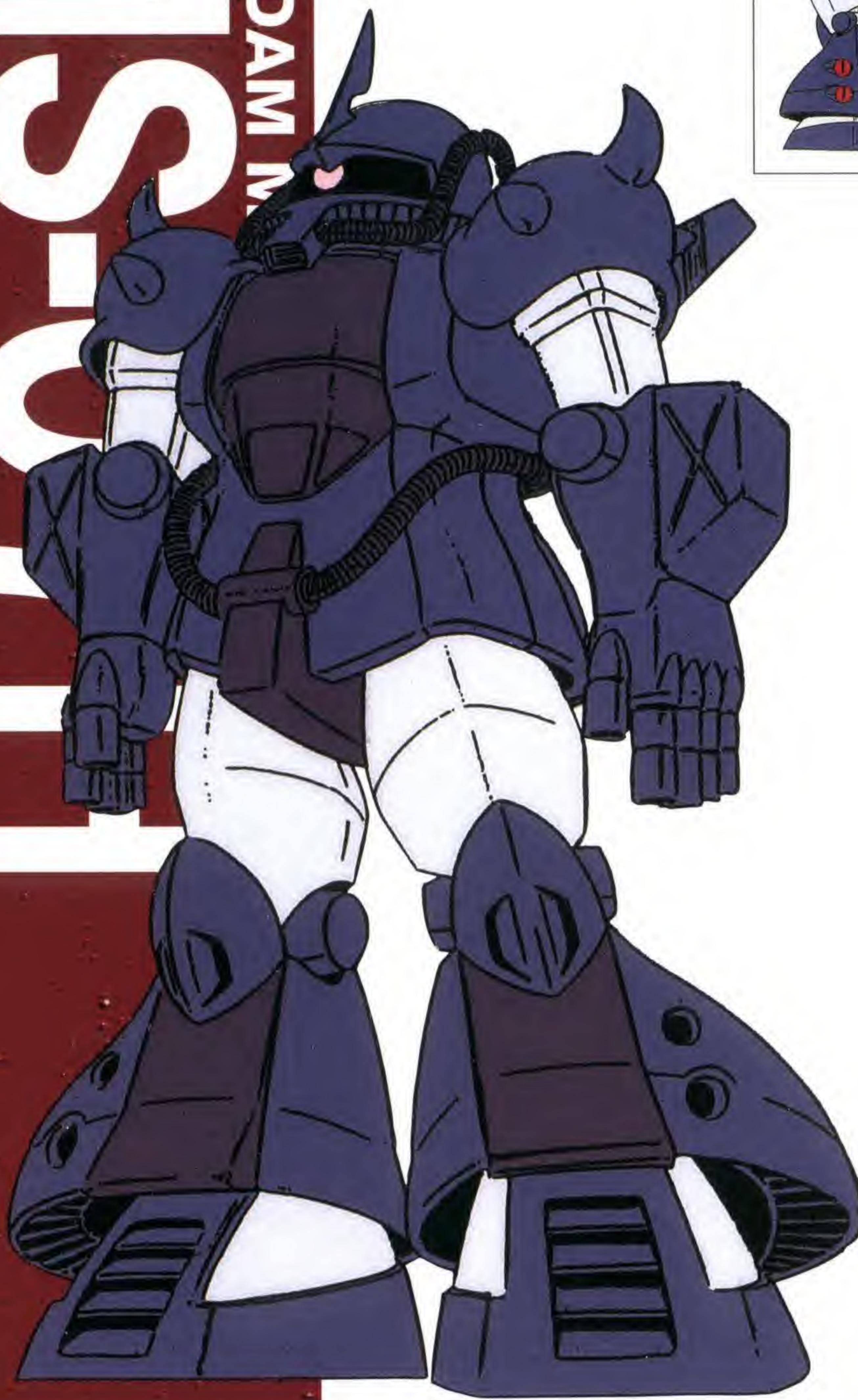
GUNDAM





グフ飛行試験型

GUNDAM



# MS-07H クフ飛行試験型

機種：機動戦記GUNDAM

製造会社：ダオニック社

全高：頭頂部：19.3m・18.0m

連体・全體重量：62.5t・76.6t

ジェットレーター出力：1,034kw

スマスター総推力：60,075kg

センター重量半径：3,600m

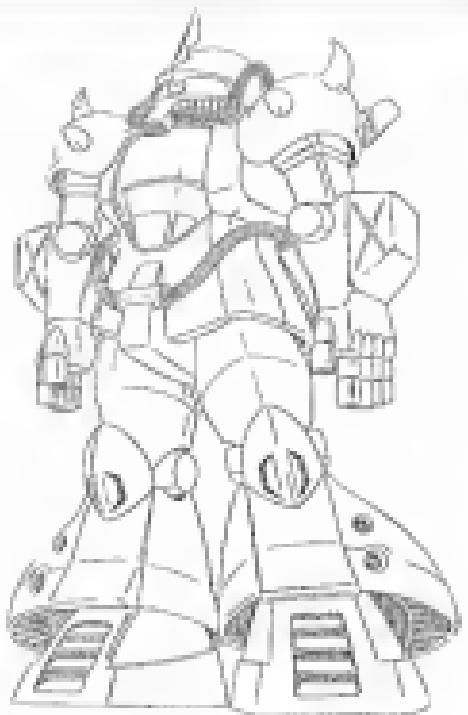
■「MS-07Hグフ」の配備が行なわれるのと同時に、再びの半角止をするとMSに飛行能力をもたらすプランが策定された。このプランをもとに実現に移され、グフをベースとした飛行試験機が開発されたのである。

「MS-07H」は飛行試験型の「奇機」であり、サイズまで製作された後、アリバードのプラットフォームから運ばれてドックを受けた。

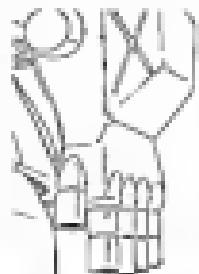
実戦を中心に強化された機動システムを持つ「奇機」は、質実剛健なキャラクターに加え、頭にも高層の2基の推進器が装備されている。しかし、頭部を被る飛行装置と同時に頭部から出る通風装置をもつてしても頭部が不運となると「MS-07H」からのテスツはすべて失敗に終わるのである。

だが、それらの実験データは「MS-07H」のカバー運用範囲に大いに役立った。

■ミルスー・バエージョンガラモPAN  
機動戦記GUNDAM



360mm×12mm



1連装75mmマシンガン

グフ飛行試験型

# GUNDAM MECHANICAL



# MS-07H8

## グラ飛行試験型

機種：機動戦闘機MS-07

製造会社：ジオニック社

全高／翼幅高：10.7／16.2m

本体／全機重量：61.5／77.8t

ジェットモード速度：1,130km

ミラクルモード推進力：108,400kg

センサー有效半径：3,800m

機動飛行実験機として操作された「グラ飛行試験型」の改良型の改進型が「MS-07H8」である。実験飛行時に爆発してしまったものの、比較的良好な結果が得られた「MS-07H4」の設計コンセプトを踏襲しつつ、実際に改良が施され、改良が試みられている。

バッカーラックと機頭のスラスターをより強力なものに換装し、開閉の制御システムエンジンも出力の高いものが使用された。バッカーラックとスカートアーマーに取り付けられた可動装甲を正面に並び左右での運動範囲を飛躍的に広げている。しかし、スラスターの推進力の増加量は小さく、機頭ジェットエンジンの冷却問題は依然として残っており、高速アモードモードと飛行を行なうと飛行時間は格段に短くなる。

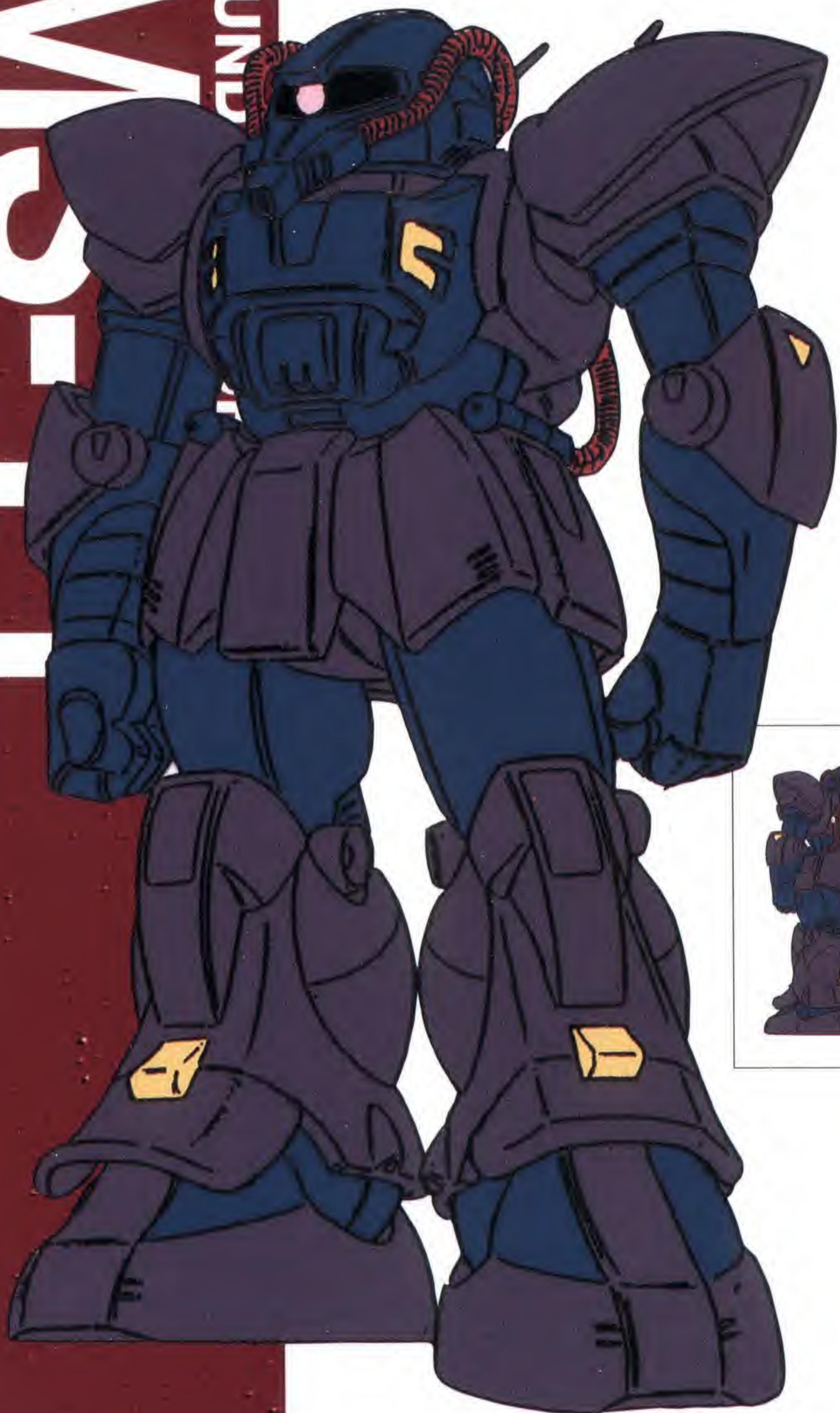
機動戦闘機ガンダム／機07H8改

3連装35mmガトラング

ホルブルー MFT5mmガトラング

アクトザク

Gun



# MS-11 アクトザク

機體名: 汎用MS

製造会社: ジオニック社

全高: 腰部高: 18.2m / 18.2m

本体重量: 約8.1t

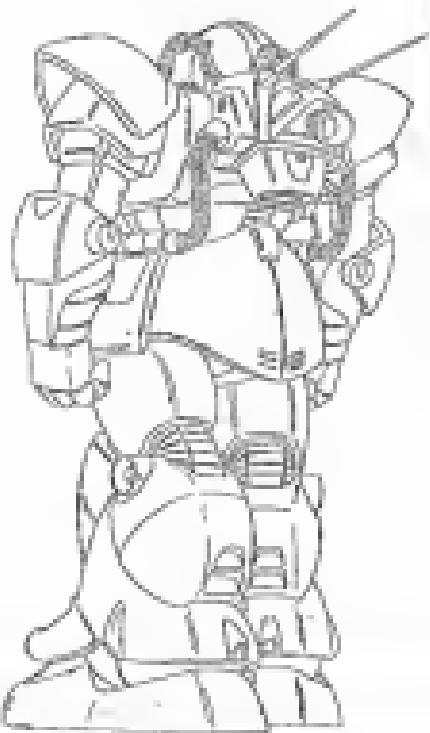
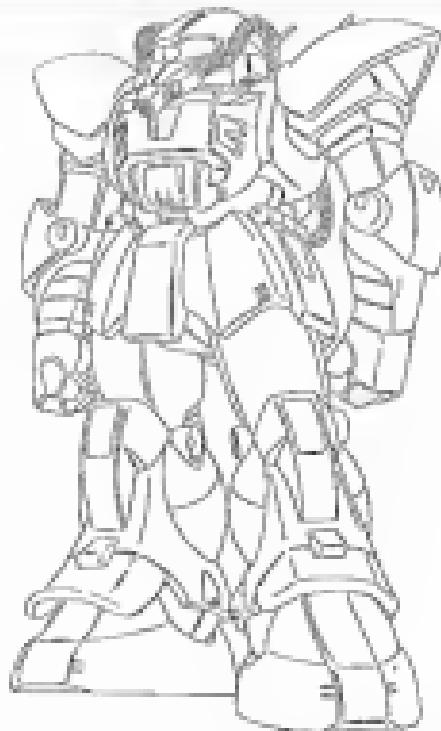
ジェネレータ出力: 1,440kw

スラスター推進力: 約4,800kg

センサー有效半径: 3,500m

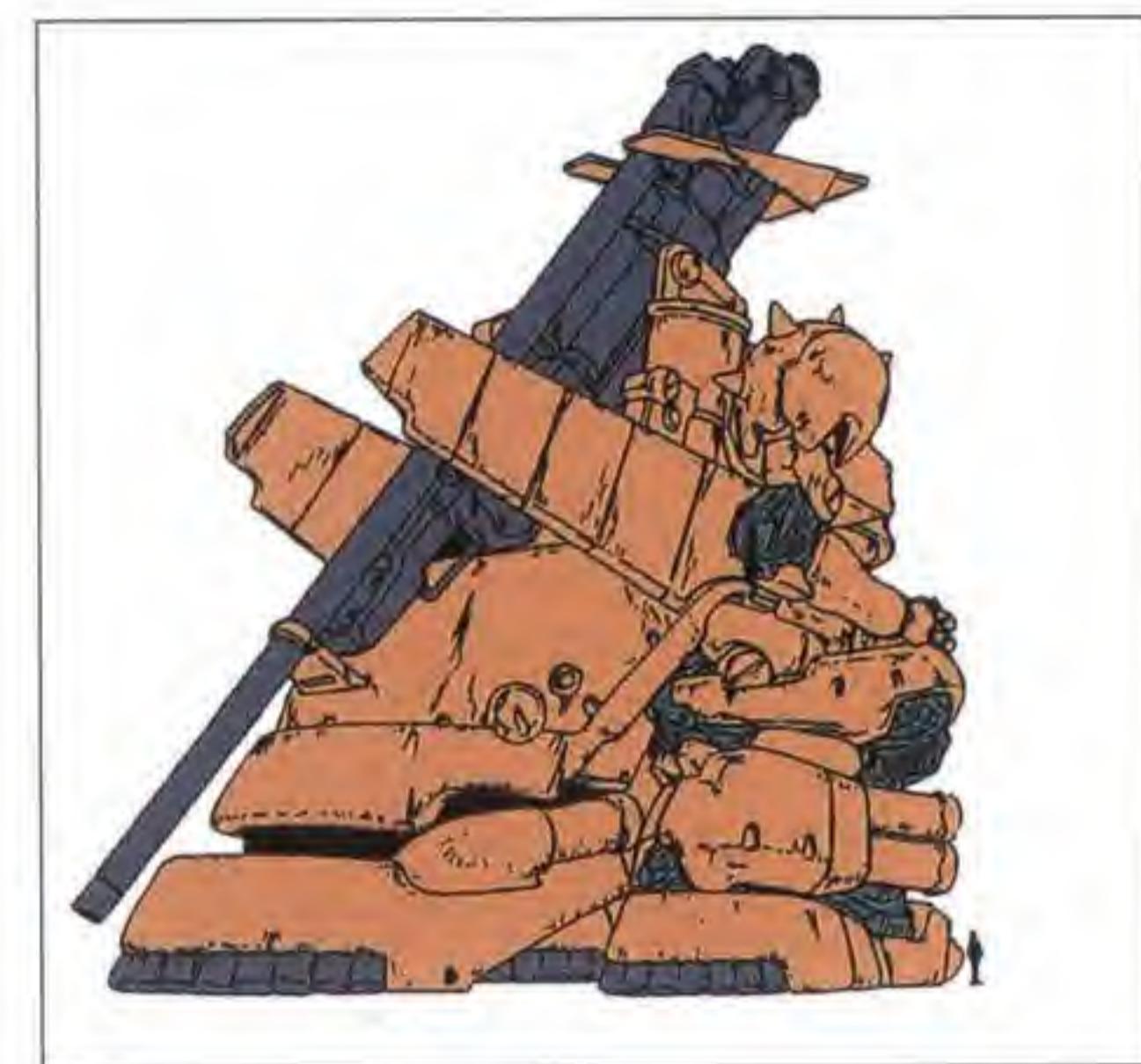
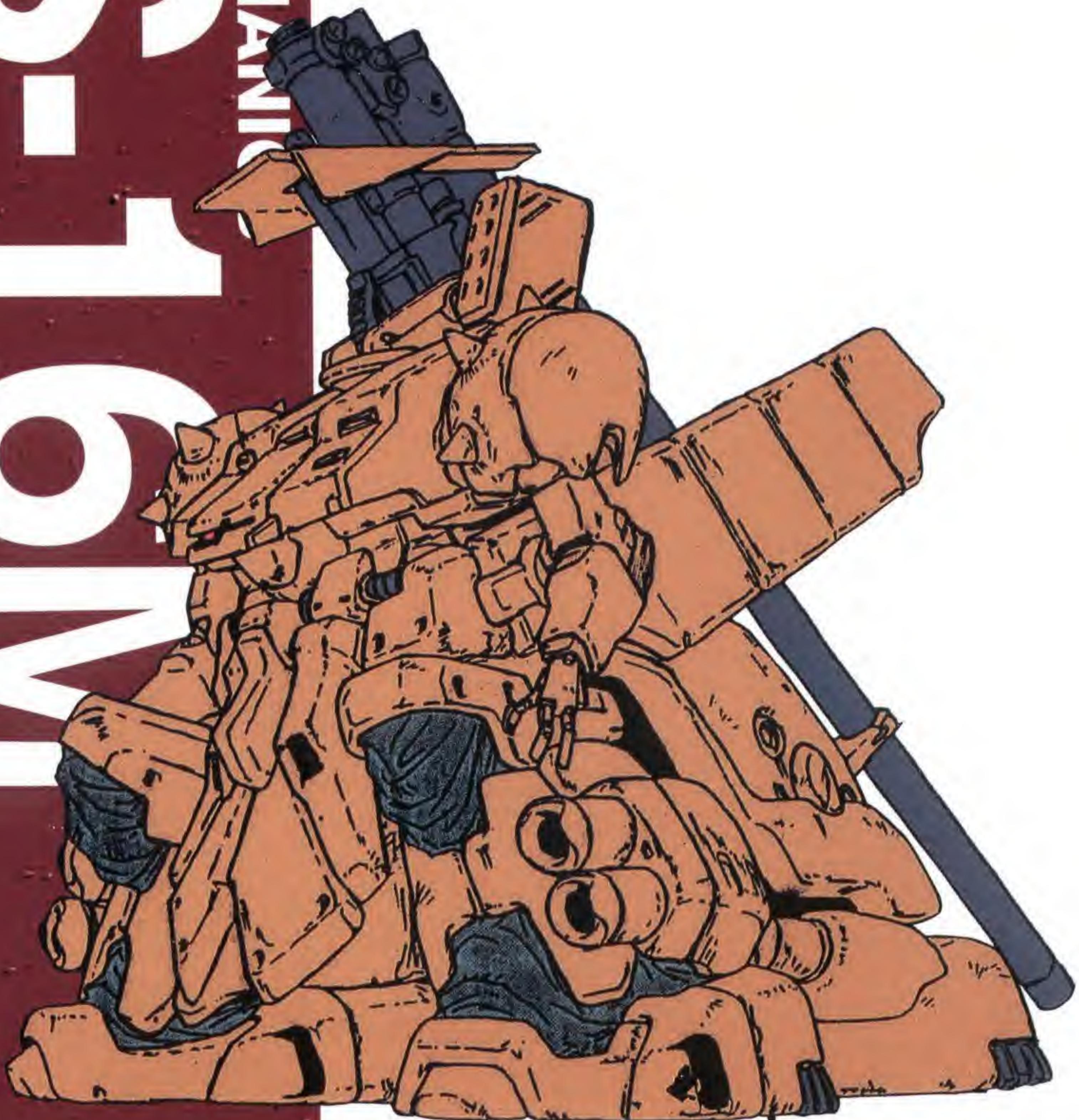
■一年戦争後半、ジオン軍が改修主力MSとして様々な機体を開発していた。「MS-11アクトザク」は、MS-06系の設計を継承・改良し、総合的な戦闘性能を向上させた機体である。この機体の開発背景は、これまで運用されていたMSのうち、もっとも汎用性に富み、信頼性も高いMS-06系を近代化させたいというコンセプトから生じた。

実験的ではあるが、駆動部を電磁炉で熱化させて、理論的にメカニック的な駆動を打ち消すことでモータマグネット・コーティング処理が施されており、テストでも燃費を確認をした。時期のためジオン軍はこの機体を量産することができなかったが、開発その性能の優秀さが認められ、生産実績を確認した結果の中で量産されることになった。新モビルスーツ・アリエーション(アモチ)開発助成士エガンダム



ザメル

# GUNDAM MECHANIC



# YMS-16M

## サメル

開発会社：歌留磨機器MS

製造：カリフォルニア高橋機器工業

全高：27.5m

本体・全備重量：75t<sup>2</sup> / 121.8t

ジェネレータ出力：1,000kW

スラスター推進力：各1,000kN

車輪式の走行部、中央部車輪支脚を有する。

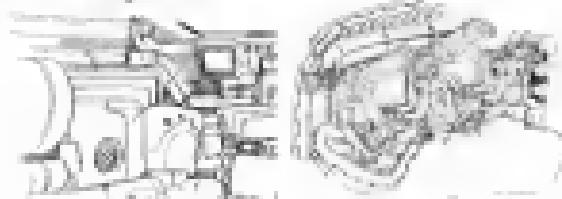
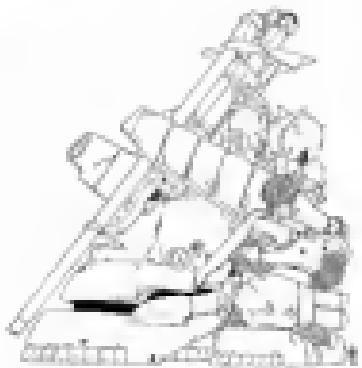
主車輪の車輪径が、車幅とスルートに拘束された大推力の燃焼ガスエンジンを駆動したホバー走行により、高速で移動を行なうことができる。また、一定間隔ついているが、はんぱれ航行であり「移動砲台」の印象が強くなる機械である。

主武器の砲身mmカッパ砲は、機体の全高よりも長い砲身を持つため、通常は二つ折りの状態で運行される。射撃の際は砲身を零度状態にして、垂直砲架車の車輪構造を用いる。移動砲台の武器は装備されていないため、基本的には移動砲台を行なわない。

コクピットは複座式、前方に操縦者が座り、砲撃手は前方で大砲砲バーンルームを行なう。

開発者：ガントダム0000

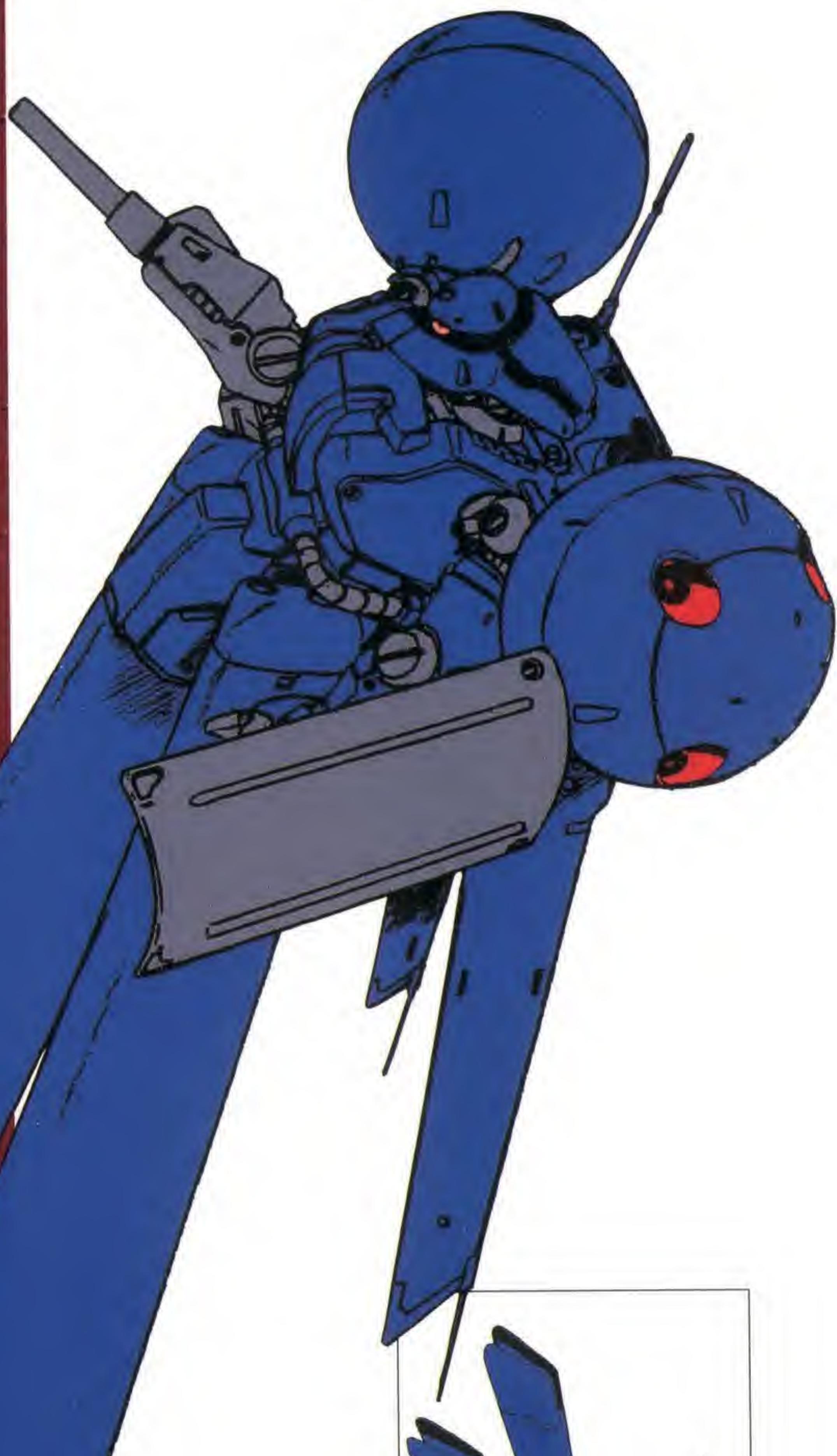
スチーブン・トマモリ



ド ラ ッ ツ ェ



GUNDAM MECHANICS



# MS-21C

## ドランジェ

機種分類：宇宙戦闘用MS

製造：チラーズ・アリート

全高：29.0m

本体／全機重量：22.5／49.0t

ジェネレーター出力：500Gaw

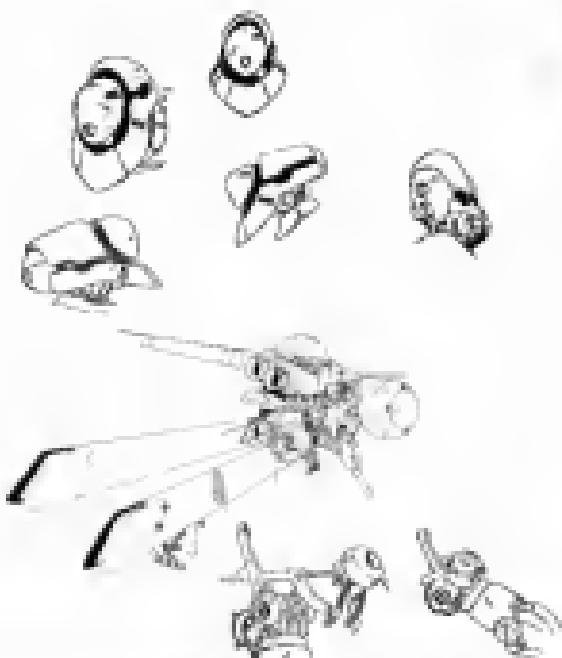
スラスター推進力：117,500kg

新ジオン軍規範のアラゴ・アリートが  
独自に開発したMS。しかし、初期には  
後継されたが船を船のバーフをつなぎ合  
わせで作ったリサイクル船にすぎない。

開発はあちこちで、それに宇宙戦用機  
からのスラスターを装備している。武器  
はアロベントランク重コラスターとな  
っており、運動性はそれなりに高い。た  
だし、MSというよりは船冠のアーマーに  
近い機体のため、AMMWC機能はない  
ものの、運動性はさすがに高い。両肩  
に取り付けられたスラスター・ポートは、  
その運動性を補うためのものである。

資源不足の中、両肩の装備として選定  
された開発はむり難いこすすぎないため、生  
産個数も結構的後と少ない。

## 魔術騎士ガンダムQ003 スクータストメモリー

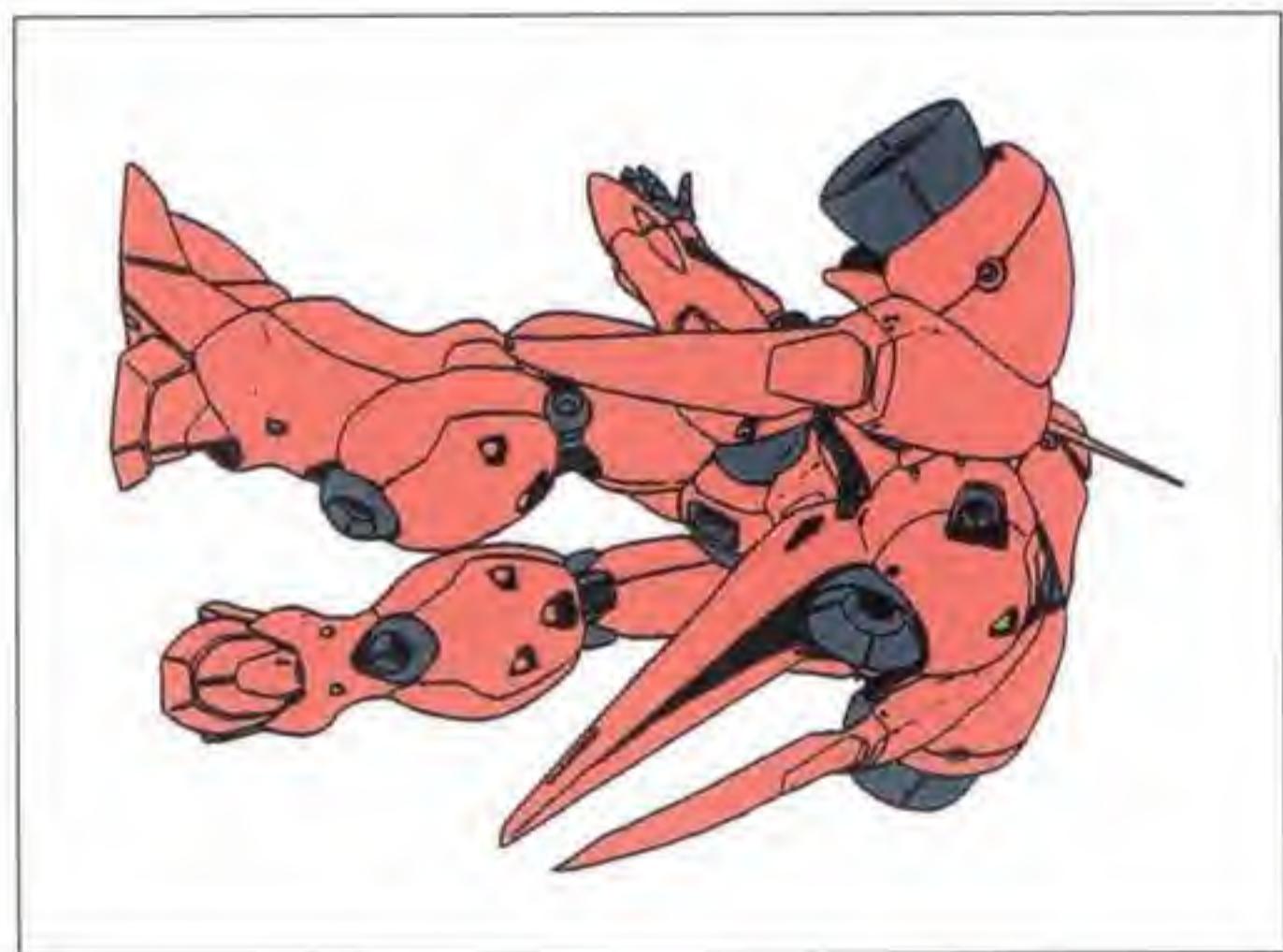


ガーベラ・テトラ

# GA

# GUNDAM

# MANICS



# AGX-04

## ガーベラ・テトラ

機動兵器：宇宙戦闘用MS

製造会社：アナハイム・エレクト

ロニクス社

全高：10.0m

本体：全重量：48.7 / 73.2t

ジェットモード：1,710km/h

スマスター機動力：222,000kg

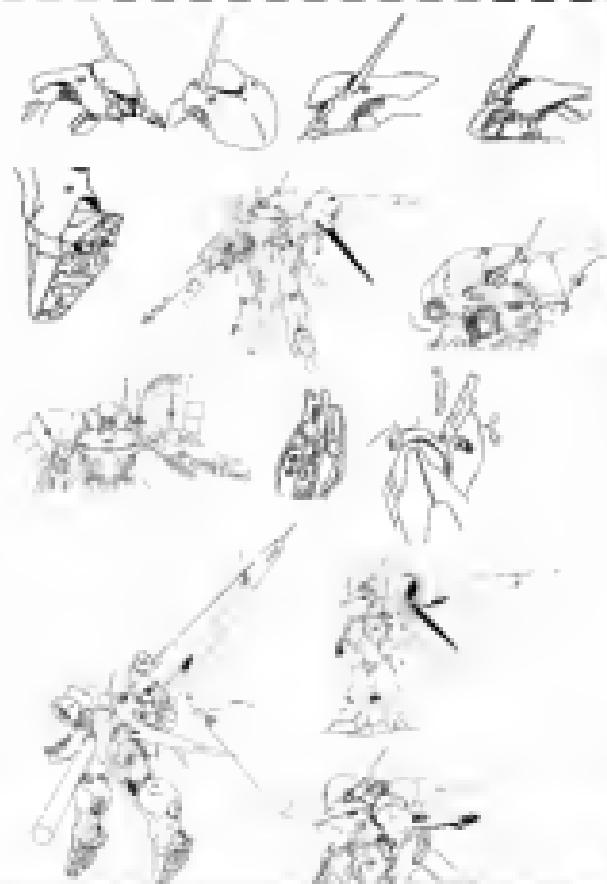
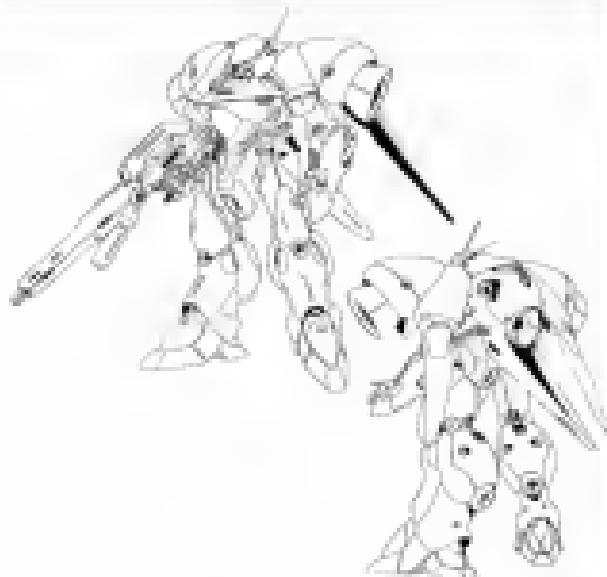
■このガーベラ・テトラは、先ほ「ガンダム試作4号機／GP04」にかかるはずだった機体である。

「ガーベラ・テトラ」は、アナハイム社に依頼された際、GP04試作4号機の機体に名前が書かれた宇宙戦闘用の機体。T試作が開拓された。しかし、開拓コニカブトマークGP01と重なることから、GP04の機体はキャンセル。開拓技術の部分はそのまま取り入れるはずだったが……。

ガーベラ・テトラには宇宙用オプション装備として、ブローバン・ラングとスマスター・スコッパーが付いた「ショルダム・ブースター」が装備されている。これを装備することによりガーベラ・テトラの機動性が飛躍的に上昇。機動戦として上、トップクラスの機動性・攻撃性を誇っている。

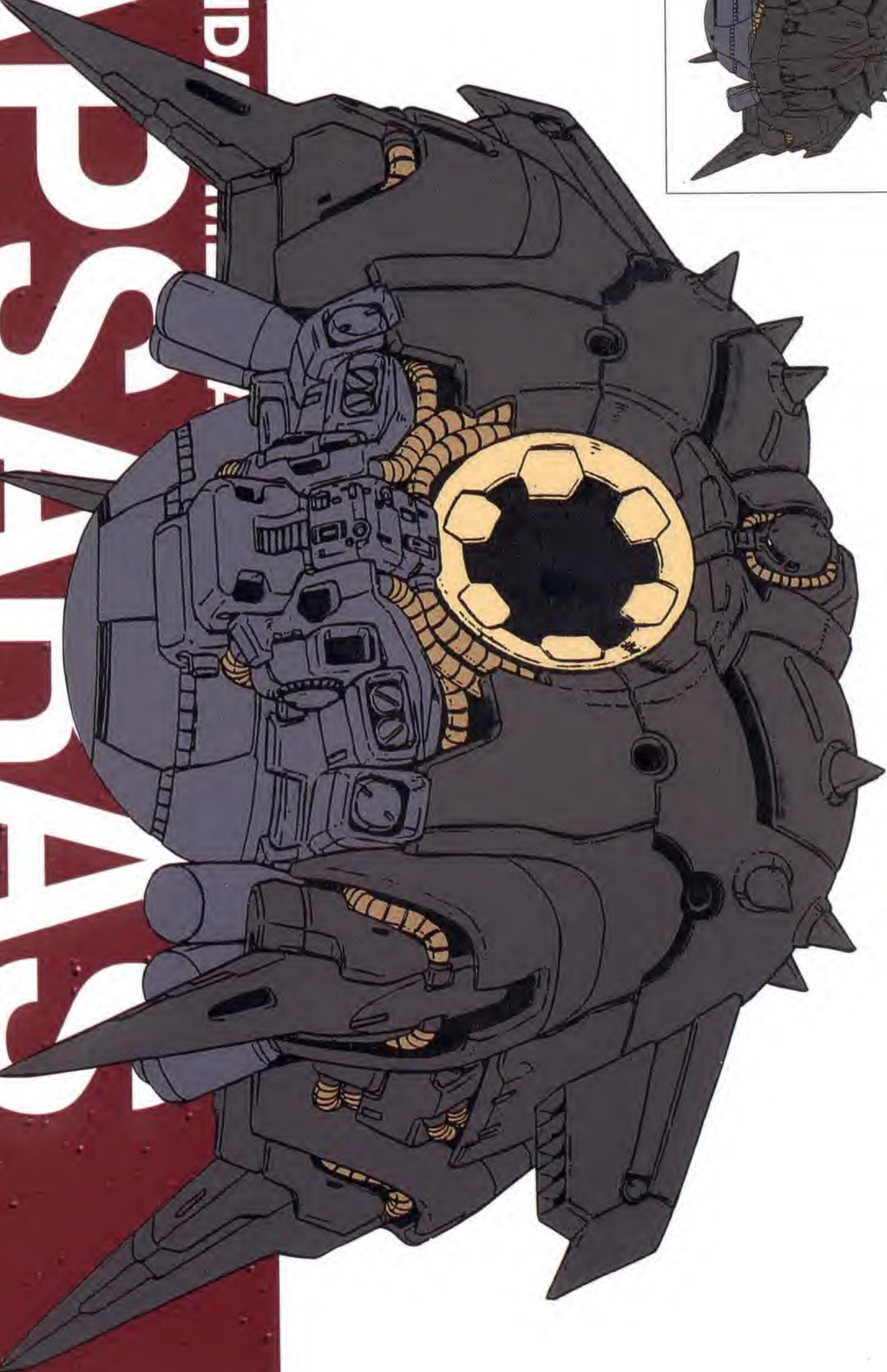
■機動戦士ガンダム20世紀

スターダストアモリー



アプサラス

GUNDAM



# APSARAS

## アプサラス

機種: 超高出動用作戦型MA

開発: シオン星

全高: 軍規高: 不明

本体: 重機重量: 不明

ジャギー: ブラスト力: 1,400kN/秒

センサー: 有効半径: 3,250m

■スペースコロニーを掩護に用意することで、既存の宇宙軍がある程度ジャギーを操作する能力をもたらすため、シオン星はジャギーを最も得意とするための計画をいくつも立てていた。彼らは「アプサラス」はそんな中でもっとも優秀性の高い作戦に手がけた機体である。

「アプサラス」が開発されたのは、ルノスキー・クラフト社が開拓しての宇宙からの運送路下でジャギー基地の一帯に近づいた、島田カムボ羅子島で基地を、それを守る強い防衛ごと実現することが可能と考案された。

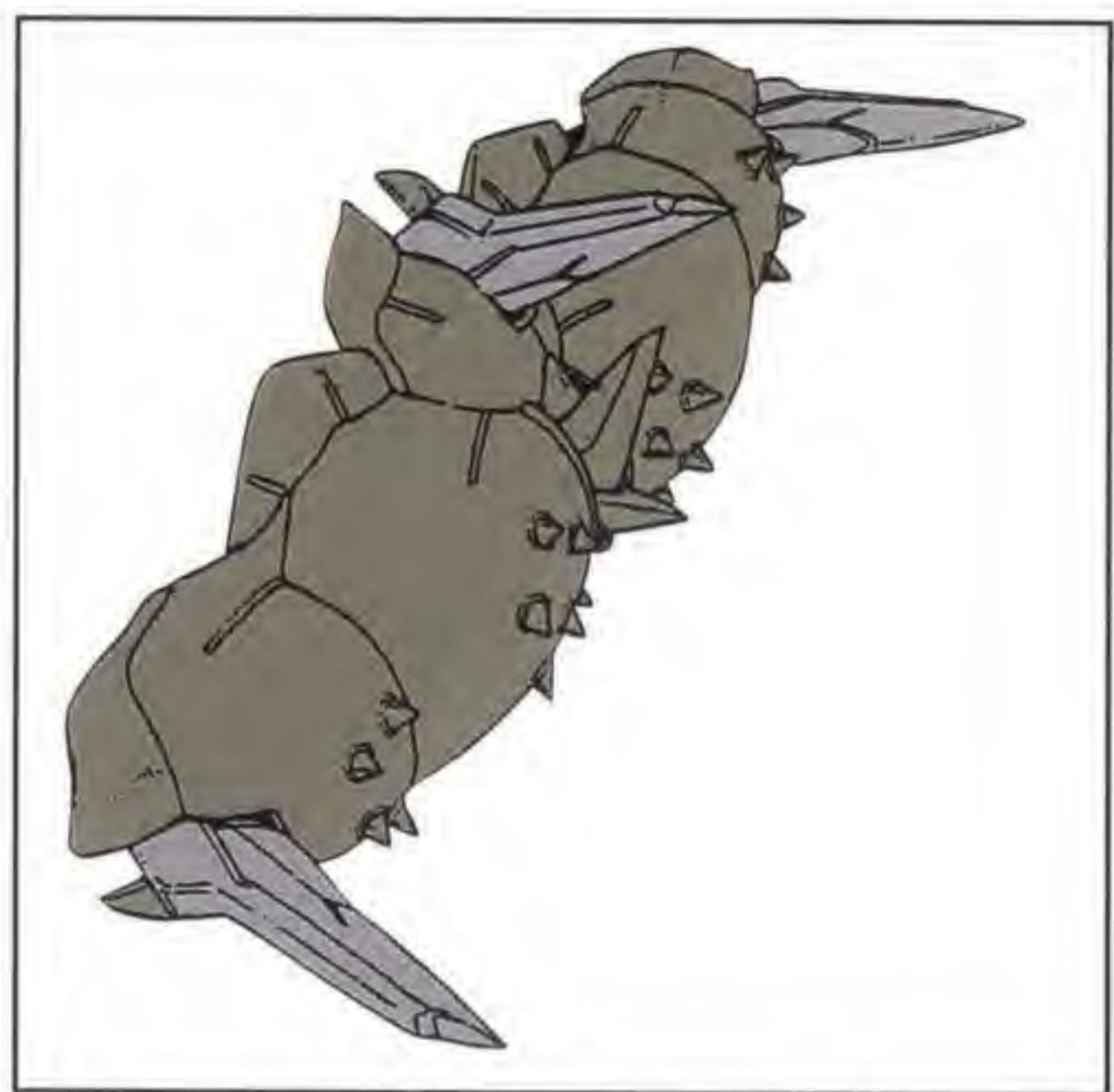
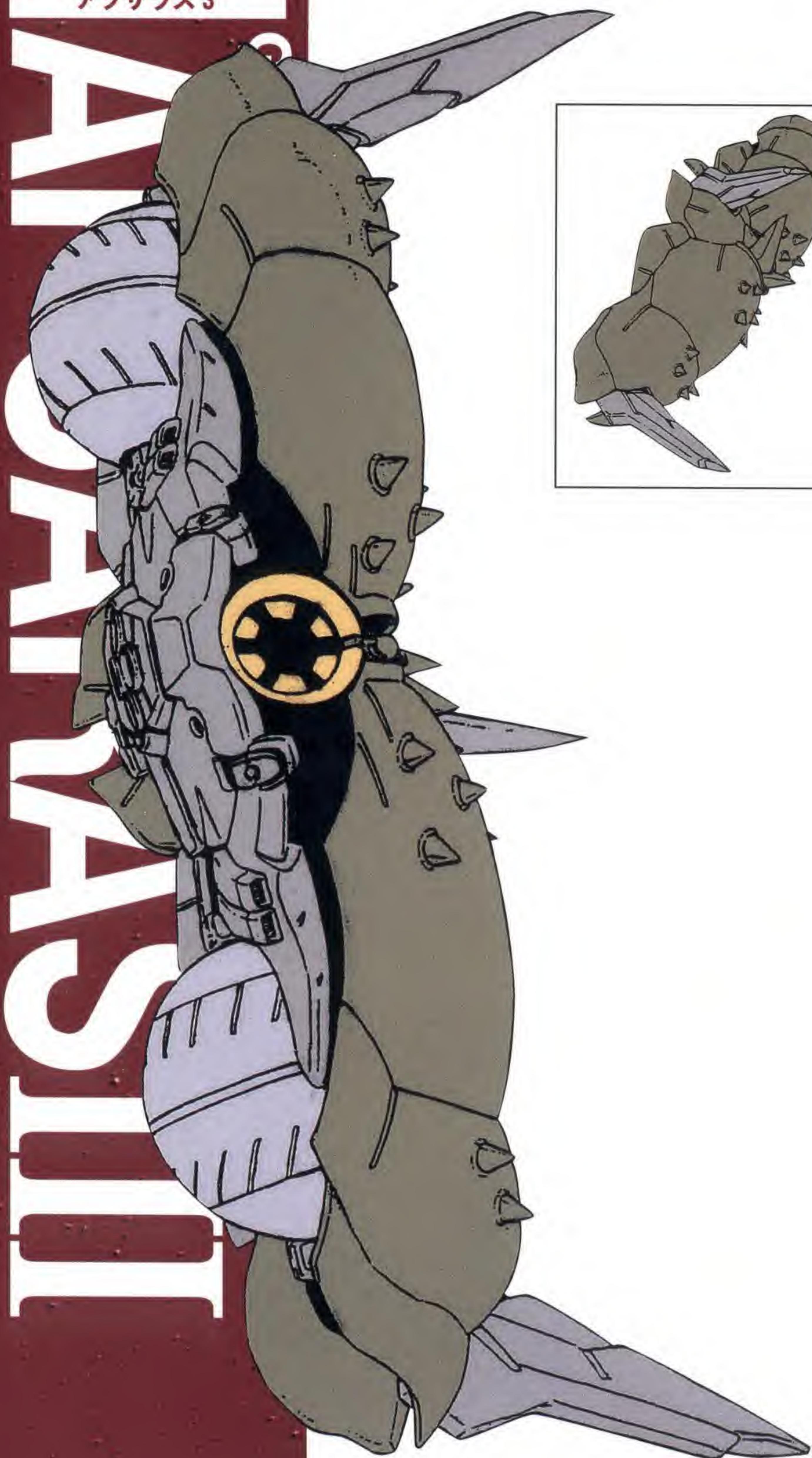
アプサラスはまず軍規格として2機が製作された。「MS-06」の改良を施し、アジアの島田開拓基地で実戦した機体の特徴をもアブソーブされ、実戦機のための重量をデータを収集するのに役立ったのである。

■機動戦士ガンダム 開拓者たち



△センサー部

アプサラス 3



# APSARAS III

## アプサラス3

機種: 高速戦闘機GAA

駆動: ジオン軍

全高: 機体高: 4.9m

全幅: 全幅高: 4.9m

ジェネレーター出力: 3,000kW程度

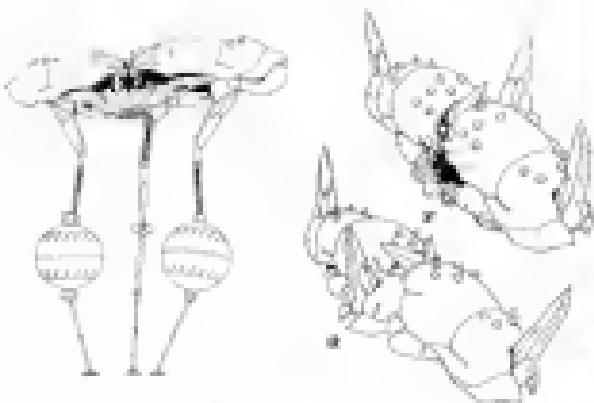
センサー有効半径: 3,200m

参考機種であるアプサラスの1号機と2号機との最大の相違点は、飛行機能に使われていたモノブリッケータクティクシステムであった。モノブリッケータクティクを利用してブレーキを発生させ、機動と爆破力を発生させシステムは電力を大量に消費するため、ジェネレーターの負担量が常に高くなっていたのである。しかし、完成機である3号機では機体の変更を経たため、モノブリッケータクティクシステムが2基搭載される予定となっていた。結局MS-06Fのジェネレーター3基を運用することで問題を抱いた1号機は退役され、1号機と2号機の記録取りに使われた2号機のデータをもとに完成した。しかし、頭下げた機体における号機がジャブローの空に浮かぶことはなかったのである。

機動戦士ガンダム 開拓MS小隊



メカニズム

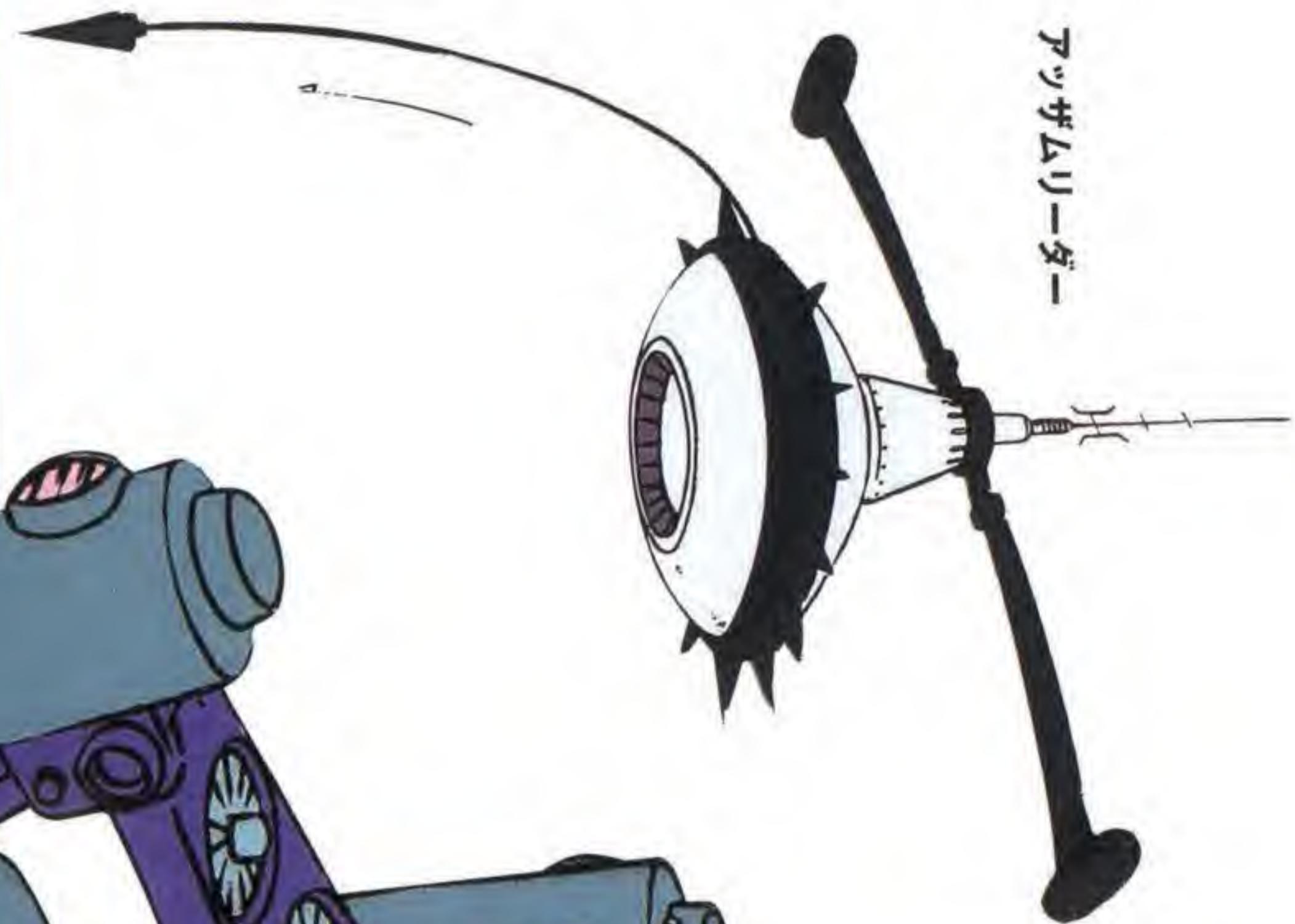


アッザム

GUNDAM

MANICS

OGA



アッザムリード

# MAX-03

## アッサム

機械分類：機動戦闘機M

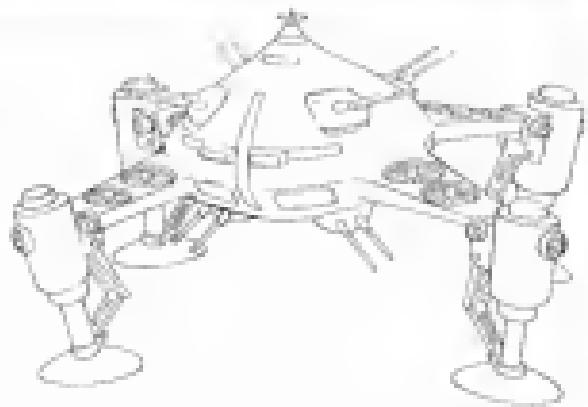
開発：ジョン軍クラナダ工廠

全高：25.0m

本体重量：不明

ジェネレーター出力：不明

スラスター推進力：不明



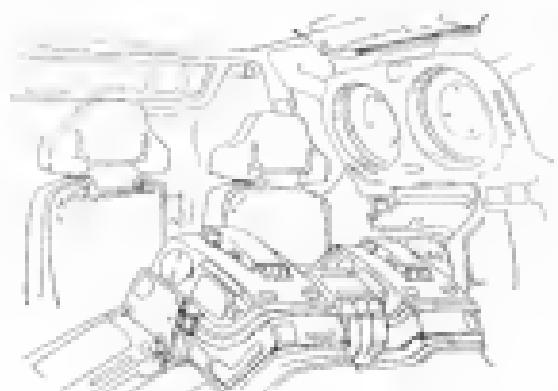
看起来似乎也是試験的に装備された地上用モビルアーマー。飛行上「MAX」に登場されているが、月面で使用されている原動式飛行機体飛行用機「飛行アルナランク」を地上用に改進しただけに手書き、原動機部の線を引いていない。

ジョン軍ではまだ試験段階にあって「スノウスキー・クラフ」試験機が登場されており、短時間ではあるが浮遊移動飛行を行なうことができた。

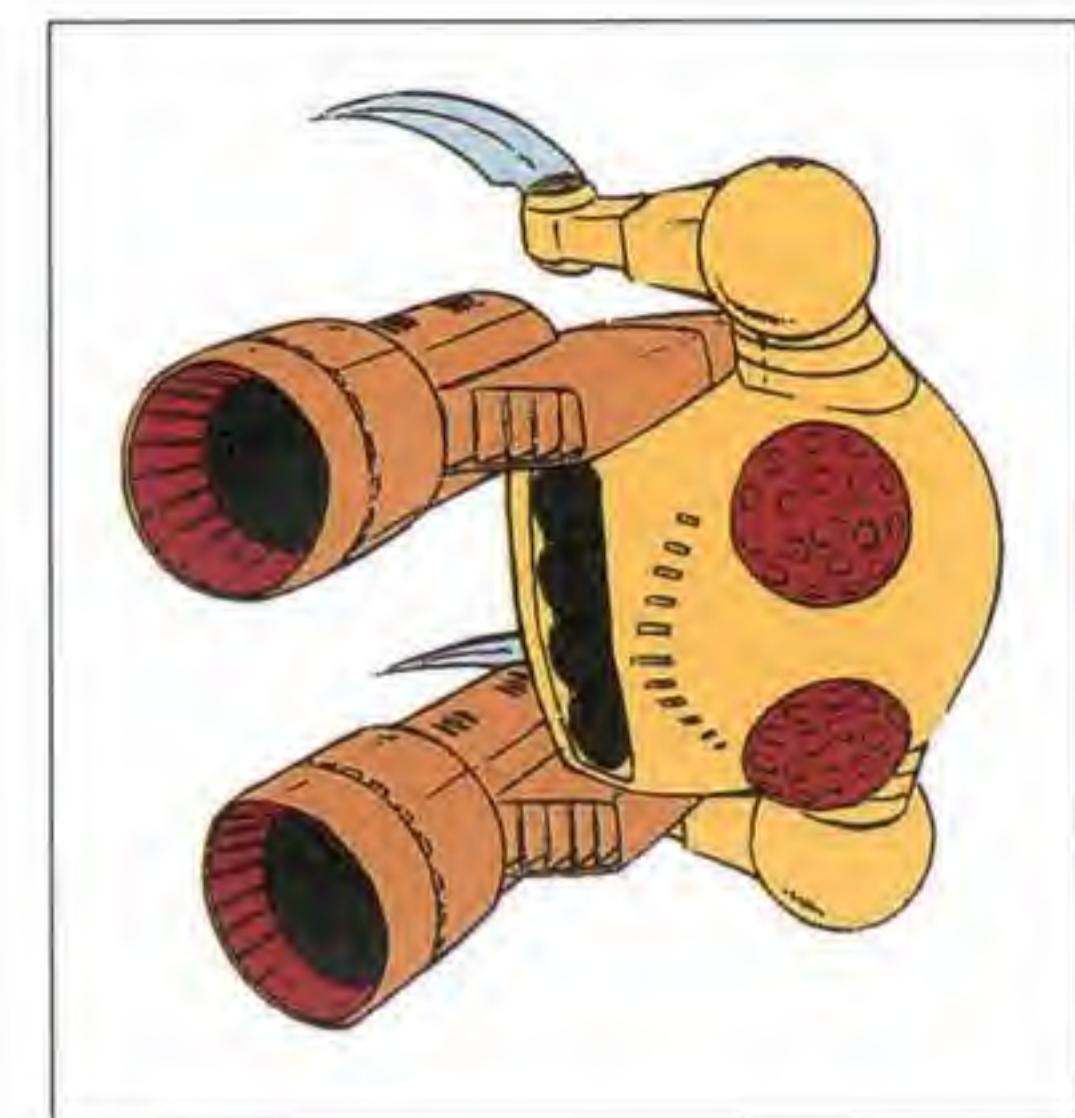
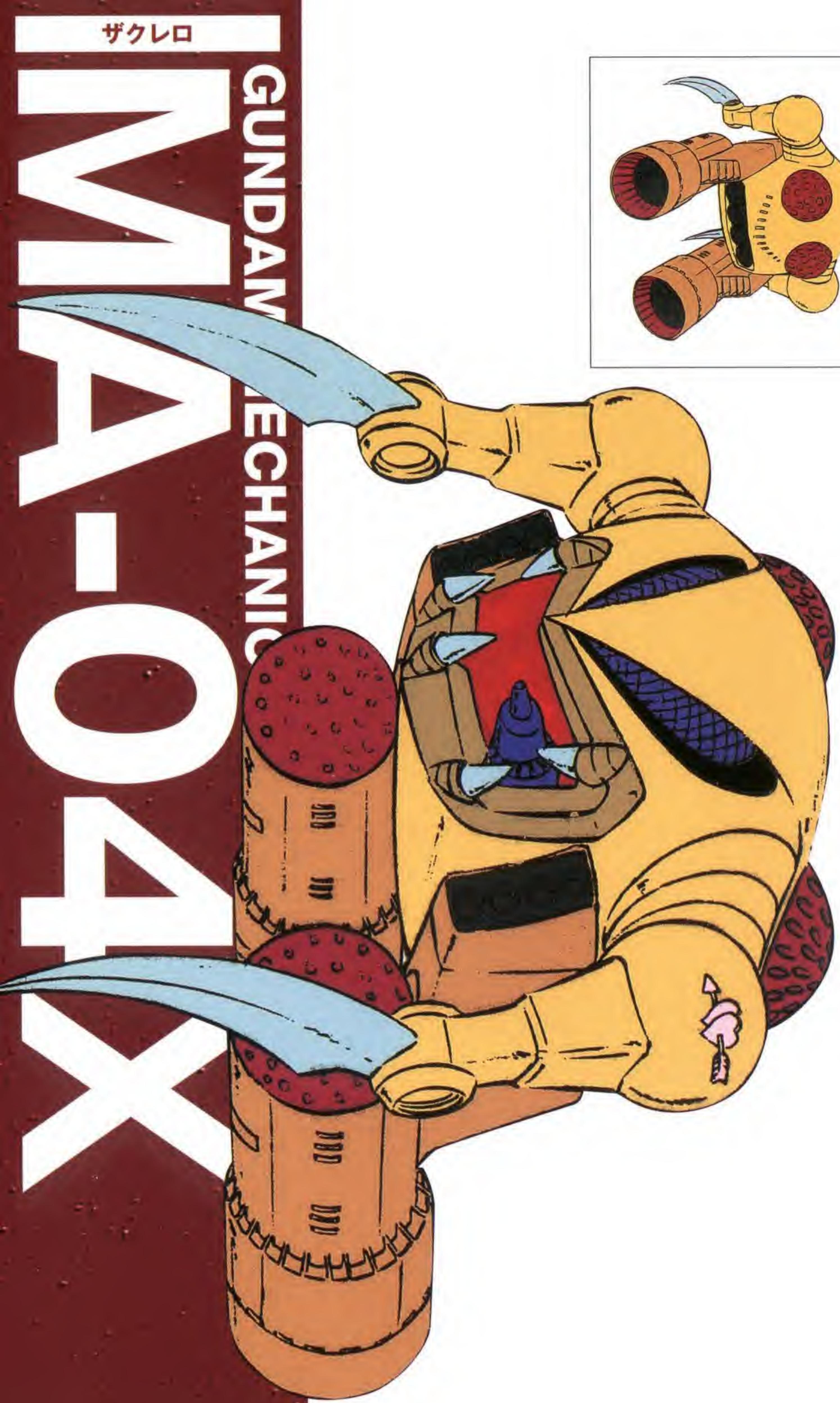
試験としての基の構造は飛行機及び、飛行戦闘アッサムリーダーを基準している。アッサムリーダーは強力な電磁波を放射し、地図の電子魔術にアーチャーを導く武器である。本体は通常ながら地上戦機を攻撃するためのものだが、MSHに搭載しても問題ないだったようだ。

このアッサムは実験的にマークへの移行着陸に配備されている。

機動戦闘士ガングム(TV版)



ザクレロ



# MA-04X

## ザクレロ

機種名稱：試作MA

製造：MMF社

全高：不明

重作：全體重量：不明

ジェネレーター能力：不明

スラスター推進力：不明

センサー探査半径：不明

最初期に開発された試作モビルアーマー「MA-01」の内部構造。

MAの汎用性+派生性という開発コンセプトに則り、MAの開発コンセプトは機動性+強襲性、つまり「高い運動力を誇った高速・高強度の機動兵器」である。

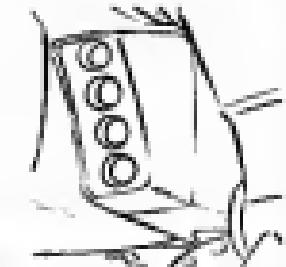
このザクレロは、その開発コンセプトどおりに造られた機体で、高いジェネレータ出力を持ち、高出力の範囲ビーム砲を装備する。大威力のスラスターから飛出される推進力は申し分ないが、走行能力にも運動性が高く、走行運動能力がいたじり出して居る。

試作ザクレロは、現が試作されただけで、量産はされなかった。

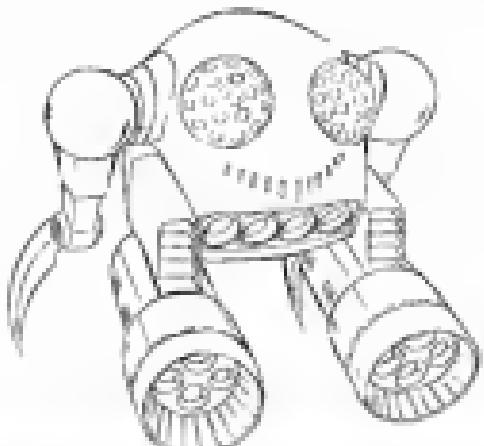
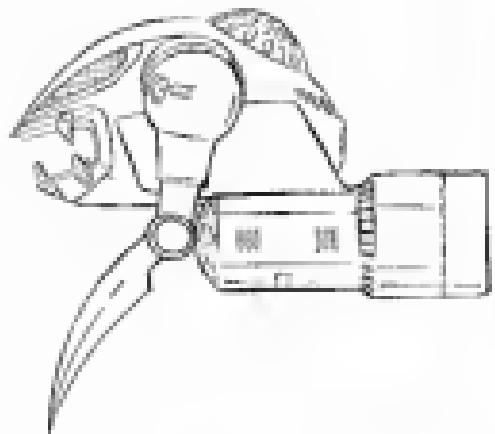
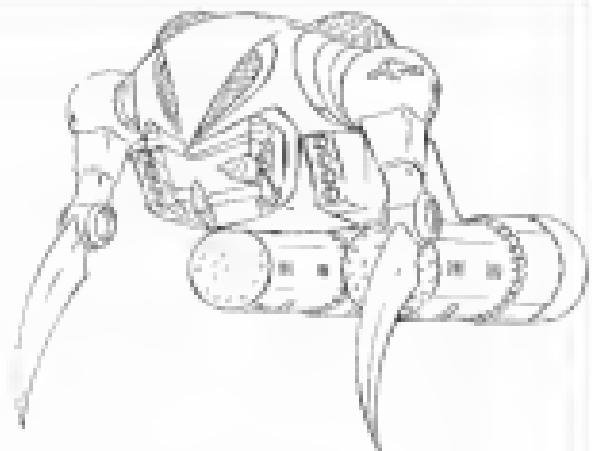
## 機動戦士ガンダム(TV版)



機動ビーム銃



肩サイドランチャー



ヴァル・ヴァロ

GUNDAM MECH



# MA-06

## ヴァル・ヴァロ

機種分類：宇宙戦闘機M6

製造：ジョンガラナダ工場

全高：全高：80.0 × 22.5m

本体：全重重量：264.1 / 379.8t

ジェネレータ出力：26.030kw

スラスター推進力：720.000kg

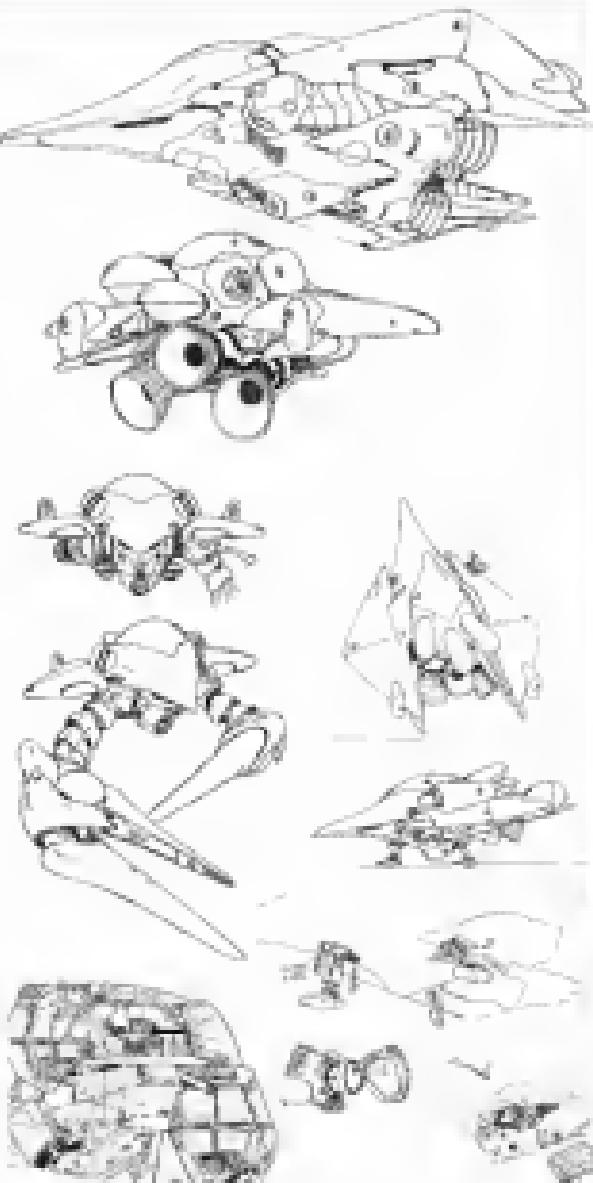
最大飛行距離：ジョン軍が開拓したMA。基本的に10[ムルタヌ]グロ]の飛行距離である。

MA-06では船形改修に主張がおかれていたが、このヴァル・ヴァロは封M6 戦闘も考慮に入れて開発されている。機体後部に装備されたプラズマリーダーは「MAX-06アップグレード」に装備されいたアドミルリーダーの発展型で、機体から射出された爆発弾を近くで強力な電磁波を発射し、MAの電子装置にダメージを与える兵器である。同時にも大型火薬砲サビームガン、熱兵器用のクローアームなどを装備し、総合戦ではMA-06をはじめとする上級機種を持つ。

大規模戦闘に適応したため、搭載までにホールドアウトしたのは、わずか数機にすぎない。

■機動戦士ガンダム0083

スターダストメモリー



ミサイルポッド プラズマリーダー



110mm/54-ガン砲



断面ビームガン



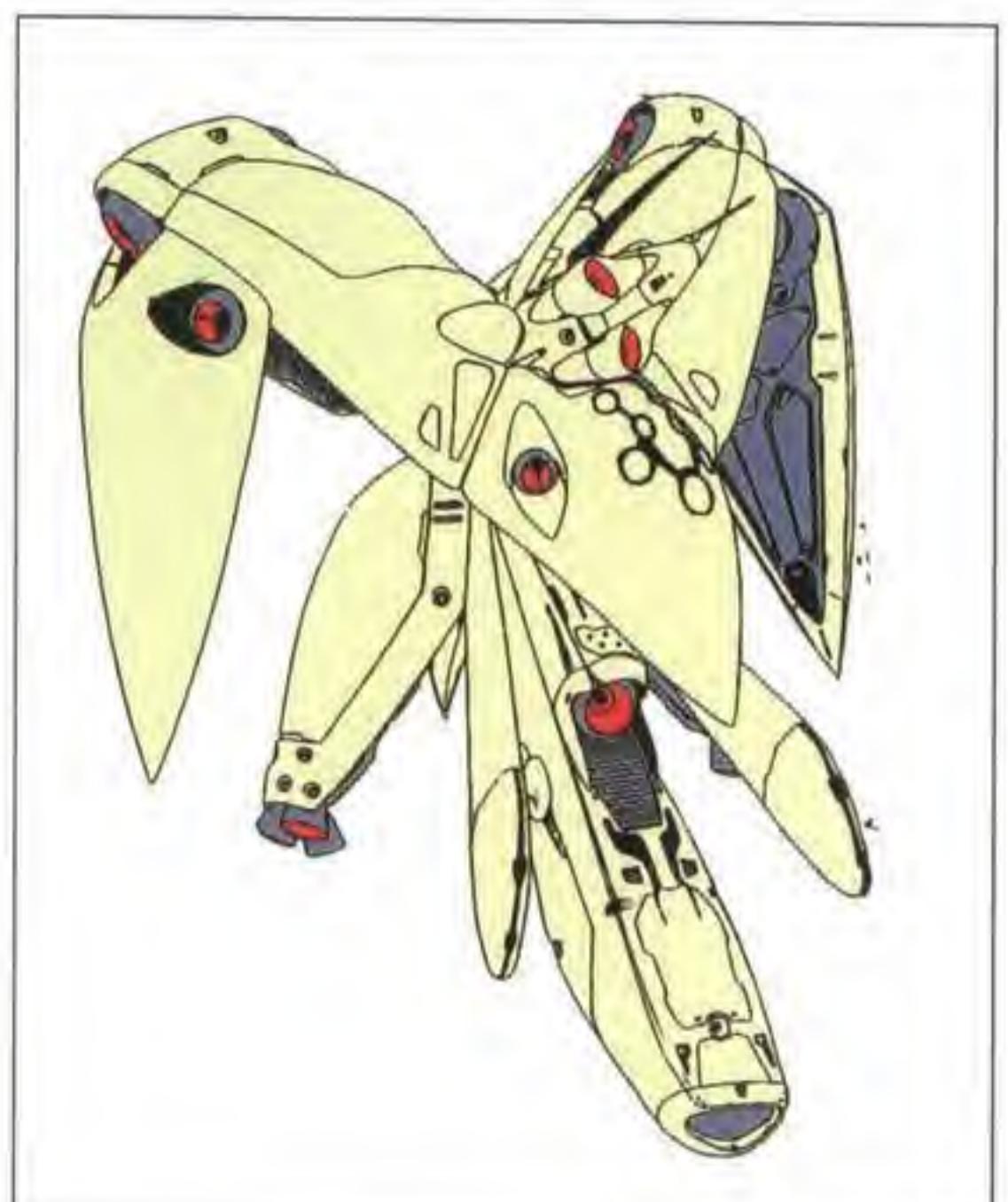
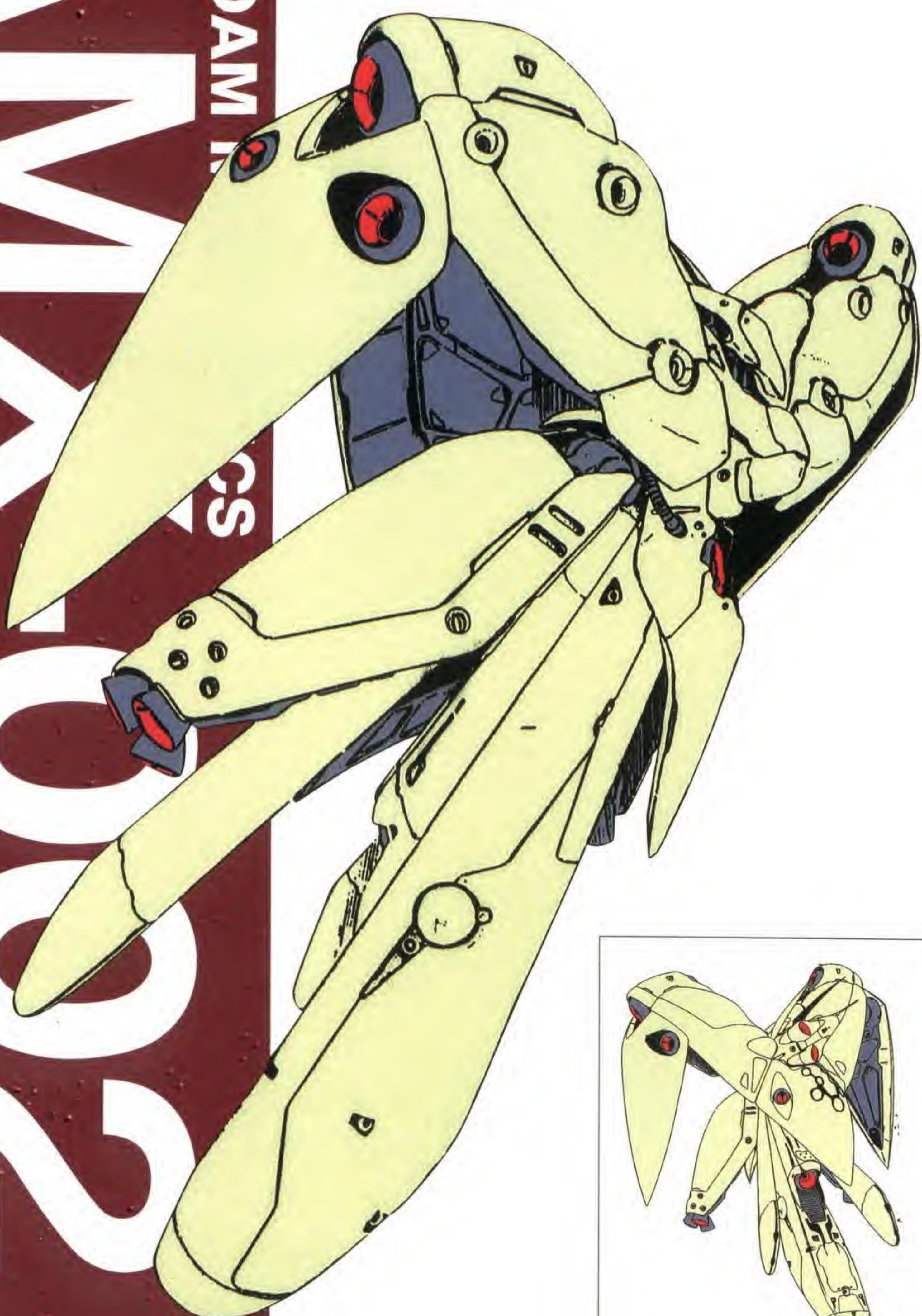
光刃手刀

ノイエ・ジール

GUNDAM

CS

DA  
C  
N



# AMX-002

## ノイエ・ジール

機種分類：試作MA

駆逐：アクシス

重量：76.8t

素體：全機重量：120.2t / 403.5t

ジェネネレータ出力：75,000kW

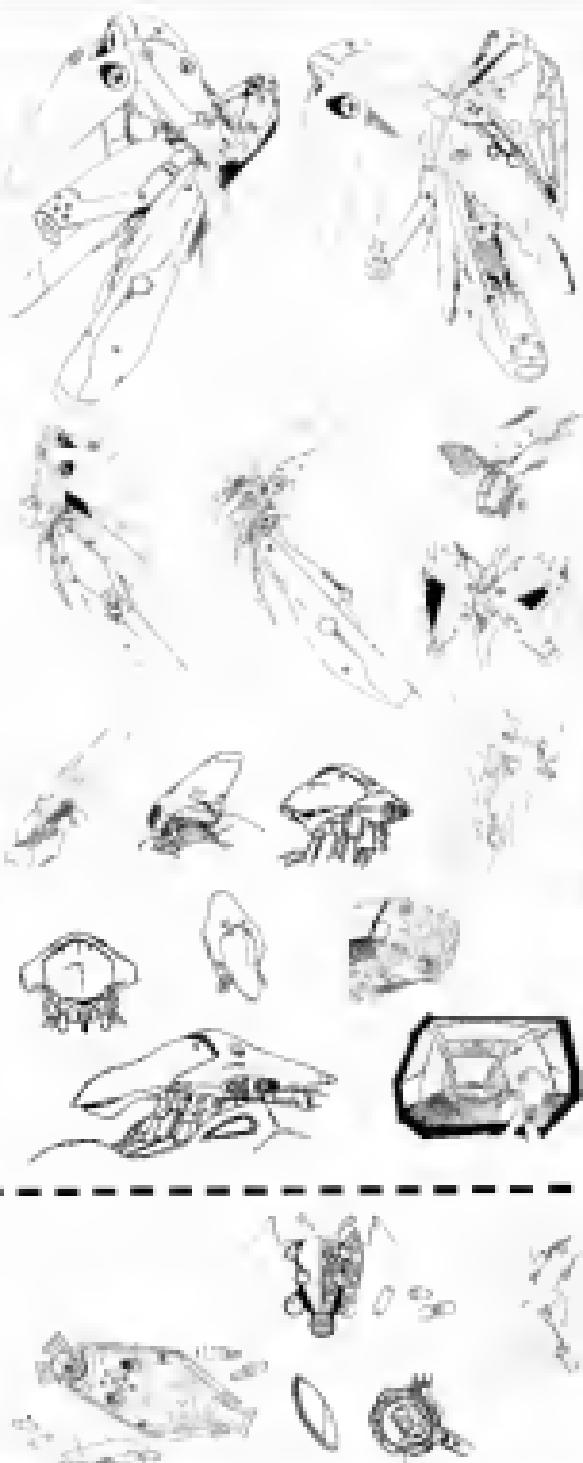
スラスター出力：1,936,000kN

■ノイエ・ジールのアクシス軍によって  
開発された試作MA。

一年戦争当時から駆逐計画は存在  
しており、小惑星アングストに進むのを防  
ぐリオン軍の技術者達が手によって開  
発された。機体は高機動の駆逐兵器で  
ある。大出力のジェネレータを搭載し、  
機体表面に太陽粒子砲を装備する。ラ  
ウアームは高爆弾砲が可選であり、コ  
ンピュータには水平自動コントロールで、  
ニュータイプ以外でもオーバーレンジ攻撃  
を行なうことができる。また、他の機体に  
は、ドフィルドジェネレータが装備されて  
おり、対ビームバークによるビーム攻撃  
の無効化も実現している。

ノイエ・ジールはテラース戦争の際に、アグンス先進武器の手によってドフ  
ース・フリードに隠滅されている。

■駆逐士官ガンダム200番  
スクーデストモモリー



ドップ



ガルマ・ザビ専用機



# DOPP

ドップ

機種分類：小型戦闘機

速度：400km/h

全長：全幅：9.2m/12.1m

全備重量：5.2t

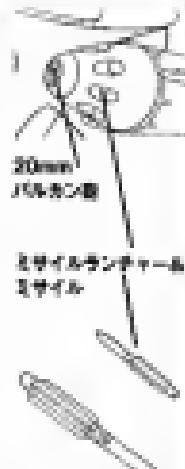
乗員：1名

● フォン軍が開発した大型戦闘機の小型版。

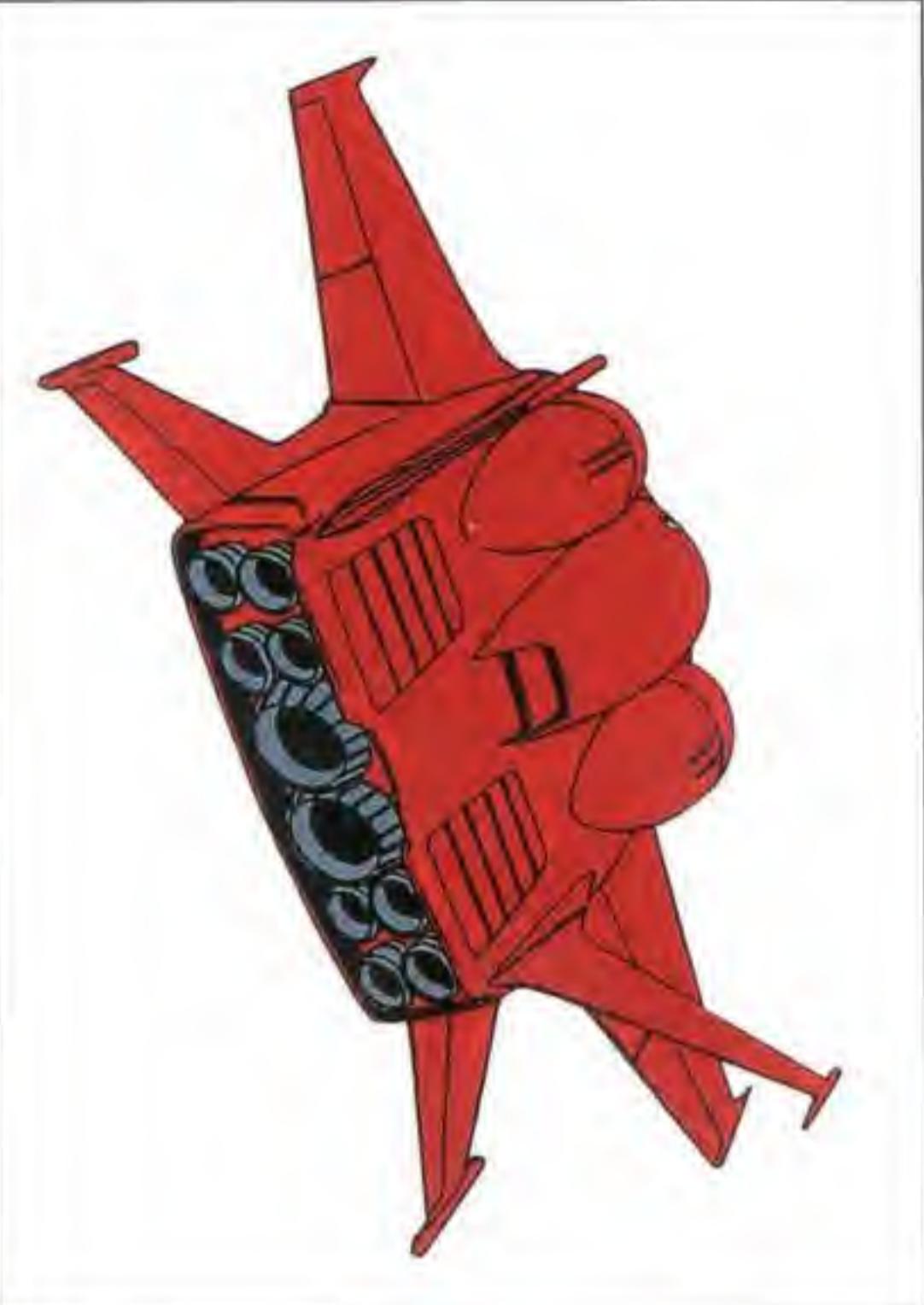
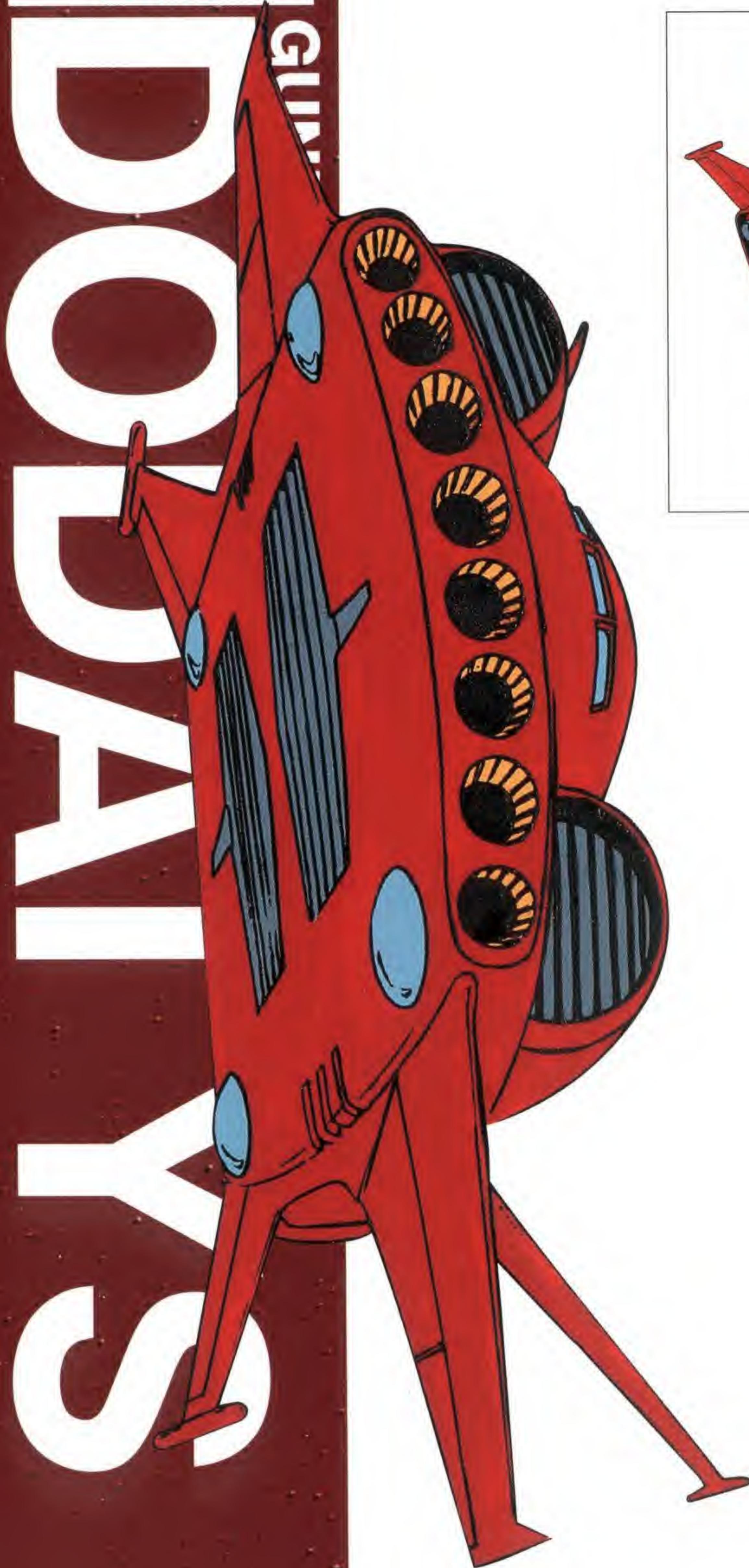
コロニー開拓であるフォン軍は「速」というものが求めない。そのため航続時間が長く、その機体は「ウツウツ」が特徴だった。しかし、爆撃機攻を考え方の場合、航続能力の弱さは致命的欠点であり、結局は過るごとにできない問題だった。これに対して開拓されながらDOPPは、航続能力の弱さを克服する手段としてハーニーによって開拓に適した、高い機動性を実現させた。その結果、開拓が遅く最終開拓まで100年かかった。

爆撃機専用ガンダム

爆撃機専用ガンダム 第305M5小隊



ドダイYS



# DODAI YS

ドダイ YS

機種分類：爆撃機

乗員：空

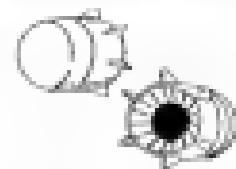


●「オノ軍の爆撃機で、機体先端に多門の射撃ミサイル発射管を持つ、近接ミサイル以外の武器はない。

「ドダイ YS」は機体サイズに比べ、力量で強力が大柄。ジェットエンジンを搭載している。そのため、機動性も機体上面に搭載で航続距離と飛行能力も強大であった。機体に搭載する機銃は射撃方向上を回らざるを得ない。そのため、正面に機銃を配置したあと、機上の攻撃ノードを飛行が行ない、ドダイ YSは空からそれを走査するという戦法が考案された。

一年前を機頭 M62との合戦におけるドダイ YSは高い結果を上げ、以後 M62をサブ・フライト・システムに選せるという結果となりとされるようになった。

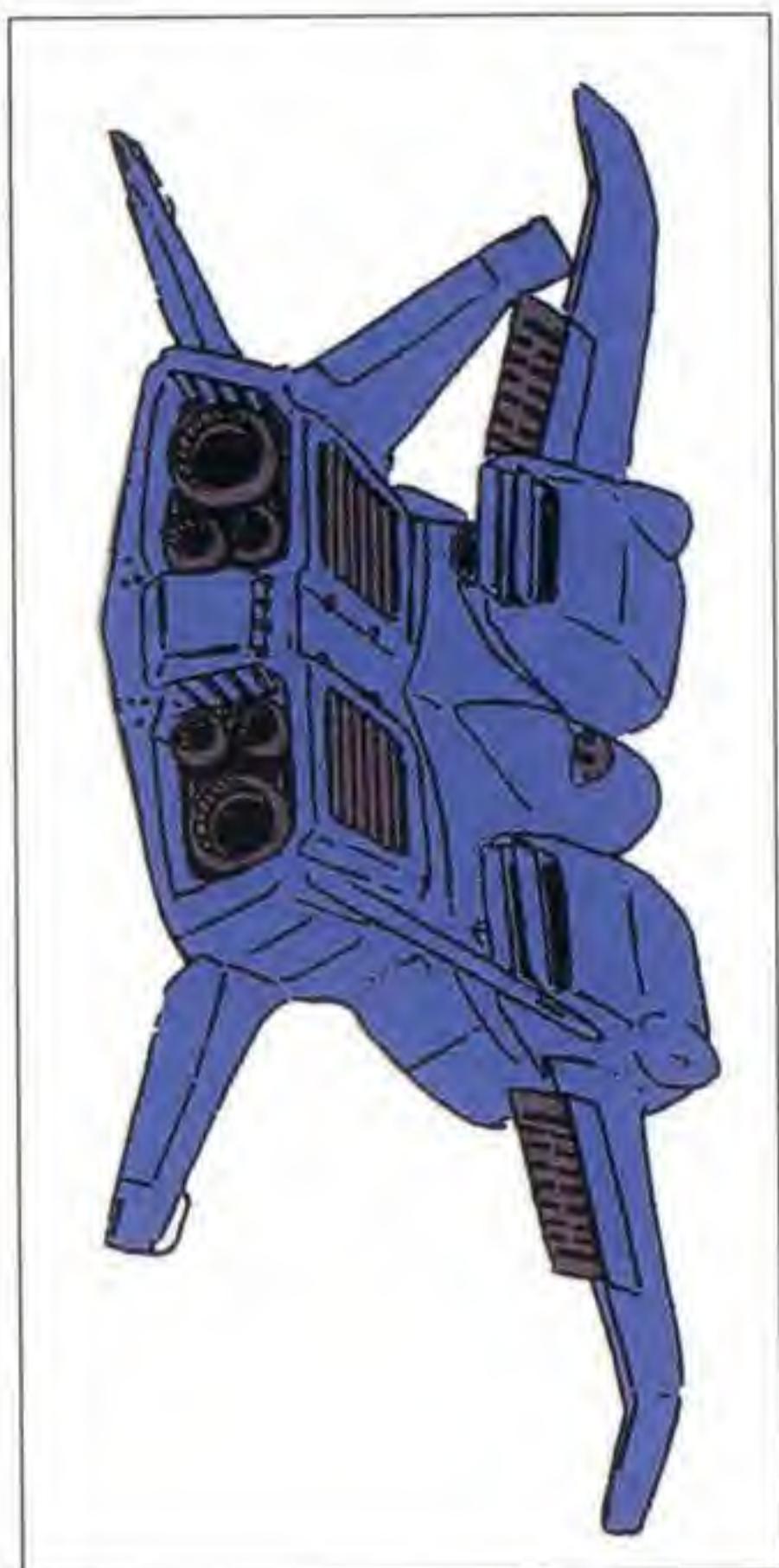
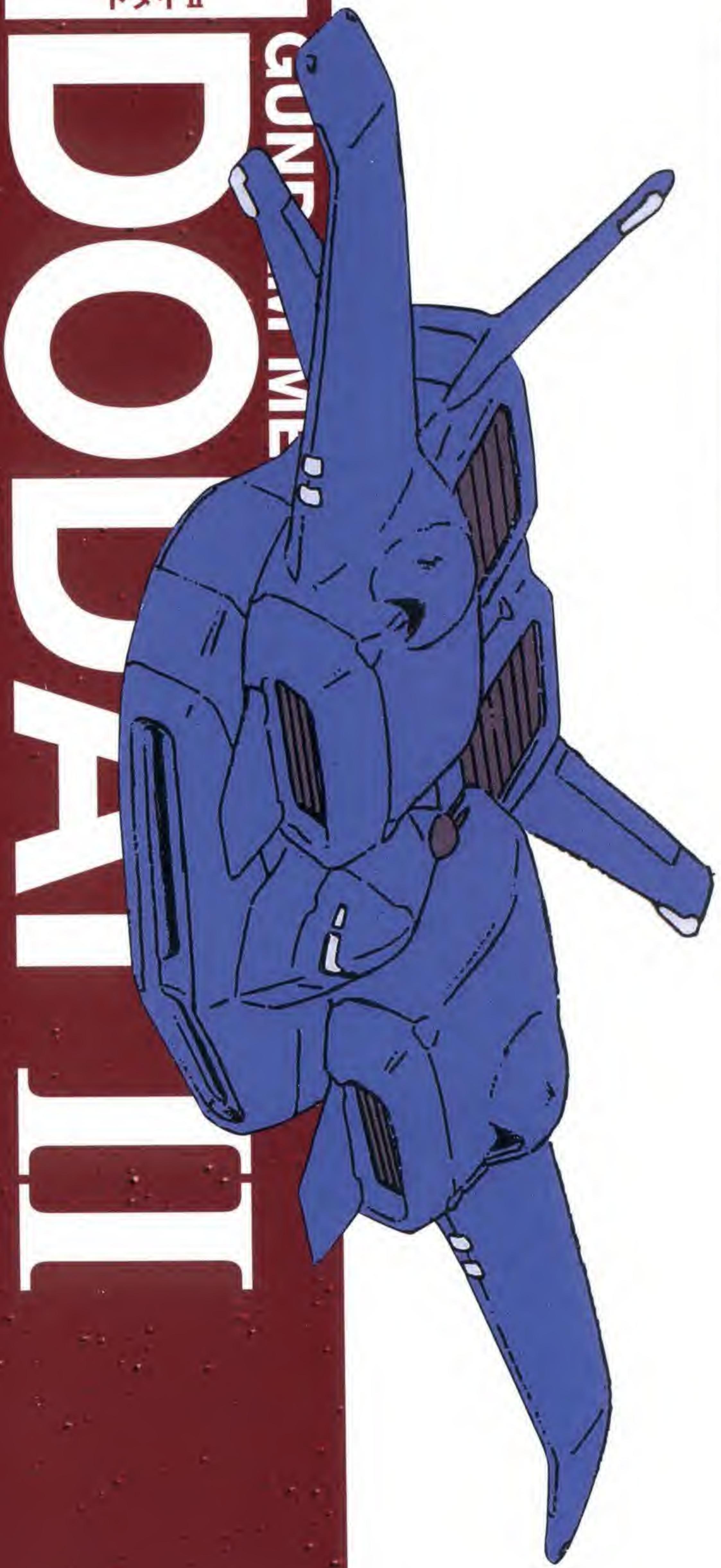
## ■爆撃機士ガンドム



●頭とサイドランチャーミミサイル



ドダイII

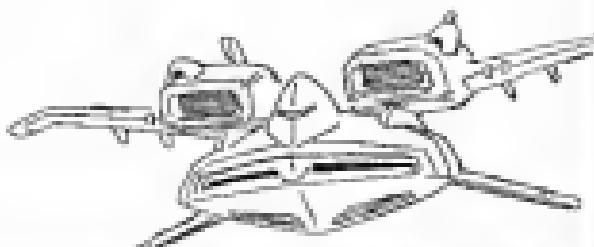
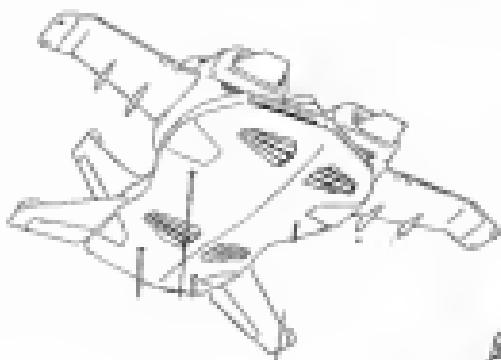
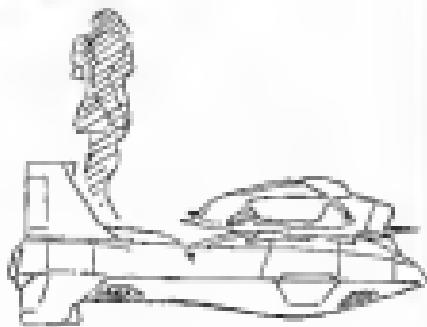
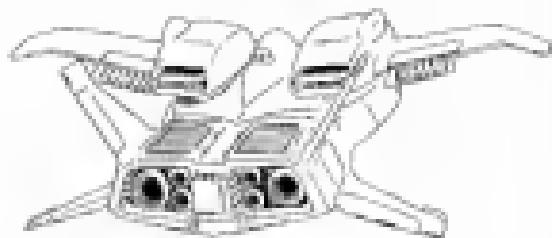


# DODAI II

ドダイⅡ

機械名前：機甲機

乗員：2名



基本思想甲板であったドダイであるが、一年戦争後期にはMS機動戦闘としての運用のほうが多くなっていた『ドダイⅡ』は、船との連携を前提として再設計されたドダイの進化型である。MSを乗せた状態での戦闘のため、戦闘範囲の拡大用ランチャーを装備され、ジム、ミエンジンの数を増やすことで推進力を増している。攻撃力の低下と引き換えに、MS機動戦闘での戦闘能力を向上させたこの機体は、後のMS機動戦闘の基礎となった。

機甲機モードガンドム 第2回機甲小隊

ガトル

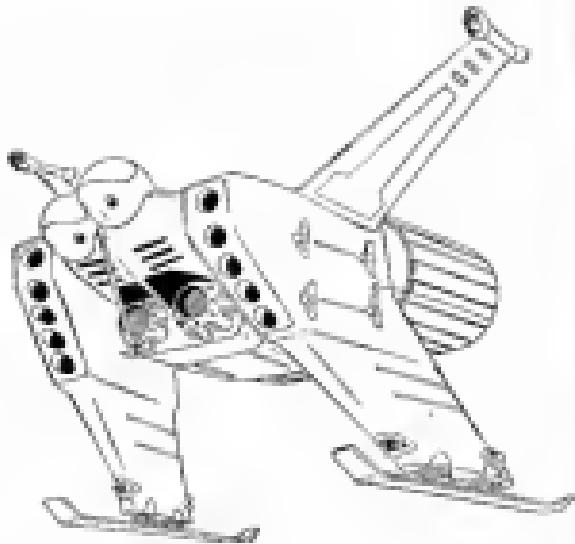


# GATTLE

## ガトル

開発会社：宇都宮機器

価格：2名

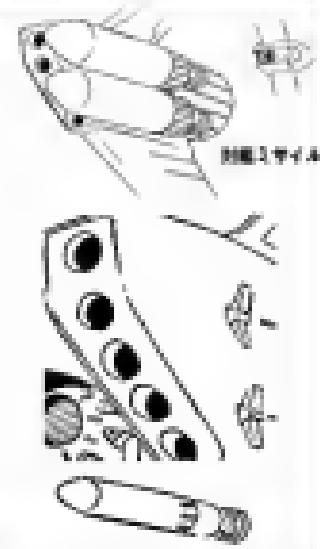


導電性の高いジオン革の宇宙服

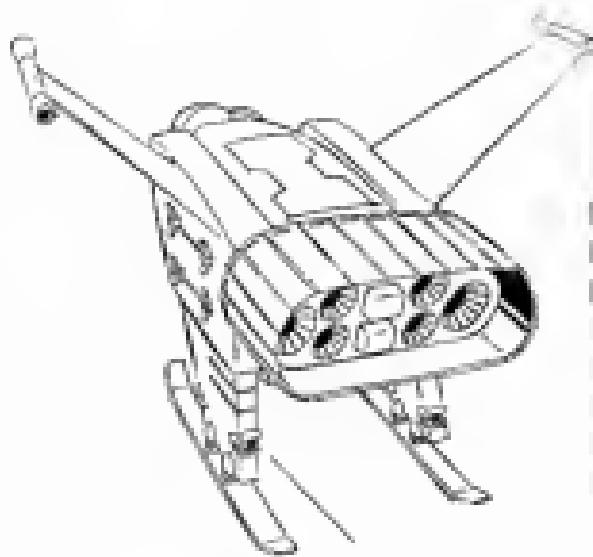
開発会社の宇都宮機器は、ガトルを販売している。これは、宇宙服として実験飛行が可能であり、パルス線も装備している。ほかに制電防爆服の大型モードを、無線同様に各機能操作することが可能である。

ガトルは宇宙服の主力機能機としてMSの開発計画から使用されており、開発過程は、数々の機種で多段のガトルがMSと並んで使用された。しかし、MSの開発過程が進んでから、ガトルは前頭から、ジオン本部やアーバニア・タービットの後方の紀内野原町に置かれることとなる。

### 開発計画ガント



モードランチャー



マゼラ・アタック

# Maze拉 アタック マニ アキ メカニク ズ

GUNDAM MECHANICS



# MAGELLA-ATTACK

## マゼラ・アタック

車種分類：主力戦車

駆動：

全長：全幅：／m

全高：全幅：1

乗員：2名

■機動性強化のためジオン軍が開発した主力戦車。

地上用駆動車輪の開拓バハハを搭載しないジオン軍は、外見、駆動力ともに姿勢を整理を作り上げた。175mm砲を搭載した場合は、両側に高い位置にあり、戦車の弱点である上面装甲を防護するため、マゼラ・アタックの面積は車体から分離して車体側面を防ぐことができた。分離装甲の面積を「マゼラ・トップ」。乗組員「マゼラ・バーベース」と呼ぶ。しかし、マゼラ・トップの面積が面積を多くし、航行半径が他の車両よりも短めに感じた。

■機動戦士ガンダム

■機動戦士ガンダム、他の機動戦車



